

第四章

部族の組織

基本的原則

オマハ族の組織は、ある種の基本となる宗教的な考えのものに基づいていた;宇宙の重大性;こうしたものはいかにして目に見えている宇宙というものが現在のようになり、そして、それがどのようにして維持されているのかということに関する意識を反映したものであった。

目に見えない、継続的な生命というものは、見えるもの、見えないものにかかわらず、あらゆるものに浸透していると信じられていた。この生命というのは、二つの方法ではっきりと現れた:それは、一つには、動かす原動力—心や体のあらゆる動き、行動というものはこの見えない生命により;そして、二番目に、岩とか、大地、山々、大平原、小川、大河、湖、動物たち、そして、人間の物理的な形、姿といったものの永遠性によるというものである。

この目に見えない生命というものは、人が彼自身のなかに自覚している意志の強さのようなものと考えられていた—その強さにより物事というものが動かされている、そういう力である。この神秘的な生命と強さを通してすべてのものがお互いに、そして、人間とかかわりを持ち、見えるものは見えないものとかがわりを持ち、死と生とがかがわりを持ち、あらゆるものの断片というものがその全体とかかわりをもっているのである。この見えない生命と力こそ **Wakon'da** と呼ばれていたものであった。(p.597 参照) それはまさしく漠然としたものではあったが、それでも、それは祈祷のなかでの献上物とか、深い思いやりとか救いを求めた祈りがなされた手段のなかに示されているように、概念的には擬人的な色合いを持っていたし、また、倫理的な側面ではある種の自然現象—昼に続いて夜がやって来るとか、夏と冬が繰り返すというような規則性(こうしたものは、人々を導く、頼りになる本質であり、あらかじめ定められた力のように、まぎれもない真実であると考えられていた。) によるものであると考えられていた—そして、**Wakon'da** による人間の一部に及ぼすある種の倫理的な行動の承認の面でもそのように考えられていた。

人間の状態は、自然の力によるものであり、男と女の力が認識されていた。上位にあるものは男性であり、下位のものとは女性的であった;したがって、太陽は父であり、大地は母であった。天界のものは性を持っているものと考えられた;太陽は男性、月は女性、そして、その結果として、昼は男性であり、夜は女性であった。こうした二つの力の合体というものが、あらゆる生命をもつものを、そして、食料を供給し続けることにより男の命を、永遠なものとする必要であると考えられていた。この生命の永続性に対する方法、ないしは、手段というのは、**Wakon'da** により司られていると信じられており、そして、も

しその部族が存続する意思があるなら、これに従わなければならないと考えられていた。人々の心の中にこうした信仰が生き延びていくために、宗教的な儀式的なかに、そして、社会的な日常生活や組織の中に、これが象徴化されていた。宇宙観とか宗教的な考えをより強いものにするこうした方法と相まって、部族は、二つの大きな集団から成り立っていた、その一つは、**Sky people** と呼ばれる、**Iṅshta'çunda** の集団であり;もう一つは、**Earth people** という、**Hoṅ'gashenu** の集団であつた。そして、こうした集団のそれぞれには、さらに、五つの血族集団を持っていた。それぞれの血族集団は、その集団に独自の印、儀式、生活の場所、タブーとすべきこと、そして、個々人の名前を持っていたが、こうした見分けとなる印というものは、この二つの大きな集団のどちらに属するものであるのかはつきりとさせるもので、ある血族集団のものであることは、このどちらかの集団、**Iṅshta'çunda**、あるいは、**Hoṅ'gashenu** の一員であることに結びついていた。

こうした集団は、それぞれの集団が血縁関係でつながっているというようなものではなく、この世の創造がどのようになされたのか、そして、生命というものがこの大地で継続してゆかなければならないというような神話的な考え方を基盤としていたもので、部族の下位区分というのではなかった。神話というものは、人間というものが、**Sky people** と **Earth people** との間での融合により生まれたものであるということに関係していた;そで、こうした信仰により、**Sky people** と **Earth people** の融合というものが、部族の存在にとってなくてはならないものだと考えられた。部族を **Iṅshta'çunda**、と **Hoṅ'gashenu** に分けるということは、物質的な意味合いもあるという教えが年寄りたちの間にあった—こうしたふたつの集団はそれぞれ神話的な象徴となるものを裏付けているという教えであつた。この象徴的な取り決めというものが、部外結婚を人為的に進めている原動力に光を当てることを可能にしている。こうした結びつきを考えると、25年ほど前にオマハ族に存在していた結婚というものは、こうした大きく分かれた分族の片方よりも、双方に属している血族集団の間での結縁を表しているものが主流であつたということは非常に興味深いものがある。そして、かつての部族社会というものが崩壊していく中で、この部族外の結婚というものが現在もなお実際に執り行われているということは極めて重要なことである。手短かにいうなれば、すべての状況というものが、こうした習慣というものは基本的な宗教的考え方に基づいているのだということを示しているように思われる。

部族の組織における二重性というものは、二人の主酋長、その一人は **Iṅshta'çunda**、を基盤とするものであり、もう一人は **Hoṅ'gashenu**、を代表するものであつたが、こうしたことによってもさらに良く表されている。そして、二つの部族のパイプというものがあつた。これらは、いつも一緒に保管され、そして、どんな儀式で使われるときにも独立して使われるようなことはなかったが。それらは、ともに平たい軸をしていた;一本にはヤマアラシのとげの飾りがついており、そこには、カンムリキツツキの頭が、ちょうど鳥の胸に折りたたまれるような形になった上くちばしでしっかりと結びつけられていた。もう一つの場合パイプの軸は平凡ではあつたが、一列に七羽のキツツキの頭が、ちょうど上に述べた

ような形で一列に並べられ結ばれていた。こうしたパイプが、部族の二つの分族集団がよりどころとしていた基本的な考え方に関係していたということは必ずしもなきにしもあらずである;しかし、どちらが **Sky people** に属していて、それが男性的なものであり、そして、どちらが **Earthe people** のもので、それが女性的なものであったかは伺い知ることはできなかった。

血族集団^aというのは、オマハ族の言葉では、*toⁿ'woⁿgthoⁿ*、“村”と呼ばれていた。これと同じ言葉が、部族のものすべてが住んでいる村を表すときにも使われていた。

オマハ族のものが、白人たちの村や町を訪れたときに、やはり彼らはこうした入植地のことを同じような言葉で表現していた。**St. Louis** や **Washington** も *toⁿ'woⁿgthoⁿ*、と呼ばれていた。血族集団を、部族がその流れの名前を強調しているような村と区別するようなことが述べられていた。血族集団が話になるとときには、*toⁿ'woⁿgthoⁿ*という言葉に付け加えて、*uba'noⁿ*、これは、ある場所を与えられた種族の集団を意味する言葉であるが、この言葉が使われていた。相互の関係についての考え方は直接的には述べられていないが、“村”という言葉に付け加えて使われていた *uba'noⁿ* というのは、お互いに結婚をすることが禁じられていたある血族集団の村であることを指していたものと理解されている。

オマハ族に対して与えられる、そして、言葉として表される“あなたはどの血族集団の人ですか?”と質問することは、“そこにはさまざまな(たくさんの)村(部族の)がありますか?(場所がありますか?)”という意味であった。もし、その質問をする人がオマハ族、ないしは、ポンカ族に属していたのなら、彼は、その血族集団の名前を知り、そして、こんな風に答えたであろう:“**Tapa'**これが私のいるところさ”、つまり、“私は、**Tapa'**という血族集団のものさ。”と。しかし、もし、この問いがよそ者、別の部族の者からされたものであれば、オマハ族の血族集団の名前は分からないので、その答えは質問されたその人の血族集団が持っている宗教的な儀式(タブー)の象徴となるものを示していたのであろう。そして、彼はこんな風に言っていたのではないか:“私はバッファローの人間さ”、あるいは、“エルクの人間です。”という具合に。こうした返事では、その人が自分自身のことをバッファローとかエルクだと思っている、あるいは、そうしたものの子孫だと思っているという意味だと理解されることはなかったが、しかし、そうした動物が象徴として使われている儀式の任務を負っている集団に属していることは分かった。このような形で話さ

^a この言葉は、結縁集団の子孫をたどるときに、母方よりも父方の血筋を使って表す時に使われている。

れる儀式は、Ni'kie^a として明確にされており、そして、そこでは、ある儀式のなかで任務を果たす人たちはその儀式を取り持つ役割を担っている特別な血族集団に属する者に限られてはいたが、すべての人たちがそこで自分たちの意見を主張することはできた。

儀式の象徴となるものの面倒を見たり、儀式に使われる道具一式、そして、いうなれば、それを取り仕切る僧侶としての行動は、Ni'kie の儀式を行う任務を負った血族集団の義務であった;しかし、その儀式のなかで、任務の一部を果たすという主張は、部族の人々はものをいう権利と、そして、利権を分かち合う権利を持っていたので、その儀式を執り行う特定の血族集団に限られていたというものではなかった。

それぞれの血族集団は、独自の名前を持っていた。その多くの名前は、すでに述べてきたように、オマハ族と同語系のある一つの部族というよりもっとたくさんの部族のなかに見られた。こうした重複した名前というのは現在の組織のなかの血族集団の名前ともなっており、オマハぞくやそのほかの同語族系の部族が、異なる部族として社会を形成する時には、その古い血族集団の名残というのがお互いにしっかりと結びつき、そして、その古い儀式と名前を保ってきた。しかしながら、オマハ族の血族集団は決して単純なものではなく、ときにより *ton'wongthor^ozhing^a*、“小さな村”、もしくは、*ton'wongthor^ouga'cne, uga'cne* というのは、“分裂した”という意味、と呼ばれた準血族集団、あるいは、準集団、これは、分裂したあとも元の主集団とともに一緒にいたが、とにかく別の集団を形成していたことを意味しているのであるが、といったものからなるものの混成したものであった。それぞれの準血族集団は、自分たち自身の名前、宗教、これは Ni'kie クラスの者であった、その中で果たす個々人の一連の名前、そして、タブー、その血族集団が部族のほかのものたちとともにキャンプをする時、儀式のなかで占める場所というものを持っていた。準集団のほうは、その彼らが属する血族集団についてくる儀式のなかでの特別な役割は持っていなかったが、彼ら独自の明確な儀式を持っていないということでこの準血族集団とは異なっていた。準集団には、儀式の中での義務に伴うタブー、そして、役割の個々人の名前はもってはいったが、しかし、それは、通常の儀式の形で血族集団に結びついたものであり、血族集団のタブーを見ることができた。血族集団のなかでのこうした準血族集団や準集団の数は、必ずしも一義的ではなかったようである。一つの血族集団の中でのこうした準血族集団同士の間での通常の結びつきは、完全に父型の血筋で繋がった血族の繋がりであった。血族集団のなかでの準血族集団、あるいは、準集団のなかの一員同士の婚姻というのは認められていなかった。どこに自分が属しているのか尋ねられてとき、彼は、自分が生まれた準血

a Ni'kie という言葉は、*ni'k* (*ni'kashiga* “人々”; *ie*, “言葉、あるいは、話”) という言葉から成り立っている。*ni'kashiga* という言葉もやはり *ni'kagahi*, “子供” (*ga'he*, “投げかける”) — 文字通り、“人々が投げかけた人たち、” あるいは、“人々を持ち運ぶ人たち” の意味である。Ni'kie は人々により、あるいは、ある特定の人と認知された子供により宣言されたものを表わしている。

族集団の名前は言わず、彼の生まれた集団の名前が部分的に含まれて血族集団の名前を答えていた。そして、もっと明確な情報が必要なときには、その時には、彼は、彼の準血族集団、もしくは、準集団の名前を明らかにしていた。血族集団の名前というのは、準血族集団、もしくは、準集団よりも重要なものと、そして、それら全部を包括するものと考えられていたし、ましてや、部族というものはすべての血族集団を含む、一体のものとして成り立っているものと考えられていた。

部族の中には10ほどの血族集団があった。オマハ族の言葉で部族というのはすでに述べたように (p.35) *uki'te* と言われた。この言葉は、部族全体が儀礼的にキャンプをする時の形態とか序列を規定する時に使われる *hu'thuga* という言葉、これによりそれぞれの村、もしくは、血族集団が決められた場所を占有していたのであるが、この言葉とは明らかに違った意味のものであった。*Hu'thuga* というのは古い言葉で、住居に関するある考え方を伝えていた。*Hu'thuga* で表されているキャンプの中での序列というのは部族が毎年恒例のバッファローの狩りのためにその村を離れときに使われていた。この狩りは、すべての人たちが彼ら自身の、そして、子供たちのために肉や服、食料や衣類を安定して確保するために必然的に集まって一緒になるときなど、重要な時期に実施されていた；したがって、それは宗教的な儀式で始まり、そして、それにしたがって取り仕切られていた。人々は、手の込んだ、神聖なやり方により狩りに出かける方角を指示する人の支配のもとにおかれ、この特定に決められた男たちに対して、酋長ももちろんあらゆる人々が、否応なしに従わなければならなかった。この部族の偉大なる儀式が執り行われたのは、この狩りの間であったが、その時には、人々は *hu'thuga* として知られた形のなかで彼らの血族集団にしたがってキャンプをしていた。

この形というのは、住居の入口という意味で東の方が開いた円陣であった。“その入口を通って”と老人たちは言った。“みんなは獲物を追いかけて行ったし、ちょうど家のなかに入ってくるように、そこから食料を手にして戻ってきたのさ。戰士たちは、相手から部族を守るためにここから出陣し、そして、戻ってくるときにはここで歓迎を受けたのさ。”と。だから、この入口というのは、小屋のなかにそこに住んでいる家族のものがそれぞれの場所を持っているように、部族のなかでそれぞれの血族集団が持っているその住む場所に入ってくる扉だったのだ。*Hu'thuga* というものが部族のなかの二つの大きな分属集団がよりどころにしていた基本的な概念に表されるようなそうした力の融合という考えを形作っていたということを示すものがいくつもある。*Hu'thuga* の入口、もしくは、扉というのは、必ず、象徴的に東の方に向いており、*Ishta'cu'da* (Shy people) の人たちからなる5つの血族集団は、理論的に北側の半分を占めており、その一方、*Hon'gashenu* の分属 (Earth people) の人たちからなる5つの血族は、必然的に南の半分を占めていた。記録に残された事実、この入口は、実質的には、部族の儀式が執り行われるときにだけ東の方に向いていた。；そのほかのときは、部族が旅に行く予定にしていた方角に面していたが、しかし、それぞれの血族集団の並び順は、いつも、東に面した入口を持つようになっていた。広々

とした、まだ、自然のまま大平原でテントの張るやり方のなかで、象徴的なことをしていたが、この興味深い慣習というものが、*Hu'thuga* の中に出てくる基本的な考え方—二つの大きな分属集団と、住居の並び方—というものがいかに人々の心の奥深く根づいていたかということを示していた。*Hu'thuga* と結びついたこうした考え方と同族意識からすると、この形の中に、我々は、これまで多くの著者たちにより述べられているような、彼らが合理性とか安全性のために考え出したというよりも、なにかもっと象徴的なものとしてこれを取り扱う方が妥当のように思われる。安全という考え方が *hu'thuga* の形態の中に含まれていたということは、おそらく間違いないであろうが、しかし、安全というものに対する依存は、仔馬とか馬車を守るために都合良くテントの配列を作ったということよりも、むしろ、宇宙の力を認識してそこから導き出されるべき加護によるものと考えていたのだ。



Fig. 19 家族 両親は *huthuga* の両方を表している。

代表となるものが部族の者たちに呼びかけるときに彼は、言葉では言わなかった:*Ho! Omaha! but Ho! Inshata'cu'da, Ho'gashenu ti agtho'kaho! Ti agtho'kaho* というのは、“家の両側”という意味である。これは、部族のものがまとめて呼びかけられたにちがいないただの演説の形であった。このことは、*hu'thuga* の意味が、長老により与えられるものであることを裏付けている。

部族全体の住居として考えられている *hu'thuga* が、個々人の住居の中に再現されているに違いない様式を表しており、そこは、二つの明らかに異なる集団、もしくは、地域の子孫である男と女の力が合体されるべきところで、それは *Earth people* と *Sky people* の統合により *hu'thuga* の中に象徴化された統合体であった。部外結婚により自然の家族が崩れていくことは、宇宙を支配する規則のように信じられていたものを象徴するために必要だったように思われる。このようにして、部族を構成している異なった血族集団同士を血縁関係のもつ自然の絆で一緒に結びつけて、それぞれの分かれた集団を絡み合わせていうことが可能になっていた。この絆というものは部族の中の母型の血筋を通して成り立っていた。血族集団の中の家系というのはすべからず父方を通して辿られていた。父親たちがともに血族集団を維持し、これによりすべての血族集団をお互いに判別していた。父方を通して、子供たちは名前を、そして、地位、血族集団のなかの儀式における任務を受けついていた；とはいえ、彼の生まれた血族集団の範囲を超えてつながっていた彼の血縁関係というものは母方を通してであり、大きな結縁社会の一部であると考えていたのは、母方の血筋を通してであった。(Fig. 19)

ポンカ族は、血縁関係にあるオマハ族の持っていた部族的な組織の基礎となっていたと思われるこうした考え方の明確な姿はもっていない；そして、彼等が独立した部族として組織を作り上げたときに、ようやく人々の心の中にこうした考え方が芽生えていた。この不完全な形態というものが、オマハ族の中にポンカ族を“寄り辺のない人”としてみなす風習となって与えられたのかもしれない。

ポンカ族は、多くの血族集団が集まり儀式を執り行うときには、東に入口を持った円陣を組んでキャンプをしており、この形には、オマハ族に使われていた、*hu'thuga* (p. 42 を参照) と同じ名前と呼んでいた。ポンカ族のそれぞれの血族集団は、独自の *ni'kie* の儀式と、*ni'kie* の名前を持っていた；こうした名前は、オマハ族にも見られたような儀式に使われていた。

ポンカ族の部族の円陣のなかでは、血族集団は、彼等の任務に応じて分けられていたようだ：南側、もしくは、左側の位置の人たちは、東に入口が向いていたが、その人たちは雷に関係した儀式とか、戦闘にかかわるような儀式の世話をすることになっていた。左側にまわる次の人たちは、人々の統治とか、食料の確保、さらには、毎年の恒例の狩りによって確保された衣料にかかわる儀式を取り仕切っていた。北側の人、もしくは、入口の右側に位置していた人たち、彼らは氷とか雹（これらのものはともに、象徴的に天界と結びついた）、そして、稲妻を一般的に象徴した蛇にかかわる儀式を取り仕切っていた。こうした順

序、これは、壊れた鏡の中のようなものであったが、これに従い、象徴的な姿、これは、オマハ族の組織もはっきりとして形で持っていたものであるが、その概略を明確に理解することができる。ポンカ族自身から、われわれがオマハ族の間に現れているものと明確に理解してきたこうした考えが彼等の間に存在していると考えerには困難なようだ;詩化しながら、オマハ族について考えてきたことから、ポンカ族に目を転じてみると、われわれは、後での議論で得られたような断片的な指示の中にこうした考え方を見出すことができる。

オマハ族と同じようにポンカ族もまた人生のすべてとあらゆる形態の保存というものを天と地の力の融合による結果であると考え、そして、もし彼が彼自身の生命と、部族の存続を願うのであれば、こうした二つの相反する、そして、別々となった宇宙の力が人間に対し従わなければならない法則―部外結婚というものがこうした信仰の現実的な表現とさせていた法則―、守らなければならない道理というものを、象徴的にはめ込んでいた。

オセージ族の間では、密集化したもののように思われるが、そこに、部族の組織に対する基礎となっているような同じような考え方を見ることができるが、しかし、ある状況はその表現というものを若干変化させていた。

オセージ族の場合には、部族は二つの大きな分属に分かれていた。その一つの集団は、それぞれの相対的な地位関係を執り行われる儀式とか任務にしたがって変えていたが、三つの血縁集団から成り立っていた。ほかのもう一つの集団は、二つの血縁集団から成り立っていたが、ここでは彼等の相対的な地位は、部族の円陣のなかのお互いの位置、あるいは、そのほかの集団との関係は、決して変わるものではなかった。(p.58 を参照) この二つの固定化した集団は北の場所、もしくは、東の入口の右側に位置していた。彼等は、オマハ族のなかで *Inshta'cunda*、つまり *Sky people* と言われた人たちに象徴されるような考えを抱いていた;一方、三つの集団からなる分属の人たちは、東の入口の左側にキャンプをし、地位、そして、任務の両方がオマハ族の中の *Hoⁿ'gashenu*、すなわち、*Earth people* の人たちのものに相当し、かれらには部族の中の物質的な福利の面倒を見る任務が課せられていた。ここに、改めて、われわれは 天と大地の融合、男性の力と女性の力の融合、命あるすべてのものを生み出しているこの融合に基づく部族の中の序列を見ることができる。

カンザ族、クワポー族もまたふたつの集団に分かれていて、それらについての断片的に得られた情報から、彼等は、彼等の血縁部族との間にみられたものと似た考え方を持っていたようである;従って、オマハ族についての研究が部族の組織に対して基本的なものになっているということを示している考え方とか信仰というものが、やはりこうした非常に密接な同語族系の部族であるポンカ族、オセージ族、カンザ族、そして、クワポー族のなかでも基本的なものであるということが非常にはっきりとした形で確立されていたようだ;そして、こうしたことをさらに研究していけば、こうした考えた方がスー語を話すほかのたくさんの部族のなかでも、共通の、かつ、発達の原動力であったということをも明らかにすることができるかもしれない。

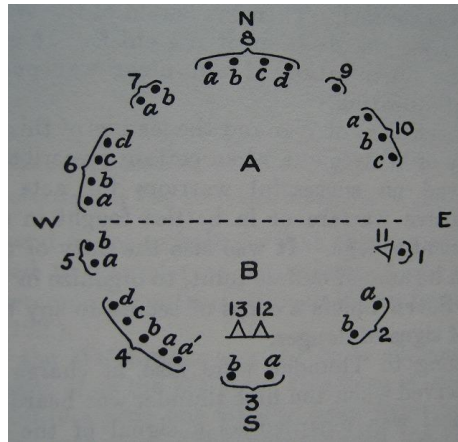


Fig.20 オマハ族の Hu'thuga (部族の円陣)の配列

A INSHTA' cUNDA 分派 B. HON'GASHENU 分派 1.WE'ZHINSHTE 分族: なし 2. INKE'ÇABE 準血族集団 (a) Nini'batoⁿ; (b) Wathi'gisha. 3. HON'GA. (a) Waxtha'xetoⁿ; (b) Washa'betoⁿ. 4. THA'TADA. 分族 (a) Xu'ka ; (a) Waça'ba itashi; (b) Washi'n'ga itazhi; (c) Ke'la; (d) Te'pa itazhi. 5. KON'ÇE 分族 (a) Tade'tada; (b) Nini'batoⁿ. 6. MON'THINKAGAXE 準集団 (a) Xu'be; (b) Mi'kaçi; (c) Mi'xaçoⁿ; (d) Nini'batoⁿ. 7. TEÇIN'DE 準集団 (a) Teçi'n'de; (b) Nini'batoⁿ. 8. TAPA' 準集団 (a) Tapa'xte; (b) Thunder rites; (c) Star rites; (d) Nini'baton. 9. INGTHE'ZHIDE 準集団なし 10. INSHTA'cUNDA. (a) 消失 (b) Nini'batoⁿ; (c) Washe'toⁿ. 11. 戦闘の神聖なるテント 12. 神聖なる杖のテント 13. 白バッファローの毛皮のテント

オマハ族の血族集団

HON'GASHENU 分派 (A) a]

WE'ZHINSHTE 血族集団(1) a

We'zhiⁿshte の血族は、*hu'thuga* への入口の左の場所にキャンプをしていた。この名前は、*we*、 “・・・の人たちにより”、そして、*zhiⁿshte*、これは *wazhiⁿ'shte*、“怒る”の略語、からなっていると説明されている。We'zhiⁿshte という言葉の意味は、ほかの部族により被害を被るような行動のため、部族がその不快感とか、怒りを持っていることをしらせてくれる人として定義されていたのかもしれない。神聖なる戦闘のテント(11)は、We'zhiⁿshte の血族の人たちのテントの前の位置に設置されており、戦闘とか雷にかかわる儀式の道具一式と一緒に、この血族により管理されていた。オマハ族を殺すとか、あるいは、部族の中の女達の力を借りて彼等の馬を盗んだり、持って行ってしまような敵対行為を働いていたものが所属していたほかの部族とのかかわりを取り扱う上で実行されるような政策などに関して何か問題が起きたときには、七人の酋長と血族の指導者たちを集め議会を招集することが、この戦闘のテントの管理をしている者の任務であった。この議会では、We'zhiⁿshte が議長を務めていた。戦闘のテントの中の神聖なるパイプはテントの管理者に

よりタバコが詰められていて、どのような対処をするのかについてのしかるべき審議が終わり、結論が得られると、七人の酋長たちがこのパイプを吸った。これは、まさしく宗教的な行動で、この行いを通してその決定というものが正当化されていた。そのあと、We'zhi'shte の広報のものがこの酋長たちの結論を部族の者たちに公表した。ここで、もし戦闘が決められると、引き続いて、ふつう、献身的な者たちによる戦闘集団の結成がなされた。

戦闘のテントの保管者とこの血族の指導的地位の者は、神聖化された攻撃の戦闘やキャンプとか、固定した居住の村を守るための戦いのなかで実行された行為のなかで成果を上げた戦士に対し、前にも述べたようなある種の荣誉が公に与えられる時には、We'zhi'shte の儀式でその役を務めた。そして、部族が恒例のバッファローの狩りにでかけた時には、七人の酋長からの指示に従い、危険を知らせる暗号を探るために平原を探索して回る斥候の隊を組織することもこの血族の責務であった。

雷にかかわる儀式を執り行うのもこの血族の役割であった。春に最初の雷が轟いた時にこれらの儀式が執り行われた。この雷の響きは、冬の眠りの後のある種の生命を与える力の目覚めの合図と考えられていた。この儀式の初めのほうの日には、歌を歌い、そして Tha'tada の血族集団の準集団である Waça' be itazhi (黒い熊) の者たちが We'zhi'shte の血族に加わった典礼で、この儀式が執り行われた。この儀式について知っている長老が亡くなってしまい、この古典的な儀式についての信用に足る説明を得ることは不可能であった。非常に激しい雷の間、稲光により生命と人格が危険な状態にあるときに、この失われた儀式と密接に関係していたという歌が、そうすることを認められた人により時々歌われていた。

戦闘のテントを管理している日事の次のような行動(fig.22 を参照)は、この失われた儀式の一部であったのかもしれない：最初の雷が轟いた時に、彼はすぐに小さなパイプを取り出し、すぐ近くの丘に登り、そこでかれは Wako'da にタバコの煙を捧げた。そのあと、その丘の上に東を向くようにして小さな魔法の杖(fig. 21)を立てた。この魔法の杖には、人間の髪の毛で四つの小さな袋に詰められたタバコの房が結び付けられていた。魔法の杖に取り付けられた、タバコ、小さな袋、そして、人間の髪の毛という組み合わせは、少年の頭から髪の毛の房を切り取る儀式の中に示されているように、こうした行動や失われた儀式というものが、おそらく、生と死を支配しているものとしての雷と関係があることを示しているように思われる。(p122 を参照)

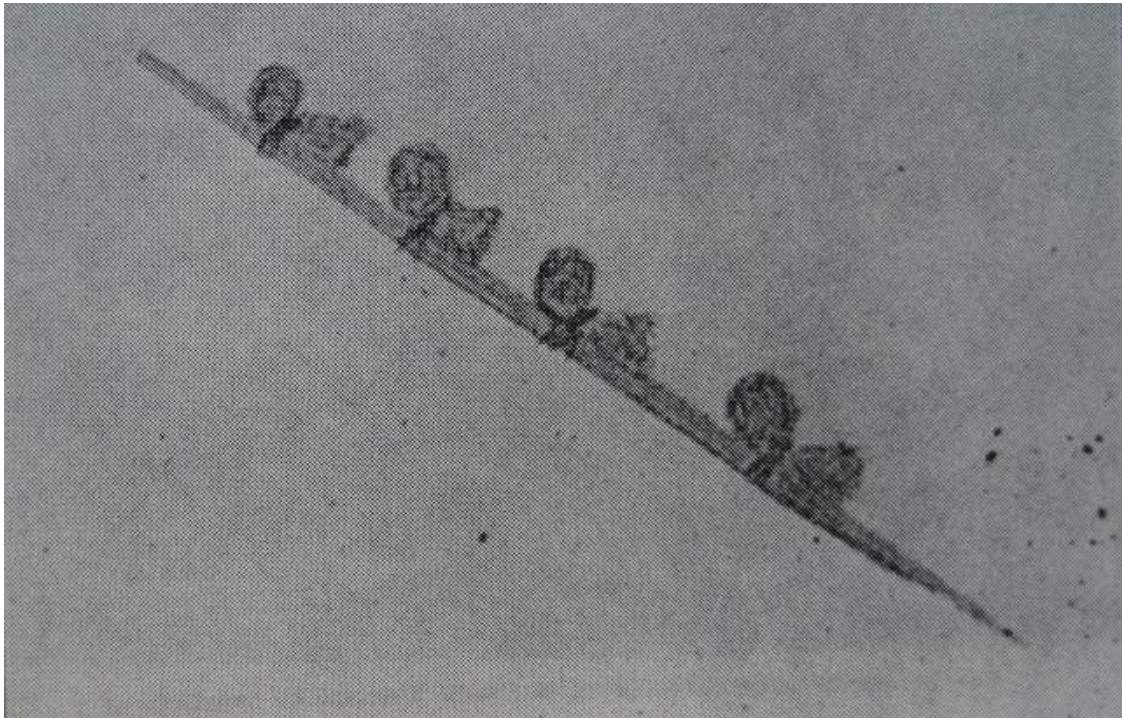


Fig.21 春に最初に雷が轟いた時の儀式の中で使われたいた杖

We'zhi^{ns}hte のタブーとするものはオスのエルクで、その血族集団は、ときに Elk 血族集団と呼ばれていた；血族集団のタブーに関係したこの話の形は、すでに先に説明した通りであった。（p. 136 を参照）オスのエルクとこの血族集団の儀式の結びつきについて、次のような物語が伝えられている：

戦闘に関する儀式に使われるパイプやそのほかの小道具が作られるときには、waxube、あるいは、神聖なるものとみなされていたこうしたものを保管し、保護するために包むものとして使われていたある種の毛皮を探し求めていた；しかし、オスのエルクのものほど適当なものではなかった。その特別な時に、オスのエルクの毛皮だけが手に入れることができたという事実は、オスのエルクが Wakoⁿ'da の意志により彼等の狩りの場に現れたことを示しているものと考えられた。そういうことで、オスのエルクのこうした行動の記録として、この動物がこの血族集団のタブーとなった。

We'zhi^{ns}hte の人は誰一人オスのエルクの新鮮な肉は食べなかったし、また、その毛皮で作られたモカシンを身に着けることもなかったが、こうした行動は、そのような動物により人々に与えられたと信じこまれていた奉仕という理由で、神を冒瀆する行為だと考えられていた。亡くなった時には、オスのエルクの毛皮で作られたモカシンが、別れた We'zhi^{ns}hte の人の足に履かされたが、これは、彼が、別の世界にいる彼の血族集団の親族により仲間と認められたということを示していたのかも知れない。少年の名前の Nuga^xtti, “真の男”というのは、この血族集団のタブーを直接反映したものである。

どんな行いであろうとも、血族集団のタブーを犯すことは、神を冒瀆する行いであると

思われ、その罰則として、醜い恰好をさせられたり、その違反者の体に白い斑点を付けたり、悪いは、髪の毛を白く染めさせるなどが行われていた。



Fig.22 戦闘のテントの最後の保管者であった Moⁿhiⁿthiⁿge と彼の娘

この血族集団には、準集団のようなものはなかった。

次のものは、We^zhiⁿshte の集団に属す人たちの名前である。彼等は、*ni'kie*, “夢のなかの”、“風変わりな”そして、“借りもの”といった名前、あるいは、ニックネームで区別をしていた。*Ni'kie*については、すでに翻訳し、説明した通りである。(p.136 参照) ;すでに述べたように、*ni'kie*の名前は、かならずその血族集団の儀式とかタブーと関連したものであった。こうした名前は、子供がその部族の仲間に入るときに実行された最初の儀式のときにつけられた。(p.121 参照) この名前は、後になり、その男が功績をあげ、*ni'kie*の名前とか、夢とか、功績、出来事の記念となるような別の名前、もしくは、彼に与えられたニックネームを使うようになることはあったけれども、概して、一人の男にはずっとこの名前が付けられた。女達の名前は、すべて *ni'kie* の名前であり、それは、省略されたり、変わることは決してなかったし、また、女は、一つの名前以外にほかの名前を持つようなことはなかった。部族の中の最初の儀式が実施され、*ni'kie*の名前が授けられた後、父親が彼の血族集団のタブーを象徴するようなやり方で彼の子供の髪の毛を切った。この髪の毛を切るという慣習は、その子供が7歳になるまで毎年繰り返されたが、そのあとは、



NUGAXTI

二度と切ることはなくなった。



Fig. 23 We'zhiⁿshte
血族集団の髪型

We'zhiⁿshte の血族集団では、子供の髪の毛の象徴的なカットは次のようなものであった：少年の頭の髪の毛は、頭の前の部分に一編み、あるいは、一房の髪を、そして、うなじのところに長く、厚い束を残す以外はすべてが短くカットされ、もしくは、剃りあげられていた。(fig. 23) この一房の髪は、エルクの頭を象徴したもので；また、ひと束は、エルクの尾を象徴していた。

We'zhiⁿshte の血族集団の個々人の名前 (1)

Ni'kie の名前

- Aⁿe'goⁿtha.....Aⁿe', うまくいく ; goⁿtha, 望む
- Biⁿçe'tigthe.....Biⁿçe', 歩くの声の響き ; tigthe, 遠くに聞く
- Bthoⁿti'..... Bthoⁿ , におい、香り ; ti', やって来る。狩りをする時に風に乗って動物の臭いが来る。 (In Nu'ce, ポンカ族)
- Çe'çoⁿçnede.....Çe'çoⁿ çe' çaça(速歩の音)から ; çnede, 長い。エルクのこと
- Çiⁿ'dedoⁿpa.....Çiⁿ'de 尻尾、doⁿpa.....ずんぐりとした、短い。 (In Moⁿkoⁿ'準分属、Pon'caxti, ポンカ) エルクにちなんだもの
- He'çithiⁿke.....He'çi 黄色の角、枝角 ; thiⁿke 座っている エルクの新しく生えた枝角の黄色の色をした、柔らかい表面
- (Ni'kapashna, ポンカ族)
- He'çoⁿtoⁿ.....He 枝角、çoⁿ 白い toⁿ たっている エルクのたった枝角を指している。
- He'shabe.....He 枝角、shabe , 暗い
- He'shtoⁿga.....He 角、もしくは、枝角 ; shtoⁿga 柔らかい。 この名前は二つある。エルクの新しく生えた枝角にちなんだもの
- In'gthuⁿhoⁿgasha.....In'gthuⁿ 雷 ; hoⁿ 夜、gasha 旅に行くこと。 神聖な戦闘のパイプにちなんだもの
- In'gthuⁿtha.....In'gthuⁿ 雷, tha そこから、行くこと、 神聖な戦闘のパイプにちなんだもの
- Ki'baxthagthithoⁿ.....Ki'baxtha 顔を向ける、gthi. 戻す ; thoⁿ 突然 ; 急に振り返り顔を向ける(エルク) エルクが突然狩人にはむかってくる。
- Ku'kuwiⁿxe.....ぐるぐる回ること。 野生のエルクが驚いたときのうろたえた

ときの様子にちなんだもの

Ku'winⁿxaxa.....うろたえて(エルクが) ぐると回る

Mon'geshabe.....*Mon'ge* 胸 ; *shabe*, 暗い 動物の胸の辺りが黒ずんだ色をして
いることにちなんだもの

Mon'hiⁿthiⁿge(fig.22).....*Mon'hiⁿ* 石のナイフ ; *thiⁿge* ない

Noⁿmoⁿ'moⁿtha.....*Noⁿ* 足でとる行動 ; *moⁿ'moⁿtha* 首を後ろに向けて歩く。 *moⁿ* の
繰り返しは、行動が繰り返して行われることを表している。歩くと
きエルクが首を固定する奇妙な格好をすることにちなんだもの

Nuga'xti(pl.24).....*Nuga'xti*, 雄 ; 文字通りの 、男らしい (Pon'caxti, ポンカ
族)

On'poⁿ.....エルク

On'ponçka.....*On'pon*, エルク ; *çka*, 白い。ポンカ族は、On'ponçabe (Hi'çada
血族集団がある。)

On'poⁿnoⁿzhiⁿ.....*On'poⁿ*、エルク ; *noⁿzhiⁿ*, 立っている。ポンカ族はダコタ族
の形を利用していた。

On'poⁿtoⁿga.....*On'poⁿ*, エルク ; *toⁿga*、大きい。 1815, 1826, 1830, 1836 年
のオマハ族の協約の中で出てくる (In Thi'xisa, ポンカ族)

On'poⁿzgubga.....*On'poⁿzgubga*, 若いエルク (In Pn'caxti, ポンカ族)

Shi'bekoⁿ.....*Shi'bekoⁿ*.....、腸 ; 、紐。貴重な包みとか戦闘のテントの紐と
して使われている狼の腸にちなんだもの

Tahe'zhoⁿka.....*Ta* 鹿にちなんだ言葉 ; *he*, 角 ; *zhoⁿka*, 枝分かれした

Wakoⁿdagi.....神話の中の生き物 ; 怪獣

Xaga'moⁿthiⁿ.....*Xaga'*, 荒い ; *moⁿthiⁿ*, 歩くこと。 エルクの群れのジグ
ザグな有様で、彼らの枝角が木の枝のように生えている有様にちな
んだもの。

Borrowed names

Hexa'gatoⁿga.....大きな雄のエルク。ダコタ族により使われていたオマハ族の古い
言葉

Hi'daha.....意味不明

Fanciful names

In^shta'moⁿçe.....金属の目

Wa'badoⁿdoⁿ.....意味不明

We'btoⁿaji.....たくさんのものを持ちながら満足していない

Valar name

We'zhiⁿshtewashushe...勇敢な We'zhiⁿshte

Female name

- Açe'xube.....Açe'、塗料；xube、神聖な。この名前には三つある。神聖なる儀式で使われる塗料にちなんだもの。（Wazha'zhe, ポンカ族）
- Çin'dewin.....Çin'de、尻尾；win、女性の接尾語 この名前には三つある。
- Ma'zhonwin.....Ma'zhon、狐；win、女性の接尾語
- Mi'dashonⁿthiⁿ.....動いている月
- Mi'gashonⁿthiⁿ.....動いている月（Washa'be, ポンカ族）
- Ni'dawin.....Ni'da 神秘的な動物；win、女性の接尾語 この名前には三つある。
- Noⁿçe'inçe.....意味不明（Wazha'zhe, Thi'xida, ならびに、Hi'çada ポンカ族）
- Onⁿpoⁿmiga.....メスのエルク
- Pahi'çi.....Pahi'（エルクの）頭の毛；çi、黄色
- Taça'bewin.....Ta、鹿；ça'be、黒い；win 女性の接尾語。五つの名前がある。（Wa'zhazhe, ポンカ族）
- Wihe'tonga.....Wihe、妹；tonga、大ききな。（Washa'be ならびに Wazha'zhe, ポンカ族）
- Zhon'inwathe.....Zhon'in、木を運ぶ；wathe、原因となる。二つの言葉がある（Hi'çada ならびに Pon'çaxti, ポンカ族）

INKE'ÇARE 血族集団 (2)

Inke'çabe は、We'zhiⁿshtek の次に、左側の位置にキャンプをしていた。Inke'çabe と言うのは意味のよくわからない古い言葉である。おそらくそれは、バッファローの黒い肩からきたのであろう。（Inke は、Inke'de の略語、“肩”、çabe、“黒い”）神話や伝説からすると、それは、人々がバッファローを追いかける習慣をするようになった初期のころにはじめた部族の毎年の仮で、実際にバッファローを追跡するときに、指導的な役割を果たしたこの血族集団につけられたもののようである。この血族集団に与えられた権威とか、指導力は、神聖なものとみなされていたばかりでなく、必要不可欠のものとされていた。まさにそのとおりで次のようなことが言われていた；“仮に、最後の Inke'çabe が、母の腕に抱かれて幼児であるような時には、wanon'çe(群れのとどろき)の中で人々を導くことが行われいたのであろう”。この古くて、そして、世襲の役割は、1875 年から 76 年の冬に行われた最後のバッファローの狩のときに、Ishta'thabi、“中心となる人”（人々のために）とともに終わりを遂げた。その時に彼は、周囲の人々の統率者、もしくは、指導者として、献身し、wanon'çe の最後の wathon'となった。（Pl. 25）

次のような伝説が、この血族集団の中の一連の名前に地位の向上させ続けていたことを物語っている。



INSHTATHGABI 最後の WATHON

バッファローは大地の下に住んでいた。若い雄牛が大地の上に出てくる道を見つけた
[これは 母なる大地からバッファローという動物が生まれてきたことをあらわしている。] 彼の後に群れが続いた。彼らが進んでいくと川に出くわした。その川は狭いように見えたが、水深の深いものであった。バッファローが川に飛び込むと水しぶきが上がり、あたりが灰色に変わった。群れは泳いで川で渡り、対岸に来たところで、彼等はそこにすばらしい牧草地を見つけ、この大地に残るようになった。

Niga'xude という名前は、この新しく生まれたバッファローの出来事に由来するものである：この言葉は、ni, “水”、 ga, “打つ”、 xude “灰色” とからなっている。 Niga'xude というのは、最初に生まれた息子につけられた名前であった。二番目の息子は、Heba'zhu, “節のある角”、これは、子牛の頭にできた突起上のこぶにちなんだもので、もしくは、Gthadin'gthithon, “母牛の前で行ったり来たり走り回ったあと、母牛の前に立ち止まっているお腹の空いた子牛”の意味で、これらのどちらかで呼ばれていた。三番目の息子は、çikon'xega, “茶色の膝”と呼ばれていたが、これはバッファローの子牛の膝の色にちなんだものであった。こうした子供達が成人すると、一番上の息子は、Pe'thon'ba, “七つの”、二番目の息子は、 Mon'getonga, “大きな胸”、三番目の息子は、 Nonhi'hatonga “大きな髪”と呼ばれた。そして、彼等が年寄りになると次のような名前がつけられた；一番上の男には、He'ubagthonde, “年老いた雄のバッファローの角をもった”、二番目の男には、Mone'gahi “矢の酋長”、そして、一番下の男には、Monzhon'wakithe “バッファローの土地”という名前がつけられた。

Inke'çabe には、二つの準血族集団、Ninin'baton と Wathigizhe があつた。

Nini'baton (nini'ba, “パイプ”； ton, “保有、もしくは、保管する”。

次のような断片的な伝説は、この準血族集団と彼らのタブーであるとうもろこしの赤い鞘に関係したものである：

Inke'çabe というのは、最初に存在していたオマハ族であった。一人の男と一人の女がいた。彼らは一緒に住み、子供が生まれた。ある日、女が外に出て大地に小さな盛りあがったところを見つけた。二・三日して、もう一度出かけて行き、その盛り上がったところから植物が生えていたが、それが何であるのか、彼女には分からなかった。それから彼女は度々その植物を見に行った。すると、だんだん大きくなって、そのところどころに鞘がついていた。彼女はこれらを集めて、自分の夫と子供のところにもって行き、その鞘を焼いて食べた。とうもろこしが自分たちには神聖なものであると考えている人たちがいた；こうして、彼らはこの日から、赤いとうもろこしを食べないでいるのだ。

赤いとうもろこしを栽培し、Hon'ga の準血族集団である Washa'beto の分族 Hon'gaxti に、それをあたえるのが、この準血族集団の義務であった。種を蒔く時期が来ると、この神聖なとうもろこしを神物として分配することが行われた。 Hon'gaxti は、育成する歌を歌い、この準血族集団に属する神聖な種子を与えた。この準血族集団の人々は、奉仕者として行動し、種子の四つを部族に属するそれぞれの家族に分配した。

この血族集団の中の家族に対して、部族の神聖なる杖を管理する世襲的な役割が課せられていた。この結びつきの中で、神聖なるパイプを保管するという精神が、育てる農業と

結びついた儀式に関係した人々、彼らのタブーは神聖なとうもろこしであったが、そういう人々に与えられていたということは注目すべきことである。

この血族集団の子供達の髪の毛の象徴的なカットは、ちょっと風変わりなものであった。全部の髪は、頭の天辺の両側にそれぞれ一つずつ、二つの小さな房を残して、頭から切り落とされた。(fig. 24) このスタイルは、この部族のほかの血族集団の Nini'準集団のすべに見られた。これらの二つの小さな髪の毛の房は、伝説の中であらわされている、とうもろこしが生えてくるという小さな盛り上がった土を意味しているのかも知れない。

Ninin'baton^a には、No^axthe'bitube と I'ekithe という二つの準血族集団があった。前



Fig. 24 Nini'baton^a の準血族
集団の髪型

者の集団には、He'dewachi の儀式で使われる杖の飾りののに模様を塗りつける世襲的な権利が与えられていた。

No^axthe'bitube という名前は、彼らの任務 (no^axthe, “古木でできた黒焦げた色の箱”、bitu “擦って粉にすること”) を言葉で言い表したものである。この集団は、彼らの準集団のタブーである赤い鞆のとうもろこしを所有していたばかりでなく、これに加えて木炭、これは、杖を塗り、そして、儀式のための塗料を作ためのものであるが、を保管するという

特権を持っていた。杖に模様をつけることは象徴的なもので、宗教的な意味あいを持っていた。

I'ekithe とは、“話をする、もしくは、宣言をする人”を指していた。部族の広報をする世襲的な任務がこの準分族に属していた。彼らの任務が酋長の決定事項や、部族が実施する恒例の狩猟のときに、人々に命令を与えたりする時に、言い伝える仕事をしていたことから、この広報をする人たちは、力強く、そして、はっきりとした口調の持ち主でならなければならないかった。もし、何かの折に、この公式の広報をするものがその任に耐えられないような時には、その代わりのものが同じ分族の中から選ばれなければならないかった。I'ekithe の人たちは、彼らが属していた準血族集団のタブーである赤い鞆のとうもろこしを保持していた。

Wathi'gizhe この準血族集団の名前は、儀式の狩猟の中で使われていたたの名前で、これは、以前は酋長だけにより演じられていたもので、hi'gon、この言葉の意味は“この物語は厳密な意味では真実ではない；”、という分類に属した次のような伝説と結びついたものであった。

人々は食料が枯渇していて、まわりには彼らを飢餓から救う獲物がいなかった。村の外に、両親をなくした子供が彼の祖母と一緒に住んでいたが、彼らは、どうすれば食料を手に入れて村の人々を救うことができるのか、話をしていた。そして、ついに彼らは、ある計画に意見が一致し、その少年は、外に出て、仕掛けのたがを作った。そして、そのたがが完成するとこの少年はそれを彼の祖母にあげ、彼らの計画に従って、その少年が、丘の中腹にとどまっている間に、その祖母がそれを丘の天辺まで運んだ。こうして、すべての準備が終わると、おばあさんはそのたがを丘の上から転がした。そして、転がりはじめた最初に、彼女は、こう叫んだ：“若い雄牛がまっすぐ角を立てて走っていくぞ！” たがは、どんどん転げ落ち、そし

て、少年が待っていた場所に来ると、それは突然バッファローに変わり、その少年はいとも簡単にこれをし止めることができた。彼は、この獲物を解体し、村の人々に新しい肉を分け与えた。二度目には、このおばあさんは、そのたがを丘の上まで運び、そして、それを転げ落とし、次にどんなバッファローがやってくるのか、少年に大声で伝えた。丘の中腹で待っていた少年のところに来ると、そのたがは、また一匹のバッファローに変わり、少年はこれをし止め、食料にするようにとそれを人々に与えた。三度目も、四度目も、こうして、このおばあさんと孤児の少年は狩をし、四度目からは、バッファローの大群がやってくるようになり、人々にたくさんに食料をもたらした。彼らのこの喜びを表す気持ちとして、彼らはその孤児を酋長にした。

Watho', *wano'*çe、群れに続く者達の指導者と言う意味であるが、この人の役割は、この準血族集団の家族のもつ世襲のものであった。*He'dewachi* と言う儀式に歌われる歌の管理と、この部族の儀式が於かなわれる時の歌い手は、この準血族集団の中から選出されることになっていた。こうしたときに使われる部族の神聖なる杖の管理は、*Nini'baton* の準血族集団により実施されていた。

Wathi'gizhe のタブーは、バッファローの舌と頭であった。*Wathi'gizhe* は、子供の髪の毛は、頭の前の小さな房と、頭の方の両脇にそれぞれひとつずつの房、そして、首の後ろのうなじのところに小さな編んだ髪の毛を残して、すべて切り落とされていたが、これは、それぞれ、バッファローの頭と、角、そして、尻尾を象徴していた。(fig. 25)

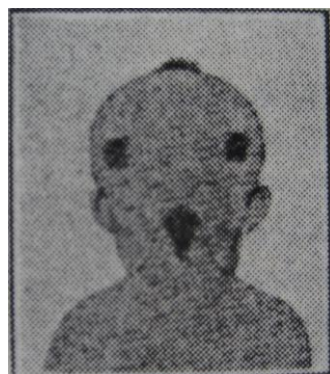


Fig. 25 *Wathi'gihe* 準血族集団の髪型

hu'thuga の中で、*Nini'baton* の準分族は、*We'zhin'shte* の隣にキャンプを張っていた。*Nini'baton* のすぐ左側は *No'xthe'bitube* の一族の分族が陣取っていた。その彼らの左側には、*Wathi'gizhe* 準血族集団が、そして、その彼らの左には、*I'ekithe* の準血族集団である *Ho'ga* がテントを張っていた。

INKE'ÇARE の血族集団の個々人の名前 (2)

Nini'baton の準血族集団 (a)

Ni'kie の名前

Athu'hagenmonthi'.....*Athu'hage*, 最後に残った ; *mo'thi'*, 歩くこと。 バッファローにちなんだもの。

Cho'niniba.....*Co'*, *to'nthi'no'ba* と言われている。これは、*He'dewachi* の儀式でパイプを管理していることにちなんだもの ; *niniba* パイプ

Çihi'duba.....*Çihi'* 脚 ; *duba*, 四本の

Edia'ino'zhi'.....*E'di*, そこに ; *ai* ひとつの行動 ; 群れが近づいたときに最後の儀式の休止に与えられた名前 ; *no'zhi'* 立っている

E'di'to'.....その場所から ; パイプの場所を意味している

Gahi'ge.....酋長 (*Waçabe*, *Hi'çada* 準分派の中の、ポンカ族)

Gahi'geçnede.....背の高い酋長
Gahi'gexit.....真実の酋長
Gahi'gezhi^{nga}.....若い酋長(*Wazhazhe*、の、ボンカ族)
Gaxa'tano^{nzhiⁿ}.....*Gaxa'ta*、そこからわかれた(群れ) ; *noⁿzhiⁿ* 立っている
Ginon'çethinge.....Gi、再び ; non'çethe、炭のように黒い。抜け落ち打後の
バッファローの新しい髪にちなんだもの
Gion'çethinge.....*Gion'çe*、教えること ; *thinge*、何もない、彼に教えることは何
もない
Gtheadin'gthithonⁿ.....*Gtheadin'*、よこぎる ; *gthi*、帰ってくること ; *thoⁿ*、突然。
お腹を空かした子牛が母牛の前を走ってきて、その前に止まる。
He'akathinge.....意味不明
Heba'zju.....*He*、角 ; *ba'zju*、小さなコブ
He'benika.....*He'be*、部分 ; *nika*、人
He'ubathoⁿde.....歳取ったバッファローのすりきれた角
Inshta'pede.....*Inshta'*、目 ; *pede*、炎 (*I'ekithe* 準分派でも同じ)
I'uhe.....*I'*、から ; *ie*、話す ; *'uhe*、従う 酋長により指名された人たち、
あるいは、権威を与えられた人たちより執り行われていたこと
由来する
Ki'kontonga.....ダイシャクシギ、 (*Nunemius longirostri*. *Hudsonian*)
Mone'gahi.....*Moⁿe*、弓矢 ; *gahi*、 *gohi'ge* 酋長から (*Waçabe*、
Hi'çaba、準集団 ボンカ族)
Mon'getonga.....*Moⁿ'ge*、胸 ; *toⁿga*、大きな
Monzhoⁿ'gabthoⁿ.....*Moⁿzhoⁿ'*、大地 ; *gabthoⁿ*、においが残っている
Monzhoⁿ'wakithe.....バッファローのいる大地
Na'gu.....意味不明
Ni'ashiga.....人。部族の統治機構の中で酋長であった人にちなんだもの
Niga'xude.....*Ni*、水 ; *ga*、打ちこと ; *xude*、灰色。動物が水をかき混ぜる
ことにちなんだもの
Niu'bathide.....*Ni*、水 ; *u'bathide*、あふれる、いっぱいになる。泳いでいる
バッファローの大量の数にちなんだもの
Nonba't'ewathe.....*Noⁿba'*、二つ ; *t'e*、死ぬ ; *wathe*、原因となる
Non'i'ça.....歩いているバッファローにより作られたような揺れ動き
Non'kaethoⁿbe.....*Noⁿ'ca*、後ろ ; *ethoⁿbe*、姿
Nonzhiⁿ/hatoⁿga.....*Noⁿzhiⁿ/ha*、髪 ; *toⁿga*、大きな
Pahon'gamonthiⁿ.....*Pahon'ga*、最初の ; *monthiⁿ*、歩み
Pe'thoⁿba.....七つの。最初の七人の酋長にちなんだもの

Sha'geno^{ba}..... *Sha'ge*、輪；*no^{ba}*、二つの；分かれた輪
 She'thugthintoⁿ..... *She'thu*、そこに；*gthi*、戻ってくる；*toⁿ*、立つ
 Ta'hesh^a..... 意味不明
 Teçon'honga..... *Teçon'*、白いバッファロー；*hoⁿga*、指導者。Dakota 族の間でも同じように使われている。
 Teçon'monthiⁿ..... *Teçon'*、白いバッファロー；*monthiⁿ*、歩いている
 Tenua'xanonzhiⁿ..... *Te*、バッファロー；*nu*、*nuga* 雄牛から；*a'xa*、*gaxa'ta* から離れて；*nonzhiⁿ*、立つ
 Ti'zhebegthoⁿ..... ドアの垂れ板。1825 年のオマハ族との協約に出てくる
 Ton'thiⁿno^{ba}..... 走っている二人
 Uga'e..... 分かれていく。（群れが二つに分かれていくこと）
 Ugthi'toⁿ..... 使う用意が出きたときのパイプの取り扱いにちなんだもの
 U'nizhabi..... 意味不明
 Utha'xadoⁿgthe..... 意味不明
 Uthi'shonmoⁿthiⁿ..... あたりを歩きまわる
 Wada'thiⁿga..... 酋長の友好的な役割にちなんだもの（*thi'xida* ポンカ族）
 Waki'de..... *Wa*、行動；*ki'de*、撃つ。射撃をする人
 Wazhiⁿ'texi..... *Wazhiⁿ'*、意思、癖；*texi*、難しい、酋長の役割にちなんだもの。怒りは、部族の平和を維持することに努力をしなければなら
 ない七人の酋長たちにとっては困難なものとされていた。
 Xitha'wahi..... *Xitha'*、わし；*wahi*、骨。パイプにちなんだもの。子供が死んだときにこの名前を使っていたように、あまり好まれて使われてはいなかった

Borrowed name

Ish'kadabi..... 18 世紀のカンザ血族集団からきたもの
 Pude'tha..... 意味不明（*Nu'xe*、ポンカ族）

Funciful ames

Taxie'wath^ezhiⁿga..... *Taxi*、叩いている響き；*wathe*、起こす；*zhiⁿga*、小さな。
 U'kiça..... 誰もいない小屋、あるいは、場所
 Ukoⁿa'digthoⁿ..... *Ukoⁿa'di*、離れる、一人で；*gthoⁿ*、から；*gthiⁿ*、座る

Famale names

Mi'toniⁿ..... 新しい月
 Poⁿ'caçonⁿ..... 青白い ポンカ族
 Tewa'u..... *Te*、バッファロー；*wa'u*、女
 Toⁿ'ingi..... やってくる新しい月



Fig. 26 Du'bamoⁿthiⁿ

Noⁿxthe'bitube 準分族

Male names

Çiçi'kazhingak.....小さな七面鳥

Gashka'woⁿgthe..... 意味不明

Tahe'zhiⁿga.....小さなバッファローの角

Wathi'gizhe 準血族集団 (b)

Ni'kie names

Baçoⁿ'noⁿge..... *Baçoⁿ'*、森、あるいは、人々の真ん中で；*noⁿge*、走ること

Çikoⁿ'xega..... *Çikoⁿ'*、ひざ；*xega*、黄色を帯びた茶色。バッファローの子牛にちなんだもの（*Ni'kapashna*, ポンカ族）この名前には二つある。

Du'bamoⁿthiⁿ(fig. 26).....*Du'ba*、四つの；*moⁿthiⁿ*、歩いている。（*Nu'xe*, ポンカ族）。

Ginoⁿ'zhiⁿwathe..... *Gi*、再び；*noⁿ'zhiⁿ*、おきあがる、たちあがる；*wathe*、彼らにさせる。彼は、彼らを起き上がらせ、立ちあげる。

Gthedoⁿ'moⁿthiⁿ..... *Gthedoⁿ'*、鷹；*moⁿthiⁿ*、歩いている。

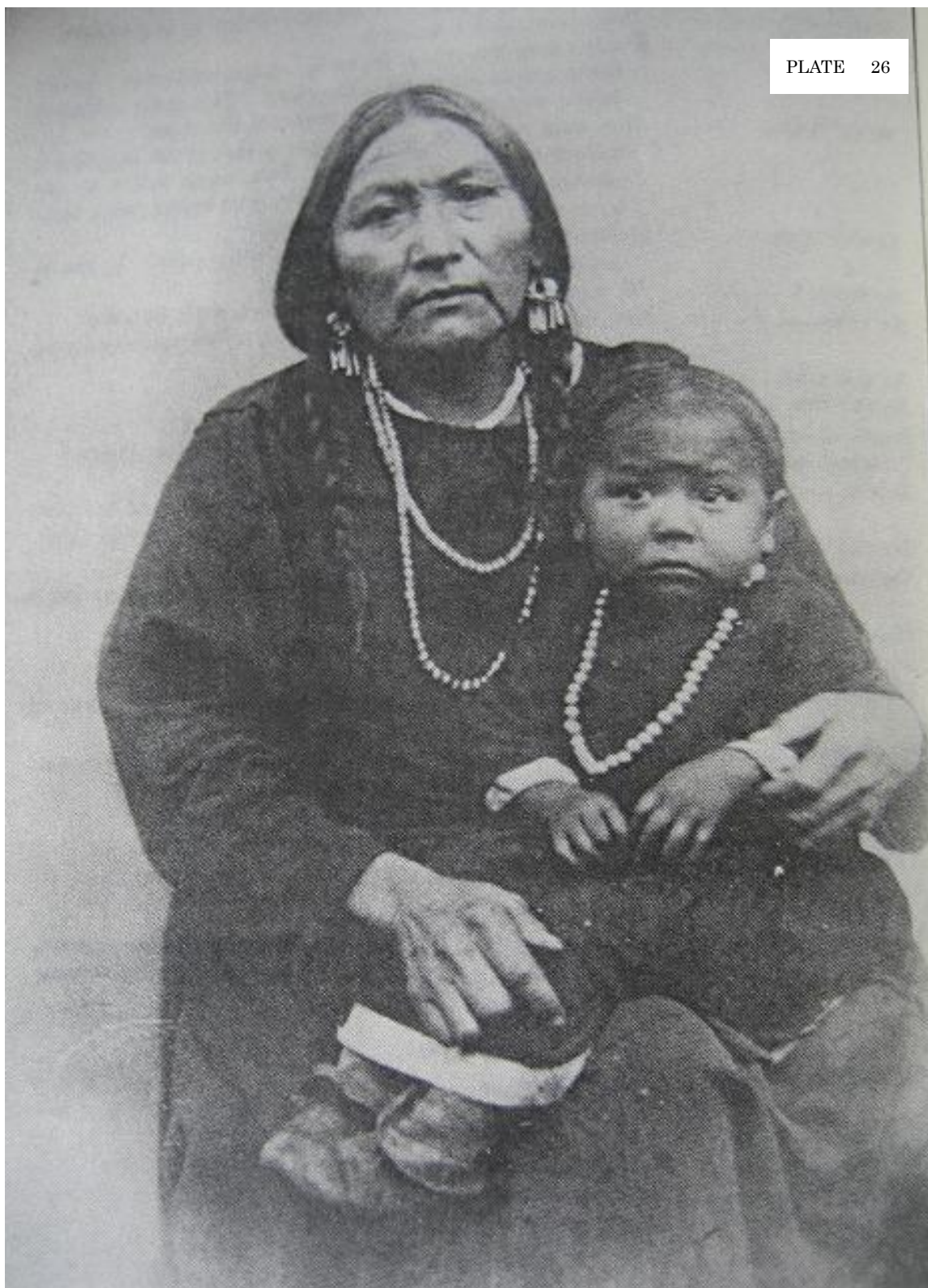
Hiⁿçi'zhiⁿga..... *Hiⁿ*、髪；*çi*、黄色；*zhiⁿga*、小さな。（子供の名前）

Hi ⁿ xega.....	Hi ⁿ 、髪； <i>xega</i> 、黄色を帯びた茶色。ばつろぁローにちなんだもの
I ⁿ de'ubthi ⁿ	I ⁿ de'、顔； <i>ubthiⁿ</i> 、ねじれた。
I ⁿ shta'thabi.....	I ⁿ shta'、目； <i>tha</i> 、原因； <i>bi</i> 、彼は～である。指定された観点。 追跡の指名された指導者にちなんだもの。この名前は、追跡の世襲的な指導者に与えられてもの。
Mo ⁿ no ⁿ 'kuge.....	Mo ⁿ 、 <i>moⁿthiⁿka</i> 大地から； <i>noⁿ</i> 、足の動き； <i>kuge</i> 、鈍い響き、 丁度太鼓のような。この名前は、狩猟が近づいたのを感じて、 バッファローの群れのヒズメの音がごろごろと響いていることに ちなんだもの。
Mo ⁿ shti ⁿ 'onça.....	Mo ⁿ shti ⁿ '、 <i>moⁿshtiⁿge</i> ウサギ から； <i>onça</i> 、揺れ動く。パイプに ウサギの毛を使うことから来たもの
Nion'bathin.....	Ni、水； <i>on'ba</i> 、昼； <i>thiⁿ</i> 、 <i>monthiⁿ</i> から歩く、あるいは、旅をする。
Nonke'na.....	Non、足で動きをほのめかす； <i>kena</i> 、具合のよいことを示す古 い言葉。
No ⁿ shki'gthe.....	バッファローの子牛の足跡 （ 子供の名前 ）
No ⁿ zhin'thia.....	No ⁿ zhin、起きあがる； <i>thia</i> 、失敗する。 起き上がれない。
No ⁿ ga'.....	雄、（ Pon'caxti, Monkon' 準分派、ポンカ族 ）
Pa'xehashuga.....	バッファローの首の厚い皮膚
Tade'ta.....	<i>tonthinton</i> の変化したもの； <i>He'dewachi</i> 儀式的なかで動いて いるパイプの動きにちなんだもの
Tewa'konno ⁿ zhi ⁿ	神聖なるバッファロー（ ダコタ族にもあった ）
The'çeçabe.....	The'çe、舌； <i>çabe</i> 、黒い。バッファローの舌の先にちなんだもの （ Wzha'zhe, ポンカ族 ）
Ti'zhebegtho ⁿ	、テントのドアの垂れ下がり。オマハ族との協定、1826 年
Uthi'shonmo ⁿ thi ⁿ	歩きまわること
U'thixide.....	見てまわること、たぶん走り回っている人にちなんだもの。 この名前には二つある （ Nu'xe, ポンカ族 ）
Wano ⁿ 'gewathe.....	Wa、ある目的を持った行動； <i>noⁿ'ge</i> 、はしる； <i>wathe</i> 、行動を起 こさせる人。 周りの人を走らせる、あるいは、驚かす。
Washu'she.....	勇者（ Wazha'zhe, ポンカ族 ）
Wte'xi.....	意味不明

Borrowed names

Tewa'ko ⁿ no ⁿ zhi ⁿ	Te、バッファロー； <i>wa'koⁿ</i> 、ダコタ族の <i>wakan</i> 、神秘的な； <i>noⁿzhiⁿ</i> 、 立っている。ダコタ族の言葉から来たといわれている；“占いの 子牛” と同じようなもの
---	--

Dream names



MI'GTHITON と彼女の孫

Hoⁿmoⁿthiⁿzhiⁿga..... 夜とちょっとした散歩

Fanciful names

Giuⁿka..... 意味不明

Monⁿtheⁿgahi..... 矢をあらわしている

Monⁿthihi..... 矢をあらわしている

Nicknames

Waⁿxupagthoⁿ..... Waⁿxe、白人；pa、頭；gthoⁿ、おく。

Famale names

Haⁿwate..... 子供のこと；Waⁿwaⁿの儀式の中で

Iⁿnikashabi..... 部族のパイプのこと それにより部族が人間であると認識されるもの

Miⁿgthedoⁿwin..... 月の鷹、女性言葉（Niⁿkapashna, Waaⁿbe ならびに Thiⁿxida、ボンカ族）

Miⁿgthitoⁿin (pl. 26)..... 戻ってくる月

Miⁿhuça..... 大きな声の月、二つの名前がある

Miⁿmite..... 意味不明

Miⁿmoshihathiⁿ..... 高く上がった月

Miⁿtexi..... 神聖なる月

Teⁿmitexi..... Teⁿmi、メスのバッファロー；texi、神聖な、二つの名前がある。

Toⁿinⁿgthihe..... 新しい月が突然出現すること（Wazhaⁿzhe; waçaⁿbe,

Hiⁿçada 準血族、ボンカ族）

Weⁿtoⁿna..... 意味不明（Nuⁿxe ボンカ族）

I'ekithe 準分派

Ni'kie names

Çiⁿkoⁿxega..... Çiⁿkoⁿ、ひざ；xega、茶色。この名前には三つある。（Niⁿkapashana, ボンカ族）

Çiⁿdemuxa..... Çiⁿde、尻尾；muxa、房になったもの

Gthadiⁿgthithoⁿ..... Gthadiⁿ、よこぎる；gthi、戻る；thoⁿ、突然。傷ついたバッファローが狩人の横にそれる。子供の名前。母親の通り道で世話を持ってもらおうと立ちはだかるお腹をすかした子牛。

Hebaⁿzhu..... He、角；bazhu、小さな突起、または、こぶ。この名前には三つある。（Niniⁿbaton の準血族にも存在している。）

Hiⁿtoⁿzhiⁿga..... Hiⁿ、髪；toⁿ、持つている；zhiⁿga、小さな

Iⁿshtaⁿpede..... Iⁿshta、目；pede、炎。（Niniⁿbaton 準集団にもある）

Toⁿwaⁿzhiⁿga..... Toⁿwaⁿ、小さな；zhiⁿga、村。

Waⁿbakuⁿga..... Wa、行動；ba、押す；kuⁿga、肘で押す、バッファローが込み合

って、お互いに押し合っている様子

Wazhiⁿhoⁿga.....最高の鳥。 Wa'wan 儀式のなかで *Hon'ga* の頭の上に止まっ
ているワシを意味している

Xitha'pahi..... *Xitha'*、ワシ；*pahi*、首。

Dream names

Xu'ga.....アナグマ

Nicknames

Ta'thaçapa..... 気がカチカチなる

Female names

Açe'xube..... *Açe*、塗料；*xube*、神聖な

Mi'gashoⁿthiⁿ..... 動いていく、あるいは、進行していく月（*Waça'be* ならびに、
Thi'xida、ポンカ族）Mi'gashoⁿthiⁿ

Mi'gina,..... 戻ってくる月

Mi'gthitoⁿ..... 新しい月に戻る

Mi'onbathiⁿ..... 日々動いていく月

Te'mitexi.....*Te'mi*、メスのバッファロー；*texi*、神聖な。

HON'GA 血族集団 (3)

Hon'ga 血族集団は、Inke'çabe について、左側にキャンプを張っていた。Hon'ga と言うのは、“指導者”とか、“第一人者”と言う意味で、先祖とか、あるいは、最初の人々；指導的な人々、という考えをもっていた。Hon'ga と言うのが、その部族の古来の名称であったという可能性は、すでに議論したとおりである。(p 40 参照) この推論と言うのが、この血族集団の地位と、そして、それにゆだねられて任務に対する最もらしい理由を示していた。この血族集団は、*hu'thuga* の南の半分 (Hon'gashemu 分属) の中心を支配していた。こうした考えに基づいた Hon'ga の立場と言うのは、テントの中における家族の父親のようなもので、Hon'ga は *hu'thuga* のなかでの血族集団に対して、もしくは、彼の庇護の元にある家族の構成員に対して、指示者的なゆるぎない地位を占めていた。

部族における統治の力(p201 参照)、ならびに、食料に対する洞察に関係した儀式の中における指導的な役割が、Hon'ga にゆだねられていた。

ここには、二つ準血族、Wxthe'xetoⁿ ならびに Washa'betonⁿ と言う集団があった。彼らは二つの神聖なるテント、その内容物、そして、そこに保管された神物に付随するような神事を管理する任務があった。テントは、この二つの準血族手段が一緒になった場所の前に、その線の 30 フィートほど離れ、*hu'thuga* の中心に向かって 25 フィートほどのところに張られていた。

この二つのテントは、“家の両側”、*hu'thuga* を意味していた。*Washa'beton*ⁿ 準血族の前に張られたテントの中におかれた、*White Buffalo Hide* と関連した儀式から、このテントは多分に、*Ho'gashenu* 分族、この分族には、人々の物理的な資産、食料の洞察に関係したような儀式、そして、資産の管理が義務付けられていたのであるが、この分属を表していたものと思われる。*Waxthe'xeton*ⁿ 準分族の前に位置していたこのテント(12)には、神聖なる杖が保管されていて、この杖は雷や、超自然的な力と結びついていて、酋長の権威を象徴するもので、この権威と言うものは、*Wakon'da* からもたらされるものであると信じ込まれていた。このテントは、多分の *Sky people*、すなわち、人々と超自然の力との関係にかかわる儀式の役割を持っていた人たちを表していた。

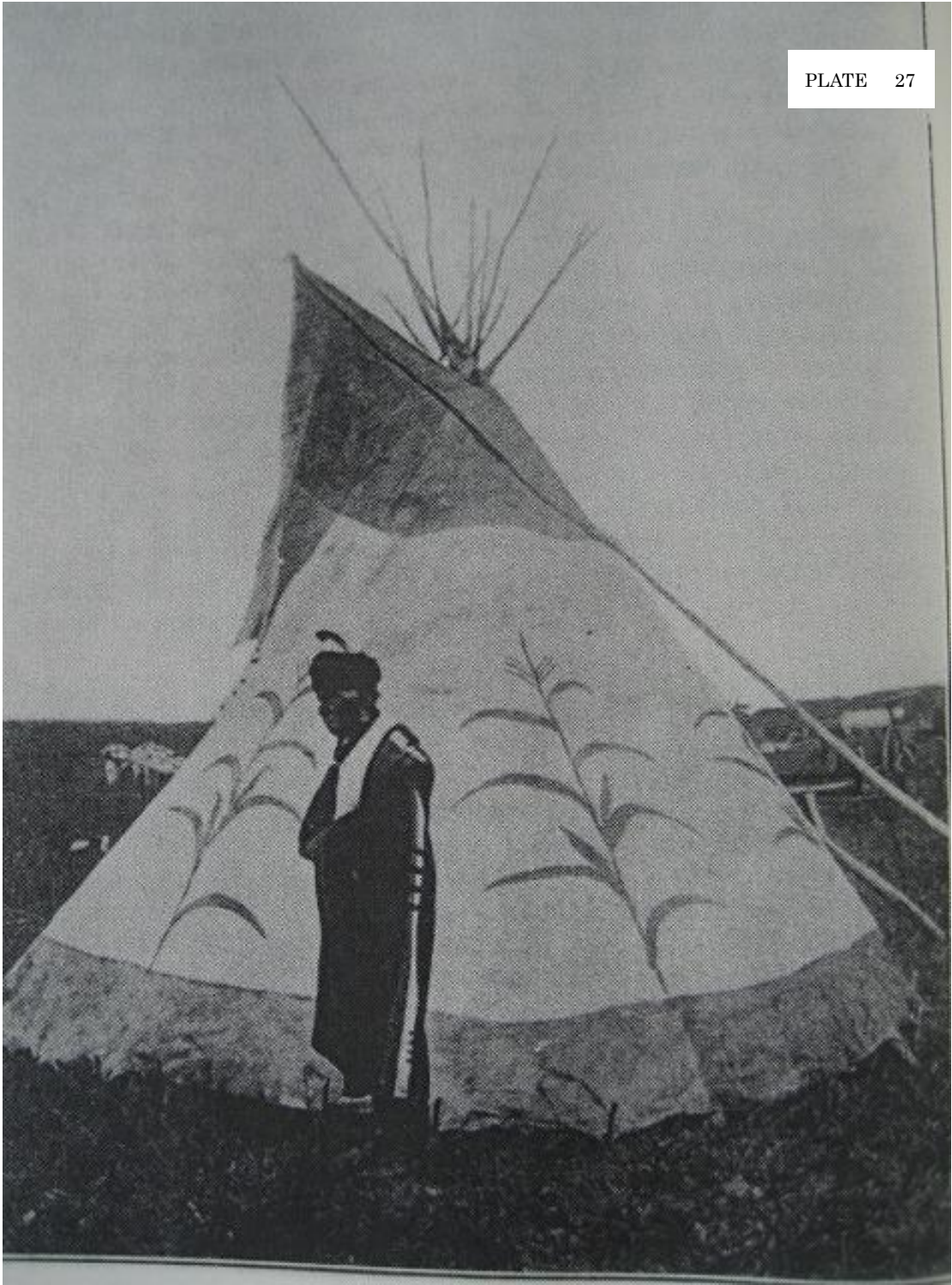
*Waxthe'xeton*ⁿ 準血族集団 (a)

Waxthe'xe (*waxthe'xe*, “影によるようなまだらになった”、“まだら文様のもの” — 神聖なる杖の名称 (pl.38) ; *ton*, “～の任務を持つ、あるいは、任務を任された”) というのは、このように説明されたものが、*xthe'xe* “名誉の証” のような、卓越性を授ける力を持っているということを意味していた。この準血族集団のタブーは、*tezhu'* と鍋鶴の重なったものであった。*Tezhu'* と言うのは、バッファローの横の部分から肉 (p.273 参照) を特殊な形で切り出したもので、この肉は、偉大なる部族の儀式のなかで神聖なる杖、この杖が聖別されるときに、この杖へのお供え物としてささげられるものであった。鍋鶴の羽が、この同じ儀式の中である役割を持ってい占い矢に使われていた。

Waxthe'xeton 血族集団に属していた家族の集団は、奉仕者としての役割を分担させられていた；こうした人たちは、*wachi'ton* (*thiton'* “働くこと” から来た言葉) “働く人々” と呼ばれていた。彼らの任務というのは、儀式のなかでの神聖なる杖に係ったものであった。彼らは、聖別の儀式で人々から献上された肉を管理し、これを分配することであった。この集団のタブーは、彼らと同じ役割をしていた準血族集団のもの、*tezhu'* と鍋鶴と言うように、彼らのものと同じものであった。このグループは、*Inke'çabe* 血族集団の中の *I'ekithe* の人たちの次にキャンプを張っていて、彼らの左側には、*Waxthe'xeton*ⁿ 準血族集団の残り的人たちがキャンプを張っていた。

*Washa'beton*ⁿ 準血族集団 (b)

*Washa'beton*ⁿ (*washa'be*, “暗いもの”、“暗い” と言う言葉は、色に関するようなものではなく、遠くのものを見る時の一般的な姿で、一毎年恒例の狩のときに指導者たちに属する特殊な役割の名前: *ton*, “所有する”) というのは、その役割の人たちが必要とする物を準備することはこの準血族集団の任務ではなかったが、この特殊な役割を持つ人たちを識別し、装飾すると言うような公の仕事をもっていた。この *Washa'beton*ⁿ は、*Teçon'ha* (*te*, “バッファロー；”、*çon*, “青白い”、あるいは、“白い；”、*ha*, “肌”、あるいは、“毛皮”)



白いバッファローの毛皮で作られた神聖なテント

— White Buffalo Hide, ならびに、そのテントを管理する役割を担っていた。(pl. 27) タブーは、神聖なる祝宴をもたらしてくれるというバッファローの舌であった。この準血族集団のその下の分派は、Hon'gaxti (xti, もともと所持していたものとして“本来の”)

と呼ばれていたが、この集団は穀物を育てることに関わった儀式の任務をもっていた。穀は神聖なとうもろこしを保管し、それに関する儀式での歌を歌い、そして、植物を植える時期を管理していた。彼らのタブーは *hatu'* (*hatu'* と言うのは、*ha*, “肌”、そして、*tu*, “緑”、とうもろこしの鞘の外側の皮にちなんだもの) であった。この結びつきの中では、Washa'be 準血族集団の任務となっていた神聖なるテントに色合いをつける装飾と言うものが非常に重要な意味となっている。Hon'gaxti はもともとの準血族集団であったが、しかし、彼らがバッファローの生息する地域に入ってきたときに、バッファローの狩に関わる儀式が、穀物を育てることに関わるようなそうしたものの影を薄くしたようだ; そうしたことから、狩の役割責任を持っていたこの準血族集団は、もっと重要な実態、すなわち付随的にとうもろこしに関する儀式をも司るような集団となった。こうしたことがあったであろうと言うことで、人々が西、ならびに、北西へと移住していった歴史のなかで、彼らがもっと厳密には彼らが狩猟民族になって言ったという、そして、穀物を育てるという農

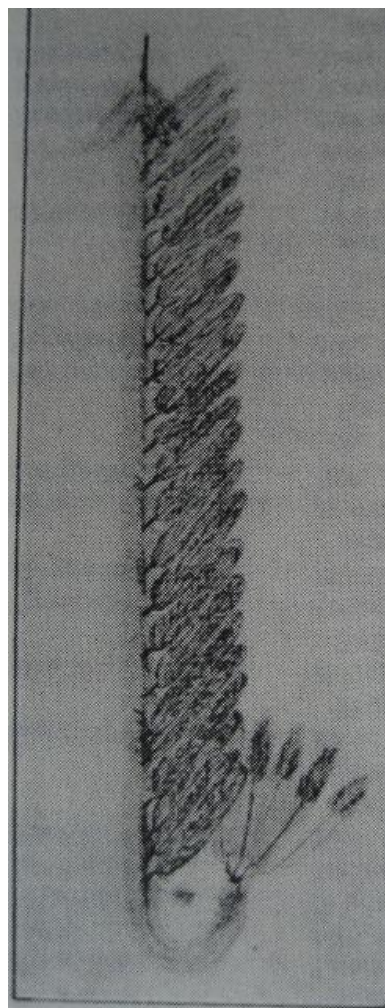


Fig. 27 Washa'be

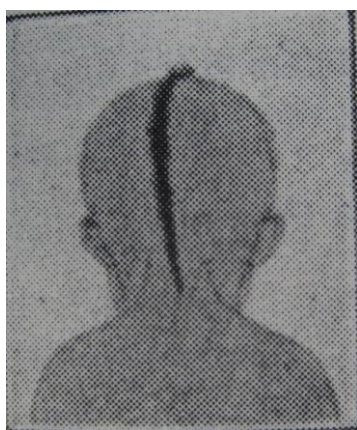


Fig. 28 Hon'ga 血族集団の
子供の髪型

耕生活が途絶え、あるいは、一時的に、放棄されたという部族の伝統を作り出していた。

Washa'betoⁿ の準血族集団は、Waxthe'xetoⁿ の準血族集団の左隣にキャンプを張っていた。

Hon'ga 血族集団の子供達の特徴的な髪型は、頭の前から首筋まで、まっすぐに残された房以外は、頭のすべての部分の髪の毛をそり落としたというものであった。(fig. 28) この形は、大空に向かって見られるようなバッファローの背筋を表現したものであるが、これは、同じような形にも見える成長しつつあるとうもろこしの姿を現してもいると言われている。

HON'GA 血族集団の個々人の名前 (3)

*Waxthe'xeto*ⁿ 準血族集団

- Aⁿ'geda.....すべての方角から。(神聖なバッファローの毛皮、p294 参照) この名前には二つある。
- Bishu'deki.....群れが動くときに立ちあがる埃にちなんだもの
- Edi'toⁿ.....*Edi'*、そこに ; *to*ⁿ 、立つ。神聖な杖にちなんだもの
- E'thonthonbe.....繰り返し現れること。(*Washa'be*、ポンカ族)
- Gain'bazhi.....無駄な一撃
- Kaxe'giuⁿ..... *Kaxe*、カラス ; *giu*ⁿ、飛ぶ。 飛んでいるカラス。二つの名前がある。カラスは、*washa'be* を作るときの象徴のひとつとして使われた。神聖なバッファローの毛皮の儀式を参照 p.300)
- Kaxe'noⁿba..... *Kaxe'*、カラス ; *no*ⁿba、二つ。(*Thi'xida*、ポンカ族)(神聖なるバッファローの毛皮の儀式を参照)
- Mixa'toⁿ.....*Mi'xa* 、鶴 ; *to*ⁿ、立っている。神聖なる杖に取り付けられた羽毛にちなんだもの。
- Monchu'ha..... グリズリーの毛皮、オマハ族との協約、1836>
- Monchu'noⁿtide..... *Monchu*、グリズリー ; *no*ⁿ、足でする行動 ; *tide*、ごろごろという音。
- Monchu'pa..... *Monchu*、グリズリー ; *pa*、頭。
- Mon'pezhi..... *Mon*、矢 ; *pezhi*、悪い。神聖なる杖の儀式の中で使用される占いの矢にちなんだもの
- Mon'umizhe..... 1826 年のオマハ協定
- Neka'hanoⁿge..... *Neka'ha*、湖の端 ; *no*ⁿge、走っている
- Nia'dishtagabi.....*Ni*、水 ; *adi*、そこ ; *shta*、*iⁿshta* 目から ; *gabtha*、開く。
(神聖なる杖の伝説 p 70 参照) ここではでは、発音の省略なしに出てきている。
- Ni'k'umizhe..... *Ni'k'umizhe*、人間の生命に宿るもの。たぶん神聖なるパイプの頭皮の上に宿るものにちなんだもの。
- Non'gazhi..... *Non'ga*、走る ; *zhi*、省略された形、否定形。
走ることのできない。
- Noⁿ'kaethoⁿbe..... *Noⁿ'ka*、後ろに ; *ethoⁿbe*、現れる
- Nudon'honga..... 指導者、主たる。(*Washa'be*、ポンカ族)
- Sha'benoⁿzhiⁿ.....*Shabe*、暗い、ものとして ; *noⁿzhiⁿ* 、立っている。神聖なる杖にちなんだもの (*Nu'xe*、ポンカ族)
- Shon'ge..... 馬。狼の古い言葉
- Shu'denaçi..... *Shu'de*、煙 ; *na*、火による行動 ; *çi*、黄色。神聖なる杖の煙の

汚れ

- Shu'kamoⁿthiⁿ..... *Shu'ka*、集団；*moⁿthiⁿ*、歩くこと。集団で歩くこと。由来は不明。（*Washa'be*, *Hi'çada* 準分族、ポンカ族）
- Teba'gizhe..... *Te*、バッファロー；*ba'gizhe*、曲がった、不ぞろいの。バッファローの群れが、水平線と比べてみたときに不ぞろいであること。
- Tehon'moⁿthiⁿ..... *Te*、バッファロー；*hoⁿ*、夜；*'moⁿthiⁿ*、歩く
- Te'hutonbi..... *Te*、バッファロー；*hutonbi*、大声で吼えること。二つの名前がある。（p298 の儀式を参照）
- Tehu'xthabe..... *Te*、バッファロー；*hu'xthabe*、腎臓の周りの波状脂肪
- Tenu'ga..... 雄のバッファロー（*Washa'be*, ポンカ族）
- Tenu'ganoⁿpewathe..... *Tenu'ga*、オスのバッファロー；*nonpewathe*、恐ろしさを感じさせる。恐ろしいオスのバッファロー
- Tenu'gawazhiⁿpezhi..... *Tenu'ga*、雄のバッファロー；*wazhiⁿ*、感情の力、怒り；*pezhi*、悪い。
- Tezhe'bthon..... *Tezhe'*、バッファローの糞；*bthon*、小さな。
- Thiçpon'bi..... 手で調べること。とうもろこしにちなんだもの（p. 266 儀式参照）
- Thingi'çe..... とうもろこしの鞘が裂かれるときに発生する音、（p.266 の儀式参照）
- Ushkoⁿbitega..... *Ushkoⁿ*、転げまわる；*bitega*、新しくすること、あるいは、気分転換すること
- Uthu'shinoⁿzhiⁿ..... *Uthu'shi*、前面に；*noⁿzhiⁿ*、立つ。神聖なる杖にちなんだもの
- Wanon'shekithabi..... 戦士に育てられた者
- Wahin'une..... 杖を清めるための脂の選択にちなんだもの
- Wathi'inge..... あまれたとうもろこしの鞘のひげ
- We'kushtoⁿ..... *We'ku*、ご馳走を捧げること；*shtoⁿ*、しばしば。1830 年のオマハ族の協定に出てくる。
- Xtha'gaxe..... 花が咲くこと。とうもろこしにちなんだもの（p266 の儀式参照）
- Zhonçon..... 白い木材

Fanciful names

- Monchu'nonba..... 二匹のグリズリー
- Shaan'..... ダコタ族が区別されていた名前

Famale names

- Inshta'mon'çewiⁿ..... *shtoⁿ*、目；*moⁿçe*、金属、鉄；*wiⁿ*、女性言葉。二つの名前がある。

Mi'gashon ^{thin}	、 運行している月。四つの名前がなる。
Mi'gthiton ⁱⁿ	新しいつきへの回帰
Mi'mite.....	意味不明。四つの名前がある。
Min'mon ^{shibathi} n.....	高く上った月
Mi'waçon.....	白い月。三つの名前がある。（ <i>Pon'caxti</i> , <i>Hi'çade</i> 準分族、 ポンカ族）
Nonzhe'giton.....	意味不明。二つの名前がある。（ <i>Thi'xida</i> と <i>Wazha'zhe</i> , ポンカ 族）
Ton'in ^{thin}	運行している新しい月。三つの名前がある。（ <i>Thi'xida</i> , ポンカ 族）
We'ton ^{bethin}	希望を与えてくれるもの。（ <i>untombethe</i> から。希望、もしくは、 望むこと）



Fig. 29 Mo'xe'wathe

Wathi'to' (世襲の奉仕者) 準分族

Ni'kie names

- Ga'cube..... 風に向かって走っているバッファローの姿。 (Wazha'zhe. ポンカ族)
- Ha'xigi..... 最初の男の名前、神話的なもの
- Hon'gaxti..... *Xti* 、真の。真の、もしくは、本来の *Hon'ga*
- Inshta'pa..... 意味不明

Kage'zhinga..... *Kage'*、弟；*zhinga*、小さな。子供の名前
 Ni'kadathin..... *Ni'ka*、男；*dathin*、狂った。
 Nonshton'azhi.....*Nonshton*、立ち止る；*azhi*、否定。彼は立ち止まらない。
 Shon'gehonga.....馬のリーダー。古い意味では、狼のリーダー。
 Uthu'shinoⁿzhiⁿ..... *Uthu'shi*、前に；*noⁿzhiⁿ*、立つ。神聖なる杖にちなんだもの

Fanciful names

Inchoⁿ'gatha.....意味不明

Femaile names

Mi'akoⁿda..... *Mi*、月；*Wakoⁿda*の一部
 Mi'moⁿshihathiⁿ..... 高く上った月。三つ名前がある
 Nonzhe'giton..... 二つの名前がある。（*Wazha'zhe* ならびに *Thi'xida*、ポンカ族）
 We'conⁿkithe..... 社会、あるいは、兄弟のように、順序どおりに一緒に来ること、

Washa'beton 準血族集団

Nikie names

Insh'a'gewahitha..... *Insh'a'ge*、老人、一目置かれたひと；*wahitha*、足の不自由な。
 彼の情報を述べる時に熟練者に教わっている伝令
 Inshⁿta'baçude..... *Inshⁿta*、目；*baçude*、切り落とす。バッファローの目の周りの
 毛を切り落とすことにちなんだもの。（*Nu'xe*、ポンカ族）
 Mon'shtin'ge.....ウサギ
 Mon'geda.....あらゆる方角から。（儀式 p294 参照）
 Pahi'çka..... *Pa*、頭；*hi*、髪の毛；*çka*、白い。毛を切り落とされたときの
 バッファローの肩の様子を表したもの
 Tenu'gaçka..... *Tenu'ga*、オスのバッファロー；*çka*、白い
 We'noⁿxitha.....意味不明

Borrowed names

Tenu'gagthinⁿthinⁿke.....座っているオスのバッファロー ダコタの名前と言われている。
 Wakoⁿmonthinⁿ.....神秘的な歩き方 ダコタの名前と言われている。

Female names

A'oⁿwiⁿ.....意味不明（*Waçabe*、ポンカ族）
 Miⁿ'mite.....意味不明 四つの名前がある
 Mi'tene.....意味不明（*Wazha'zhe*、ならびに、*Pon'caxti*、*Hi'çada* 準分族、ポンカ族）
 Teçon'dabe.....白いバッファロー。（*Woçabe*、ポンカ族）神聖なバッファロー
 の白い毛皮にちなんだもの

Teçon'win..... *Te*、バッファロー；çon、白い； *win*、女性の言葉。二つの名前がある。（*Waçabe*、ポンカ族）神聖なバッファローの白い毛皮にちなんだもの

Wihe'zhi'nga..... *Wihe'*、妹；*zhi'nga*、小さな

Honga'zti 準分族

Ho'ga'xti..... 真の *Hon'ga*

Mo'xe'wathe(fig. 29).....勝利の

THA'TADA 血族集団 (4)

Tha'tada は、この部族の中のどのほかの血族集団とも異なるような点を持っている。かれらは共通の儀式とか象徴というものを持っていない。彼らの準分族の持っている三つの儀式は穀物の成長とその世話との関係を持ったものであった；儀式のなかで共有とされていた *Waça'be* は、春の訪れのころ見られた；*Wazhi'ga* は、鳥たちにより荒らされることから穀物を守るために祈願するものであった；*Ke'in* の儀式は、雨に関わるものであった。こうした準分族のもつ各自の儀式の目的にはこうした一般的な結びつきがあったが、彼らの象徴とかタブー、並びに、かれらの *Ni'kie names* というのは異なっていた。*Te'pa* というのは、*Tha'tada* の準分族の *Nini'baton* であった；この準分族は、その部族の基本となるような食料の確保、*Hon'ga* の準分族である *Washa'beton* の場合にみられたものと何か似たようなものではあるが、実は逆であるもの、において取られた違いを示していたように思われる。*Te'pa* の準分族のタブーや名前はバッファローの頭にちなんだものであるが、髪の毛の象徴的な切り方や、*Ni'kie names* は、彼等がバッファローのいる土地に居ついた時にバッファローによりその座を追われた、おそらくそれまでの儀式で重要な役割を果たしていた、ワシにちなんだものがある。この準分族の *Nini'baton* 部門に対する選択と、神聖なる部族のパイプの儀式のなかでの使用にかかわるなかで明確にされた役割は、この分族が部族のなかでも重要な地位にあったこと、そして、現在のこの血族集団のなかでの現在の序列に優先するようなその儀式を保持していたことを示しているように思われ、さらに、この重要性は神聖なる伝説のなかに出てくる“二人の老人”により認識されていたように思われる。

Tha'tada の集団は、*Ho'ga* の左隣にキャンプを張った。*Tha'tada* という言葉は、おそらく、*tha'ta tathishonthonka* (*tha'ta*, “左手；”；*tathishon*, “の方角；” *thonka*、“座っている人達”)—これは、“*hu'thuga* の中での占める位置が *Hon'ga* の左側である人たち”という意味であるが、この言葉の短縮されたものである。この名前は、決して古いものではなく、おそらく、この部族が現在の形に組織された時に与えられたものであろう。

この *Tha'tada* には四つの準血族集団：*Waça'be itazhi*, *Wazhi'ga itazhi*, *Ke'in*, そして、*Te'pa itazhi* があった。

Waça'be itazhi 準血族集団

(*Waça'be*, “黒い熊 ;” *itazhi*, “触れない”) 彼等の儀式は黒い熊、この動物は通常、この準血族集団に面倒を見られていたものであるか、その黒い熊に関わりを持つものであったが今ではなくなっている。この準血族集団が、最初の雷が春に聞こえた時に執り行われた儀式に *We'zhi'shte* 血族集団とともに加わっていたという記録が残されている。

Xu'ka 準血族集団

Xu'ga というのは、神秘的な儀式の中での教示者、あるいは、指導者という意味である。この名前は、*White Buffalo Hide* とか、*Sacred Pole* に儀式の中で捧げられる歌の間に、その神聖なる歌が歌われる時に何か間違いがあったとき、その歌を確かなものであると保証するために、*Hon'ga* の血族集団に対して、促進ことをする役を世襲的に担わされた家族の集団に対して与えられたものであった。



Fig. 30 *Waça'be* 準血族集団の子供の髪型

hu'thuga の中で、*Xu'ka* の準分族は、*Hon'ga* の左にキャンプをしており、*Xu'ka* の左には、*Waça'be* の準血族集団の残りの者たちがキャンプをしていた。*Waça'be* 準血族集団のタブーは黒い熊であった。その熊の生の肉は食されることはなかったし、また、その毛皮も触られることはなかった。

この準血族集団に属する子供たちの髪の特徴的な切り方は、熊の頭を象徴した頭の前面の幅の広い房を残して、すべてを剃り落すというものであった。(fig. 30)

Wazhi'ga itazhi 準血族集団 (b)

この準血族集団の名前は、*wazhin'ga*, “鳥 ;” *itazhi*, “触れない” から来たものである。かつてこの部族により執り行われていた儀式は、穀物を荒らしまわる鳥たちによる害から、穀物を守るというものであった。この儀式は長い間、執行されず、また、それは単なる伝統的なものにすぎなかった。一つの行動は、畑に部分的にやたらとまき散らすことーこれは、小さな鳥が、トウモロコシを蝕み、こうして、人々に食料を与えなくするような害から守ることを *Wakon'da* に、象徴的にアピールするものであった。この準血族集団の儀式は、まぎれもなく、彼等がバッファローのいる領域に入ってきた以後よりも、それ以前の穀物の栽培により依存していた時代を反映ものであった。

タブーはあらゆる小鳥たちであった。この血族集団の子供たちでさえ、狩りをする時に、鳥たちに対してを弓で射たりむ、あるいは、木切れで叩き落とすようなことをしても、決して手



Fig. 31 *Wazhin'ga itazhi*
準血族集団の子供の髪型

でもその鳥に触れるようなことはしなかった。

子供たちの髪の毛の象徴的なカットは、頭の周りに髪の毛の縁を残し、前部には、小さな房をつくり、後頭部にはやや大きな塊を残し、頭を剃りあげるというものであった。(fig. 31) 縁状の髪は、鳥の体の外観を表したもので、その頭の前にある毛の塊は頭を、そして、後ろの房は鳥の尾を表していた。

Wazhiⁿga itazhi は、Waça[']be itazhi の左隣りにキャンプを張っていた。

Ke[']iⁿ 準血族集団 (c)

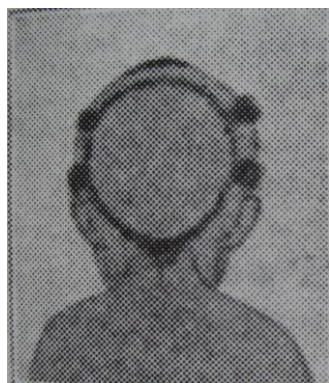


Fig. 32 Ke[']iⁿ 準血族集団の
子供の髪型

Ke[']iⁿ の名前は、ke, “亀 ;” iⁿ, “運ぶ” という言葉からなっており、“亀の運び人、もしくは、運搬人” の意味である。かつてこの準血族集団が保持していた儀式は執り行われなくなってから久しく、それは、言い伝えとして知られているに過ぎない。亀の形というのが、大地の上に描かれ、その塊が動物を沈み彫りした形で彫られ、そして、この儀式は雨から安全に守り、また、嵐を追いやるような、その形に関係しているといわれている。Turtle-beareres (亀の運搬人) の儀式は、彼らの隣に位置していた準血族集団の Wazhiⁿga itazhi の持っていたものにも関与していたのではないか、そして、同じような理由、すなわち、狩りにより農業というものが重要で無くなっていったことにより影をひそめるようになったと考えられる。

タブーは亀の肉で、これは食べられるようなことはなかった。

子供の髪の毛の象徴的な形は、頭のまわりに沿って短い縁を、そして、頭の前部には小さな一つの房、両側に二つの房、そして、首のうなじのところに一塊の房を残して、頭全体を剃りあげるというものであった。(fig. 32) 短い縁は亀の甲羅を形どったもので、頭の前髪の毛の房はその頭を、両脇の二つの房は足を、そして、うなじの房はしっぽを意味していた。

Ke[']iⁿ は Wazhiⁿga itazhi の左にキャンプを張っていた。

Te[']pa itazhi 準血族集団 (d)

この準血族集団の名前の由来は : te, “バッファロー ;” pa, “頭 ;” itazhi, “触れない” というものである。かつてこの準血族集団に所属していたバッファローの頭を保管するという儀式は、すでに無くなり、彼等についての信用できるような言い伝えは残っていない。一本のパイプが、七人の酋長による部族の会議、これが開かれるときには、安全に保管されるようにその血族集団の代表としてこの準血族集団に、彼等の役割として渡されていた。ワシにちなんだこの血族集団の名前は、この儀式で使われるパイプにもまたちなんだものであった。この準血族集団の首領は、儀式で神聖なる部族のパイプでタバコが吸われる時

には、このパイプの運び人の一人としての公式な役割を担っていた。

タブーはバッファローの頭であった。この準血族集団に属するものは誰一人、バッファローの角でできたスプーンに触るものはいなかった。

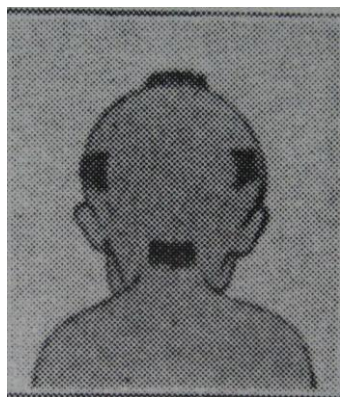


Fig. 33 Te'pa itazhi 準血族集団の子供の髪型

この準血族集団の子供たちの髪型の特徴は、この血族集団のタブーとかかわるようなものではなく、むしろ、ワシに関係しており、それは、また、パイプとも関わったものであった。髪は、頭の前部のところに四角に房を残し、同じようなものをうなじのところに残し、そして、耳のところにやや大きな房を残し以外は、キチンと剃りあげていた。(fig. 33) こうしたものは、ワシの頭と尻尾、そして、二つの翼を表現していた。

Wa'wan という儀式で使われていたパイプは、この血族集団に属する者たちのテントに、入口の両側にそれぞれ一つ、そして、テントの後ろ側に一つ飾られていた。

この準血族集団のキャンプでの位置は、Ke'in の左側であった。

THA'TADA 血族集団の個人の名前 (4)

Waça'be ifazhi 準血族集団

Ni'kie names

- Çida'moⁿthiⁿ.....意味不明
Gada'ka.....意味不明
Giha'zhi.....おおよその意味、手入れをしていない)
Gi'thikoⁿbi.....場所が確保された人
Inⁿshta'duba..... Inⁿshta、目 ; duba、四つ (Waçu'be, ポンカ族)
Kaxe'katithe..... Kaxe'、カラス ; ka、カラスに書きたてられて音 ; tithe、通っていく。
Ku'wiⁿxegthithon..... ぐるぐる回る
Moⁿ'shkaaxa..... Moⁿ'shka、ザリガニ ; axa、~のために泣く。(Ni'kupashona ポンカ族),
Moⁿthi'uke..... 土をほる人。(Xa'ehanon のもとの名前)
Noⁿ'kaxude..... Noⁿ'ka、後ろに ; xude、灰色
Noⁿ'pabi..... 怖がっている人 (Hi'çada , ポンカ族)
Pi'çithinge..... Pi'çi、すり傷 ; thiⁿge、なしに、何もなく 1886 年のオマハ族との協約の中に見られる。
Shui'na.....意味不明、 (Waçu'be, ポンカ族)
Tepa'uthixaga.....意味不明



HUPETHA

Te'thiti.....バッファローの肋骨 1826、1846 年のオマハ族との協約
 Thoⁿga'gaxe.....偉大さの自負、自惚れ
 U'xthetegoⁿ.....意味不明
 Waça'apa.....意味不明 (Nu'xe、ポンカ族)
 Waça'be.....黒い熊
 Waça'bezhiⁿga.....黒い熊；、若い、少しだけ。(Waçu'be、ポンカ族)
 Wawe'xa.....～を笑う。笑っている人..

Dream names

Ni'dahoⁿ..... Ni'da、神秘的な存在、もしくは、動物 (この名前の注釈を見よ。P194) ; hoⁿ、夜

Fanciful names

Hu'petha(pl. 28).....意味不明
 Niu'gashude..... Ni、水 ; u'gashude、濁わす。水のなかで引っかいている熊の様子。

Valor names

A'gahawashushe..... A'gaha、～から離れる。群れの外にいくように ; washushe、勇敢に。勇敢さが認められたとき (Washa'zhe、ポンカ族)
 Pa'thiⁿnoⁿpazhi..... Pa'thiⁿ、ポウニー族 ; noⁿpa、恐怖 ; zhi、否定。ポウニー族以外の恐怖 (Thi'xida、ポンカ族)

Nicknames

Xa'debanoⁿ.....東になった草

Femanle names

Doⁿ'abi.....意味不明 この名前には二つある
 Doⁿ'ama.....意味不明
 Ma'zhoⁿwiⁿ.....Ma'zhoⁿ、mazhoⁿha、狐 ; wiⁿ、女性言葉。 この名前には二つある
 Mi'bthiwiⁿ.....意味不明 (Pon'caxti, Monkon' 準分族、ポンカ族)
 Mi'hupegthiⁿ.....意味不明
 Mi'noⁿdabi.....唯一の太陽
 Mi'oⁿbathiⁿ.....日々運行している月
 Mi'tonⁿgi.....回帰して来たあたらしい月
 Ni'dawⁿi..... Ni'da、神秘的な意味 ; 女性言葉
 Nonçe'iⁿçe.....意味不明
 Ton'ingina.....新しい月にちなんだもの。この名前には三つある
 Wate'wiⁿ.....勝利の女性
 We'toⁿna.....意味不明

Xu'ka (世襲的な促進者) 準血族集団 (a')

Ni'kie names

- A'gahamoⁿthiⁿ..... *A'gaha*、～から離れる、群れの外に ; *moⁿthiⁿ*、動くこと、放浪すること、歩きまわること。
- Çi'xude..... Çi'、足 ; *xude*、灰色
- Ingthoⁿxepa..... 小さなワイルドキャット
- Ka'xepa..... *Ka'xe*、カラス ; *pa*、頭
- Keoⁿ'hazhi..... *Ke*、亀 ; *oⁿ'ha*、自由になること ; *zhi*、否定。 (*Poⁿ'caxti*、ポンカ族)
- Ke'toⁿgaiⁿshage..... *Ke'toⁿga*、偉大なる亀 ; *iⁿshage*、尊敬すべき、老人
- Mon'gezhide..... *Mon'ge*、胸 ; *zhide*、赤い。 亀の胸にちなんだもの
- Mon'xpiⁿ'zxaga..... *Mon'xpi*、雲 ; *xaga*、荒い
- Ni'çtumoⁿthiⁿ..... *Ni'çtu*、後方へ ; *moⁿthiⁿ*、歩くこと。 (*Waça'be*、ポンカ族)
- Pahe'tape..... 丘を求めて探す
- Sha'geçka..... *Sha'ge*、かぎ爪 ; *çka*、白い
- Watha'wajigthe..... *Watha'wa*、数える ; *ji*、それから ; *gthe*、すわる。歌を数える杖を保持している後見人の仕事にちなんだもの

Dream names

Tenu'ga zhoⁿthiⁿ'ke...眠っているオスのバッファロー

Female names

- Mi'gthitoⁿiⁿ..... 新しい月の回帰
- Mi'hupagthiⁿ..... 意味不明
- Mi'toⁿiⁿge..... 新しい月への回帰
- Tha'tadawiⁿ..... *Tha'tada*、血族集団の名前 ; *wiⁿ*、女性言葉
- Ton'iⁿthiⁿ..... 新しい月の動き

Wazhin'ga itazhi 準血族集団 (b)

Ni'kie names

- A'bthuzhide..... *A'bthu*、翼、古い言葉 ; *zhide*、赤い。赤い翼をもったクロウタドリにちなんだもの
- A'hiⁿxega..... *A'hiⁿ*、翼 ; *xega*、灰色。この名前には二つある。
- A'hiⁿzhide..... *A'hiⁿ*、翼 ; *zhide*、赤い—赤い翼をもったクロウタドリ
- Axi'abaha..... 意味不明
- Çi'mikaçi..... Çi'、足 ; *mikaçi*、狼、コヨーテ

Çi'xude.....	Çi', 足 ; xude, 灰色
Gamon'xpi.....	Ga, 打つこと ; mon'xpi, 雲。雨が降るまで雲を打つ風 (Waça'be , ポンカ族)
Gion'habi,.....	Gi, 彼から ; on'ha, 開放される ; ~する人。 ~から自由になっ た人
Gthedo'n'no'zhi ⁿ	Gthedo ⁿ , 鷹 ; no'zhi ⁿ , 立っている。 (Ni'kapashna, ポンカ族)
Gthedo'xude.....	Gthedo ⁿ , 鷹 ; xude, 灰色。 (Ni'kapashna, ポンカ族)
Gthedo'zHINGA.....	小さな鷹
In'shta'çka.....	In'shta', 目 ; çka, 白い。クロウタドリにちなんだもの
Ke'tonga.....	Ke, 亀 ; to ⁿ ga, 大きな。 (Xu'ka ; また, Waça'be, Hi'çada 準 分族, ポンカ族)
Ma'azhinga.....	Ma'a, ポプラ ; zHINGA, 小さな, 若い (Xu'ba, Thi'xida も, ポンカ族)
Minke'shage.....	Min'ke たぶん mika, アライグマ ; shage, 爪
Monshti'n'çka.....	ウサギ ; çka, 白い。 (Wazha'zhe, ポンカ族)
Ni'kuthibtho ⁿ	人間がいる匂い
No ⁿ ba'monthi ⁿ	No ⁿ ba, 二つ ; monthi ⁿ , 歩くこと (Wazha'zhe, ポンカ族) オマハ協定, 1830 年
No ⁿ be'duba.....	No ⁿ be, 手 ; duba, 四つ。熊にちなんだもの(?)
No ⁿ 'no ⁿ de.....	No ⁿ , 主要な ; no ⁿ de 心臓
No ⁿ 'pewathe.....	恐怖をもっている人。 (Wazha'zhe, ポンカ族)
No ⁿ zhi'monthi ⁿ	No ⁿ zhi ⁿ , 雨 ; monthi ⁿ , 歩くこと。雨の前でもたじろぐことの ない砂ツバメにちなんだもの
Pi'daega.....	意味不明。 古い名前
Shu'zhi ⁿ ga.....	小さな草原鶏
Tawa'i ⁿ ge.....	意味不明
Teçon'.....	Te, バッファロー ; çon', 白い。1830, 1836, 1865 年のオマハ協約 (Hi'çada, ポンカ族)
U'ho ⁿ no ⁿ ba.....	U'ho ⁿ , 料理人。儀式の食事の用意をする人 ; no ⁿ ba, 二つ。 (Washa'be, ポンカ族)
U'wethate.....	U'we, 野原 ; thate, 食べること。クロウタドリによりとうもろ こしが食べられることにちなんだもの
Wa'baçkaha.....	意味不明
Washko'monthi ⁿ	Washko ⁿ , 強さ ; monthi ⁿ , 歩くこと。1815, 1826, 1836, 1865 の オマハ協約の中に出てくる。 (Washa'be, ポンカ族)
Wa'thidaxe.....	熊が幹の蜂蜜を取ろうと、穴をつめで引っかくときのような、

つめで引き裂くときの音 (*Washa'be*, ポンカ族).

Watoⁿi.....よく見得る。はっきりと見得る

Wazhiⁿga.....鳥 (*Waça'be*, *HI'çada* 準分族、 ポンカ族)

Zhi'doⁿhahiⁿ.....露の降りたなかを歩く人

Dream names

Hoⁿa'kipa..... *Hoⁿ*、夜 ; *a'kipa*、出会う

Teⁿu'gagahi.....雄のバッファロー ; 酋長。 (*Nu'xe*, ポンカ族)

Teⁿu'gawazhiⁿ.....怒ったバッファロー雄

Uha'hi.....意味不明

Wazhiⁿagahige.....Bird 酋長 (*Waça'be* 血族集団、ポンカ族)

Fanciful names

Pe'degahi.....Fire 酋長 (*Waça'be*, ポンカ族) 1865 年のオマハ協定

Umon'honⁿtonwongthoⁿ... オマハ族の部落

Nicknames

Iti'goⁿnonpiⁿ.....首に飾られたメダル

Wabthu'ga.....ヒキワリトウモロコシ

Female names

Gixpe'axe.....意味不明

Mi'akoⁿda.....月の力

Mi'dashoⁿthiⁿ.....月にちなんだもの

Mi'oⁿbathiⁿ.....日々運行している月。これには四つの名前がある。

Mi'tena.....太陽にちなんだもの

Moⁿshihathiⁿ.....高く昇ること。これには六つの名前がある。

Ni'dawiⁿ..... *Ni'da*、神秘的なもの、あるいは、とてもすばらしいもの ; *wiⁿ*、女性結語

Tha'tadawiⁿ..... *Tha'tada* *wiⁿ*、女性結語

Tha'taweçoⁿ.....白人の 女

Ton'ingthihe.....新しい月が突然戻ってくる

We'toⁿna.....意味不明

Wihe'toⁿga.....大きな妹

Ke'in 準血族集団 (c)

Ni'kie names

Ezhno ⁿ zhuwagthe....	<i>Ezhnoⁿ</i> 、ただ一人； <i>zhugthe</i> 、ともに； <i>wa</i> 、彼ら
He'ga.....	ノスリ
Hega'di.....	意味不明
He'kathon ⁿ	<i>He</i> 、角； <i>kathonⁿ</i> 、ガラガラと言う音、がたがたと言う音。角が木々を打つときに立てる音（ <i>wazhin'ga</i> 準分族）
Inku'shige.....	意味不明
Ke'chu ⁿ	<i>Ke</i> 、亀； <i>chuⁿ</i> 、たくさんの。これには二つの名前がある。 （ <i>ni' kie</i> だとしても非常に疑わしい）
Ke'gaxe.....	<i>Ke</i> 、亀； <i>gaxe</i> 、作る。亀を儀式的に保持するときに大地にその亀の姿を描くことにちなんだもの。
Kegthe'ceinshtazhide..	<i>Ke</i> 、亀； <i>gthe'ce</i> 、斑点のある； <i>inshta</i> 、目； <i>zhide</i> 、赤い。 砂山に住んでいる亀
Ke'honga.....	<i>Ke</i> 、亀； <i>honga</i> 、指導者、もしくは、先祖
Ke'inzhinga.....	小さな
Kethi'hi.....	<i>Ke</i> 、亀； <i>thi'hi</i> 、動物を怖がらせること。二つの名前がある
Kezhin'ga.....	<i>Ke</i> 、亀； <i>zhin'ga</i> 、小さな。（ <i>Ni' kapashna</i> 、ボンカ族）
Mi'xabaku.....	<i>Mi'xa</i> 、アヒル； <i>baku</i> 、曲がった、ゆがんだ。（ <i>Ni' kapashna</i> 、ボンカ族）
Mon'cedon ⁿ	意味不明
Na'ethonbe.....	<i>Na</i> 、熱により； <i>ethonbe</i> 、現れる。亀が水面の上に出てきた時の熱い日にちなんだもの
Nia'kibanon ⁿ	<i>Ni</i> 、水； <i>a</i> 、のために； <i>banonⁿ</i> 、走る、競争して。亀が水に飛び込むことにちなんだもの
Nia'tagigthe.....	<i>Ni</i> 、水； <i>a</i> 、のために； <i>ta</i> 、の方に向かって； <i>gigthe</i> 、家に戻る。
Nitha'shtage.....	<i>Ni</i> 、水； <i>tha</i> 、口を伴う行動； <i>shtage</i> 、気乗りのしない。
No ⁿ no ⁿ de.....	<i>Noⁿ</i> 、主要な； <i>noⁿde</i> 、心臓
No ⁿ pewathe.....	<i>Noⁿpe</i> 、心配する； <i>wa</i> 、のうえに； <i>the</i> 、存在している。 恐れている人（ <i>Wazha' zhe</i> 、ボンカ族）
Shkon ⁿ shkon ⁿ tithe.....	<i>Shkonⁿshkonⁿ</i> 、体とともに動かすこと； <i>tithe</i> 、突然に。
Shu'zhi ⁿ ga.....	草原鶏
Te ⁿ u'gawaxhi ⁿ	<i>Teⁿu'ga</i> 、雄のバッフアロー； <i>waxhiⁿ</i> 、ここの結果になる、激怒
Uga'hatithe.....	<i>Uga'ha</i> 、浮かぶ； <i>tithe</i> 、～により
U'namon ⁿ thi ⁿ	<i>U'na</i> 、借りる； <i>monⁿthiⁿ</i> 、歩くこと
Wanon ⁿ çabe.....	引っかくもの。捕まったときに必死に逃げようとあがく亀により傷つけられた引っかけ傷にちなんだもの
Xae'mon ⁿ thi ⁿ	<i>Xae</i> 、結果として聞こえてくる響き； <i>monⁿthiⁿ</i> 、動き、歩くこと。

鳥たちによって立てられた音

Dream names

Wathi'shnatigthe.....はっきり見えること； 、突然に

Valor names

Ka'xebaha..... *Ka'xe*、カラス；*baha*、存在する。勇気を示すバッヂにちなん
だもの

Wa'toⁿnoⁿzhiⁿ..... *Wa'toⁿ*、上に；*noⁿzhiⁿ*、立つ。

Nickname

Iti'goⁿnoⁿp'iⁿ..... *Iti'goⁿ*、祖父；*noⁿp'iⁿ*、首の周りに纏う。纏ったメダルにちなん
だもの

Female names

Doⁿ'ama..... 意味不明. この名前には五つある。

Mi'akoⁿda..... 月の力

Mi'gashoⁿthiⁿ..... 運行する月。この名前には四つある。（*Washa' be* ならびに
Thi' xida, ポンカ族）

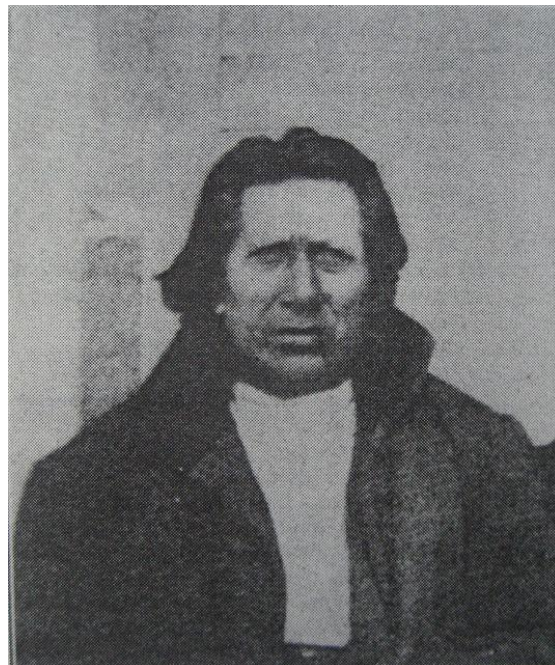


Fig. 34 Cha'cathiⁿge

Mi'gthedoⁿwin..... *Mi*、月；*gthedoⁿ*、鷹；*wiⁿ*、女性。この名前には二つある。
 (*Pon' caxti Moⁿkon'* 準分族、ポンカ族)
 Mi'moⁿshihathiⁿ.....高く上った月。二つの名前がある。 (*Pon' caxti, Moⁿkon'*
 準分族、ポンカ族)
 Mi'tene.....月にちなんだもの。この名前には七つある。(*Washa' be, Hi'
 çada* 準分族、ならびに、*Wazha' zhe*, ポンカ族)、
 Ni'dawin..... *Ni'da*、子悪魔、神がかりの小さな生き物；*wiⁿ*、女性。この名前
 には七つがある。(p194 の欄外を見よ)
 Noⁿçe'inçe.....意味不明。この名前には八つある。(*Wazha' zhe, Thi' xida*,
 ならびに、*Washa' be, Hi' çada* 準分族 ポンカ族)
 Ton'ingthihe.....新しい月が突然現れること
 Wate'win..... *Wate*、勝利 この名前には三つある。(*thi' xida* , ポンカ族)

Te'pa itazhi 準血族集団 (d)

Ni'kie names

Agthi'duba.....十四
 A'hiⁿçka..... *A'hiⁿ*、翼；*çka*、白い。1830 年のオマハ族の協約 (*Washa'be*
 ポンカ族)
 A'hiⁿçnede..... *A'hiⁿ*、翼；*çnede*、長い。ワシにちなんだもの
 A'zhidoⁿtoⁿ..... *A'zhidoⁿ*、濡れた；*toⁿ*、立つ。露で濡れたワシにちなんだもの
 Cha'çathinge (fig. 34).. *Cha'ça*、だらしのない、しわくちやの；*thiⁿge*、否定。きれい
 好きのワシの異常な姿にちなんだもの
 Çi'çi.....黄色い脚
 Çi'ha.....魂
 Çi'toⁿga.....大きな脚
 Ezhnoⁿ'hoⁿga..... *Ezhnoⁿ*、ただ単なる；*hoⁿga*、指導者。
 Gaha'gthiⁿ.....木に止まっているワシにちなんだもの。1815 年のオマハ協定の
 なかに出てくる。
 Gahi'ge.....酋長。(*Waca'be, Hi'çada* 準分族、ポンカ族)
 Gaku'winxe..... *Ga*、打つなどの行動；*ku'wiⁿx*e、向きをかえる。ワシが空高く
 舞いあがるのにちなんだもの。(髪のカットの儀式を参照。)
 (*Wazha'zhe* ならびに *Thi'xida*、ポンカ族)
 Gap'on'dithon.....ワシが降りて止まる時に枝ががたがた震動すること
 Hiⁿ'xpeagaçnede..... *Hiⁿ'xpe*、柔らかな羽毛の羽；*aga*、垂れ下がっている；*çnede*、
 長い。ワシから取られた、パイプの儀式のなかで象徴として
 使われた柔らかな羽

I'gachizhe.....	<i>I</i> 、ともに； <i>gachizhe</i> 、乾いたへりや葉を打って落とすこと。 わしが止る時にちなんだもの
In'gthon'ga.....	ワイルドキャット（ <i>Xu'ka</i> も同様）
Mon'çeguhe.....	意味不明
Mon'ge'çi.....	<i>Mon'ge</i> 、胸； <i>çi</i> 、黄色
Mon'gthi'xta.....	クロウタドリ
Nini'ba.....	パイプ（ <i>Waça'be</i> 、ポンカ族）
Nini'bai'sh'age.....	<i>Ni'i'ba</i> 、パイプ； <i>i'sh'age</i> 老人、尊敬に値する人
No'n'nde.....	<i>No'n</i> 、主たる； <i>n'nde</i> 、心臓
No'nzhi'monthi'n.....	<i>No'nzhi'n</i> 、雨； <i>monthi'n</i> 、歩くこと
Paçon'.....	<i>Pa</i> 、頭； <i>ço'n</i> 、白、あるいは、白いろの。ハゲワシ
Paçon'nonzhi'n.....	<i>Paço'n</i> 、ハゲワシ； <i>nonzhi'n</i> 、立っている
Pe'hi'n'xte.....	ワシの頭の房
Pi'daega.....	意味不明
Shon'tonçabe,,,,,,,,,,,,,,,,	黒い狼
Tia'gito'n.....	<i>Ti</i> 、家； <i>a'gi</i> 、彼の所有物； <i>to'n</i> 、立つ。ワシが自分の巣の上に立 っていることにちなんだもの
Waça'apa.....	意味不明
Waje'pa.....	部族の先駆者の古い名前
Wa'thishnade (pl.29).....	掴んだ男。ワシにちなんだもの
Xitha'i'sh'age.....	<i>Xitha</i> 、ワシ； <i>i'sh'age</i> 、古い、年とった
Xitha'wahi.....	<i>Xitha</i> 、ワシ； <i>wahi</i> 、骨。おそらくパイプの儀式の中で使われ たワシの骨で作られた笛にちなんだもの
Xitha'xega.....	<i>Xitha</i> 、ワシ； <i>xega</i> 、乾いた草の色、黄茶色
Xitha'xti.....	<i>Xitha</i> 、ワシ； <i>xti</i> 、正真正銘の。この名前には二つある
Xitha'zhi'nga.....	<i>Xitha</i> 、ワシ； <i>zhi'nga</i> 、小さな、若い。（ <i>Wazha'zhe</i> 、 ポンカ族）

Dream names

Gaki'emonthi'n.....	<i>Gaki'e</i> 、ばらばらにされた； <i>monthi'n</i> 、放浪する。鳥の群れに ちなんだもの
---------------------	--

Female names

Gixpe'axe.....	意味不明。この名前には八つある
Mipi'.....	意味不明。たぶん、 、月： 、良い
Mon'shihathi'n.....	高く昇る。ワシにちなんだもの。この名前はない。



WA'THISHINSDE (WAJE'PA)

Ni'dawinⁿ..... 意味不明。 この名前には三つある
 Noⁿce'iⁿ the.....意味不明。 この名前には三つある。
 Tha'tadawinⁿ..... Tha'tadap ; wiⁿ、女性言葉の結語
 Tha'tawicoⁿ..... Tha'ta, tha'tada ; wi, wiⁿ 女性言葉の結語 ; 白い、
 あるいは、青白い。
 Ton'ingthihe.....新しい月の突然の出現
 We'toⁿna..... 意味不明。この名前には八つある
 Wihe'toⁿga..... Wihe'、妹 ; toⁿga、大きな

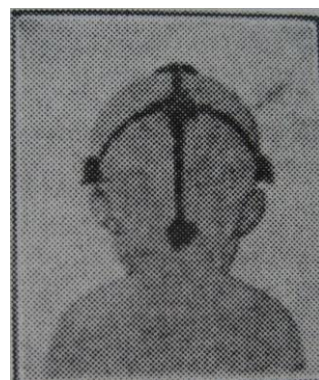
KON'CE 血族集団 (5)

この血族集団の名前は非常に古いもので、翻訳するのが難しい名前である。これらは、オマハ族がその構成員である同語族系のグループのひとつの部族(カンザ族)に属している。この部族から、カンザス州は、その名前を取っている。

hu'thuga の中で、Kon'ce の血族集団は Tha'tada の左側に居を構えていた。この血族集団のなかには二つの準分族があった。(a) Tade'ata (tade, “風 ;” ata, “の方角に” — “風の吹いてくる方角”) ; この名前は雲にちなんだものであるといわれている。風に関わる儀式を公にはこの準分族の責任で執り行われていたが、しかし、その習慣はすでに失せていた。こうした人々と風とのかかわりの記憶は次のような冗談のような行いであった : 蚊が非常にたくさん発生した時に、Kon'ce の男が服の上から刺された ; これがペストを簡単に蔓延させたといわれるようになった。(b) Nini'baton

この血族集団全体のタブーは、その準分族の元と同じく、緑青であった。彼らはそれに触ることが禁じられていた。

彼等の子供の頭の形の特徴は、昔の風に関わる儀式が実施されていたころのものであるが、芝が取り除かれた後の大地によく残されていたといわれる模様を表していた。頭の前部に一房、首のうなじのところに一房、そして、両側の耳の上にそれぞれ一房を残して、すべて剃りあげられていた。この四つの房のそれぞれから。方角の四つの点を表しているように、髪の毛の細い長い線が頭の天辺にある丸い房のところに伸びていた。



(fig.35)

Fig. 35 Kon'ce 血族集団
の子供の髪型

Hethu'shka の社会が正式に Kon'ce により部族の円陣のまわりに導かれるときには、その行動は、軍事行動がなされている間に執り行われていたある種の習慣が示しているように、戦士たちを助ける風の力を信ずるものであった。(p.39 参照) Kon'ce もまた hu'thuga の二つの大きな分族により演じられた球技の試合を取り仕切る役割を持っていた。(p. 197 参照)

Tade'ata の準分族は、Tha'tada の Te'pa itazhi の左側に位置しており、Tade'ata の左は、

Nini'batonⁿ が配列されていた。

KON'ÇE 血族集団の個々人の名前 (5)

Tade'ata 準血族集団 (a)

Ni'kie names

Da'donthinge..... *Da'doⁿ* 、所有していること ; *thinge*、否定、何もないこと 彼は
何も持っていない。大気とか風が目に見えない存在で在ることにちな
んだもの。 (*Wazha'zhe*、ポンカ族)

Kon'çedathin..... *dathin*、狂った一狂った Kon'çe

Kuge'..... ドラムで作り出された響き

Ma"axude..... *Ma"a*、ポプラの木;、灰色

Mu'xanoⁿzhiⁿ(pl.30)... 雲にちなんだもの

Ni'kagahi..... 酋長

Noⁿxtha'demoⁿthin..... 虫がうじゃうじゃ繁殖したときに起きる感覚

Taçi'ha..... 古い名前、意味不明

Tade'umoⁿthin..... *Tade'*、風; *u*、中に; *moⁿthin*、歩くこと。(髪の毛を切る儀式を
見よ)(*Wazha'zhe* 並びに、*Ni'kapasha*、ポンカ族)

Thixthi'gazhi..... *Thixthi'ga*、古い;、否定、(省略形の)決して古くない。この名
前には二つある。

Wa'çiçiⁿde..... 風が吹くときに天の垂れのように、揺れながらバタバタすること

Boroewed names

Choⁿ'choⁿxepa..... Dakota 族

Mi'chaxpe..... Omaha 族

Dream names

Waba'hizhiⁿga..... *Waba'hi* 、草を食うこと; *zhiⁿga*、小さな一小さな草を食うもの
(*Wazha'zhe*、ポンカ族)

Zhoⁿçi'moⁿde..... *Zhoⁿ*、材木; *çi*、黄色; *moⁿde*、弓

Female names

Açe'toⁿga..... 意味不明 (*Pon'caxti*. *Moⁿkoⁿ'* 準分族、ポンカ族)

Mi'akoⁿda..... *Mi*、月; *akoⁿda*、力

Mi'moⁿshibathin..... 高く上った月

Mi'texi..... 神聖なる月

Mi'toⁿinge..... 回帰してきた新しい月

Mi'xube.....	<i>Mi</i> 、月; <i>xube</i> 、神聖なる
Mon'shathin'ke.....	<i>Mon'sha</i> 、高い場所に; <i>thin'ke</i> 、位置している(月)
Tade'win.....	<i>Tade</i> 、風; <i>win</i> 、女性言葉の結語
Ton'inthin.....	移動している新しい月
Xu'degi.....	<i>Xu'de</i> 、灰色; <i>gi</i> 、回帰してくる。風で吹かれている霧に ちなんだもの

Nini'bato 準分族 (b)

Ni kie name

Ezhnon'githabi.....	<i>Ezhnon'</i> 、ただの; <i>githabi</i> 、好かれている人— 肯定的な表現; 好まれる; 人の指示詞 好ましい息子(?)
Gahi'zhinga(pl31).....	<i>Gahi'</i> 、 <i>gahi'ge</i> 酋長; <i>zhinga</i> 、小さな (<i>Ni'bapashna</i> 、ポンカ族)
Micha'xpezhinga.....	小さな星—古い名前
Mon'shewakude.....	意味不明; おそらく、弓を射る老人の意味
Monzho'n'hathin.....	<i>Monzho'n'</i> ; <i>ha</i> 、～を超えて; <i>thin</i> 、 <i>monthin</i> から歩きだす。大地 を歩きまわる。風にちなんだもの。この名前を伝える人は情報伝達 人であった。
Mon'zho'n'kide.....	大地を見渡すこと。風にちなんだもの (Osage 族) 1815、1826 年の協定に出てくる
Paçi'duba.....	四匹のバッファロー (<i>washa'be</i> 、ポンカ族)
Wamin'.....	血 (<i>Thi'xida</i> 、ポンカ族)
Zha'bezhinga.....	<i>Zha'be</i> 、ビーバー; <i>zhinga</i> 、小さな

Female names

Ko'ñewin.....	<i>Ko'ñe</i> ; <i>win</i> 、女性言葉の結語 五つの名前がある
---------------	---

Names unclassified as to subgentes

Ni'kie names

Heba'dizho.....	<i>Heba'di</i> 、半分; <i>zho</i> 、眠り。 うたた寝
Ko'ñegahige.....	<i>Ko'ñe</i> 、カンザス族の酋長
Ko'ñezhinga.....	小さな <i>kon'ñe</i>
No'dethinge.....	<i>No'de</i> 、心臓; <i>thin'ge</i> 、どんなものでもない
Pahi'thagthin.....	きれいな髪の毛
Pa'nuhu.....	オオム。
Tade'ta.....	風に対して。髪の毛を切る時の <i>Inke'ñe</i> の儀式の中にも出て くる
Tade'u'ña.....	<i>Tade'</i> 、風; <i>u'ña</i> 、漂う
Waba'sheto.....	意味不明



NU'XA^NONZHI^N



PLATE 31

GAHI'ZHINGA (LITTLE CHIEF)

Wate'wahi.....意味不明

Xage'wathe.....涙を流させる人

Zhega'no^{ba}..... Zhega、足; no^{ba}、二本の

Female names

Tade'wahage..... 意味不明

INSHTA'Cunda 分族 SKY PEOPLE の代表 (A)

MONTHINKAGAXE 血族集団 (6)

この名前 (*monthinka*, “地球”、*gaxe*, “作る”) の意味はあまりはっきりしていないが、しかし、この血族集団と関係している儀式は、岩とか石、そして、灰色の狼と密接な関係をもっているように思われる。こうした儀式については、現在では知られてはいない。それらが使われなくなり、そして、失われてから長い年月が経ってしまった。この地球の創造について述べている、そして、動物たちを支配していた奇妙な怪物に対抗した人間たちの闘争のこと、命のさまざまな形態の相互依存のこと、さらには、死についての永続的な神秘性などを取り扱った神話のなかで、私たちは、永遠性や、日々の長さ、歳とともに備わる知恵など、こうしたものが岩や石により象徴化されることを見出している: 一方、人間たちのたゆまなく活動すること、幸運に対する好奇心の強さ、人間の破壊性、こうしたものは、しばしばオオカミにより象徴化されている。この二つのもの、すなわち、岩、あるいは石と、灰色のオオカミは、神話のなかでは、兄弟として取り扱われており、この血族集団につたわる古代の儀式のなかでは、彼らは、象徴化されたものとして一体化されており、今では知るすべがないが、その血族集団の、“地球の創造者” という名前がこうした人々に関わるような儀式—この儀式は、単に創造の神話を脚色してだけでなく、創造されたものの永続性を保証するものと信じられていたのであるが、その儀式の目的を言い伝えているという事実は、それがもっともらしいものではないと思わせている。

言い伝えによれば、この血族集団がもともと持っていたもののなかに四つの神聖なる石、これらは、それぞれ、白色、黒、赤、そして、緑、あるいは、青色に色塗りされていたが、があった。これらの石は、儀式的な意味をもって大地に円形に掘られた穴に据え付けられ、そして、それらの上には白鳥 (*Cygnus americanus*) の羽毛が被せられていた。先世紀の終わりごろまで、これらの石の一つが存在していて、To^{wongaxe} の役割をしていた。Pebbel の組織の会合のときに、彼は、それを“大地の上に置き、それを歩かせた” のだろうといわれている。この石にまつわる大昔の儀式のときには、水、あるいは、雨が象徴とされていたという言い伝えがある。この伝説は、白鳥や水どりの羽毛を、石を儀式の中で覆うために使うことにより生まれたものである。この水の儀式との結びつきは、おそらく、それらの石の古い保管者が、そらを Pebble の組織、彼らの儀式は重要な水に関わるものであったが、その彼等の社会に持ち込むことができたという言い伝えによって受け継がれたものであろう。今では、四つの石のすべてが無くなっている。最後の一つは、おそらく、

Toⁿwoⁿgaxe とともに忌められて。これらの石と水との結びつきが、この血族集団の失われた儀式が創造というものとかがわっているという可能性に付け加わっている。

この血族集団には準分族というものは存在していない。先の世紀の間、言い伝えられる儀式に関連した特殊な役務を正式に任せられた家族の集団は、彼等の先祖の世襲的な仕事に関連するような名前を持っていた。そして、その結果として彼等の集団は準分族と取り違えられてきた。Xu[']be の(神聖なる)集団は、神聖なる石に対する責務を直接担っていた。別のグループ、彼等は、オオカミに関係するような儀式のある部分について責任を持っている人達であるが、この集団は自分たちのことを Mi[']kaçi (オオカミ) と呼んでいた。さらには、水と白鳥に関係したような役割をになう人々は、 Mi[']xaçon (白鳥) と呼ばれていた。

ここで上述したようなすべての集団は、血族集団として、同じタブーを持っていた、すなわち:白鳥、石に色づけをするための粘土、そして、石の上に黒色の色づけをするために使われたやかんについた煤(すす) であった。

これらの集団に属していた子供たちの髪の手入れ方は、一風変わっていた。頭の右側の半分は剃りあげられ、これに対して、左側の髪の毛はそのまま伸ばされていた、(fig. 36) この髪の毛の切り方の象徴的な形をうまく説明するような情報を得ることは不可能であった。ある者は、それは、むき出しになった岩と降り注ぐ雨を言い表していると説明していた。

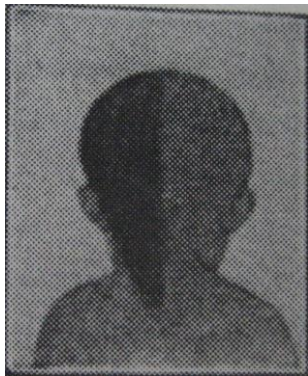


Fig. 36 KMon[']·thiⁿkagaxe
血族集団の子供の髪型

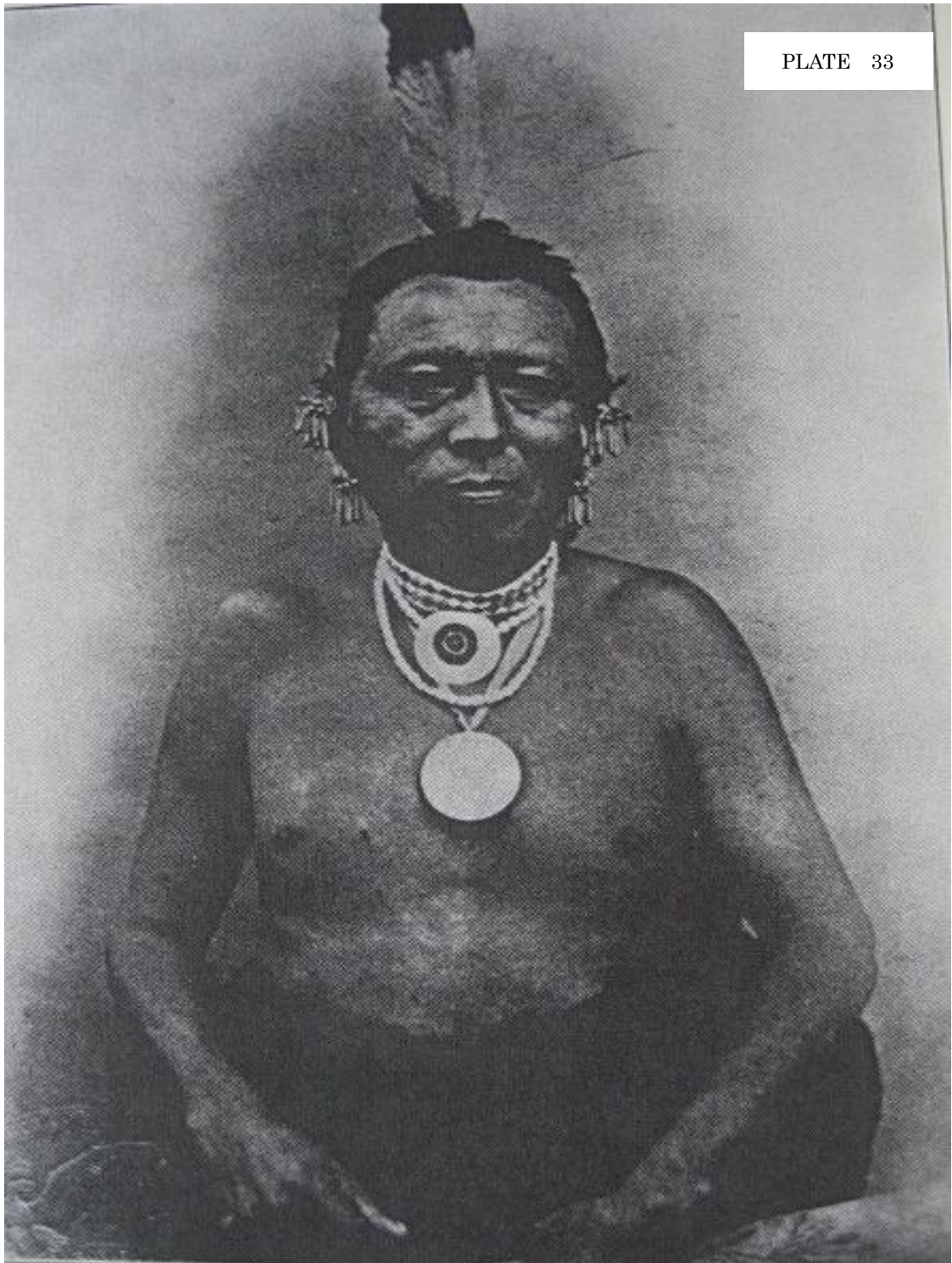
その現在存在しているこの部族の組織で、数家族の集団は、彼等はパイプの保管者たちと言われているが、Nini[']batoⁿ という名前で、血族集団のなかでは一線を画しており、このグループの出身の曾長は、Council of Seven Chiefs (七人の曾長の議会) の中の一人として地位を与えられていた。この集団の中に、今日でも部族の中で伺い知ることのできる名前の、Nini[']ushi、パイプの詰め物、というのが 生まれてきた:これは、おそらく、何かの意味で、かつて、この血族集団に属していた儀式に関連したものであろうと思われるが、そして、それは彼らが、多分、創造というものに関わっていた頃、部族を支配していた Council of Seven Chiefs の中で重要な役割を持っていたものと思われる。

Nini[']batoⁿ の集団に属する子供たちの髪型は、その部族の中の血族集団のほかの Nini[']batoⁿ の準分族の者たちのものと同じであった。

キャンプのなかでは、Xu[']be(a) は、Kon[']çe の左側に極近いところにテントを張っており;その次に、Mi[']kaçi(b)が来て;その後、Mi[']xaçon (c);そして、その左に、Nini[']batoⁿ の準分族(d)が配列されていた。



SHON'GEÇKA (WHITE HORSE)



TON'WONGAXEZHINGA (LITTLE VILLAGE MAKER)

MON'THINKAGAXE 血族集団の個々人の名前 (6)

Xu'be 準分族 (a)

Ni'kie names

- A'xabazhi..... *A'xa*、嘆く；*ba*、彼ら；*zhi*、でない。嘆かれない男
- Gachi'zhithoⁿ..... *Gachi'zhi*、打たれて倒れる；*thoⁿ*、*ithon* の短縮形、突然に。急上昇したときにワシによって立てられて音にちなんだもの
- I'gashon..... 放浪者； 狼にちなんだもの。この名前には二つある
- Moⁿ'gthithoⁿ..... 突然に立ちあがる。突然真上にほうに立ち上がった小さな動物にちなんだもの
- Noⁿ'gemonthin..... *Noⁿ'ge*、走る； *monthiⁿ*、歩く、さまよう。走って歩きまわること（*Waça'be*、ポンカ族）
- Noⁿzhiⁿ'monthiⁿ.... *Noⁿzhiⁿ*、雨； *monthiⁿ*、旅する。（*Waça'be*、ポンカ族）
- Shoⁿ'geçka (pl. 32)... Shoⁿ'ge、馬；（狼の古い言葉）；*çka*、白い；1826, 1830, 1836, 1854 年の協約に出てくる（*Shonge'çabe*, *Gapa'* 血族集団を参照）（*Nu'xe*、ポンカ族ならびにオセージ族）
- Uga'shoⁿzhinga..... *Uga'shoⁿ*、旅人；*zhing^a*、小さな。（*Waça'be*、ポンカ族）
- Waba'hiçi..... *Waba'hi*、育てる；*çi*、黄色。 育てている黄色のもの。黄色の狼にちなんだもの。（*Pon'xaxti*, *Moⁿkon'* 準分族、ポンカ族）
- Wahy'thabi..... 許諾を頼まれた人。1815 年の協約に出てくる

Dream names

- Çigthe'noⁿpabi..... *Çigthe*、足跡；*noⁿpabi*、おそれる。足跡でさえも恐れられる人。（*Wazha'zhe*、ポンカ族）
- Waça'betoⁿga..... *Waça'be*、黒い熊；*toⁿga*、大きい。（*Thi'xida*、ポンカ族）
- Wa'dupa..... 古い dream name これには二つの名前がある
- Wahe'he..... 壊れやすい。 やわらかい感触
- Wakoⁿ'da..... 力。神聖なる石にちなんだもの（*Wazha'zhe*、ポンカ族）
- Wakoⁿ'daⁿkie..... Wakoⁿ'da に話しかけること
- Washi'shka..... 貝（*Thi'xida*、ポンカ族）

Borrowed names

- Hexa'ganoⁿzhiⁿ..... *Hexa'ga*、エルク（ダコタ族）；*noⁿzhiⁿ*、立つ。（*Washa'be*、ポンカ族）
- Koⁿ'çehoⁿga..... *Koⁿ'çe*、血族、ならびに、部族の名前、カンザ族；*hoⁿga*、指導者（*Wazha'zhe*、ポンカ族）
- Mixa'çka..... 白鳥
- Wazhiⁿ'gaçabe..... *Wazhiⁿ'ga*、鳥；*çabe*、黒い。（*Waça'be*、ポンカ族）

Fanciful names

- Toⁿwoⁿgaxe..... *Toⁿwoⁿ*、村；*gaxe*、作人
Toⁿwoⁿgaxezhiⁿga (pl. 33)..... *zhiⁿga*、小さな。 小さな村を作人
We^tthishku..... We, ほかの人たちのために何かをする人；*thishku*、thishkuda
から、 手の指で掘る。

Valor names

- Moⁿga^ʼazhi..... *Moⁿ*、矢；*ga^ʼazhi*、恐れない。（*Waça^ʼbe*、ポンカ族）。
Waçe^ʼathiⁿ..... *Waçe*、塗料；*athiⁿ*、持っている。 戦闘集団にちなんだもの
Washi^ʼbinohiⁿ..... *Washi^ʼbi*、働くように頼むこと；*noⁿhiⁿ*、Inonhin からの言葉で
意思。 奉仕する意思。

Female names

- Mi^ʼmitega..... 新しい月。 四つの名前がある。
Mi^ʼmonshihathiⁿ..... 高く上った月
Mi^ʼtexi..... *Mi*、月；*texi*、神聖な。 二つの名前がある
Mi^ʼtoniⁿ..... 新しい月。 二つの名前がある。
Noⁿzhe^ʼgitoⁿ..... 意味不明。（*Wazha^ʼzhe*、ポンカ族） この名前には二つある。
Poⁿcaçon..... 白いポンカ族（*Pon^ʼczxti*、*Moⁿkon^ʼ* 準分族、ポンカ族）三つ
の名前がある
Poⁿcawin..... *Ponca* の女性（*Waça^ʼbe*、ポンカ族）。
Toⁿingina..... 戻ってくる新しい月。 三つの名前がある
We^ʼtewiⁿ..... 意味不明 五つの名前がある

Nini^ʼbaton 準分族 (d)

分類不可の名前

- Çe^ʼçetiⁿke..... 速歩で駆ける動物。狼の歩き方の特徴を表している。
Çiⁿdezhiⁿga..... 小さな尻尾
Gahi^ʼgewadathinⁿga..... 酋長の平和な仕事振りにちなんだもの。この名前はオセージ族の
中で見られるもので、時に、ずうずうしい酋長、あるいは、狂っ
た酋長などと間違って訳されている。

Gthedoⁿnoⁿpabi..... 恐れられている鷹

- Gthedoⁿwiⁿ..... *Gthedoⁿ*、鷹；*wiⁿ*、女性言葉の結語。二つの名前がある。
Gu^ʼdahi..... 彼がいくところ！ コヨーテを追いかけていく獵師の感嘆の声
Huti^ʼgthe..... 遠くから聞こえてくる声。 狼の鳴き声にちなんだもの
In^ʼçon..... 白い岩。 神聖なる石にちなんだもの
Inⁿke^ʼgaxe..... パイプにちなんだもの
Inⁿzhi^ʼde..... 赤い岩。神聖なる岩にちなんだもの
Mi^ʼgthedoⁿwiⁿ..... *Mi*、月；*gthedoⁿ*、鷹；*wiⁿ*、女性言葉の結語

Mixa'çka.....	<i>Mixa</i> 、白鳥； <i>çka</i> 、白い（ <i>Thi'xida</i> 、ポンカ族）二つの名前がある。
Mon'gthithon.....	<i>Mon'gthe</i> 、立つ； <i>ithon</i> 、突然。 <i>Mongthi</i> の最後の母音が落ちたもの。灰色の狼の予想しない突然の動きにちなんだもの。二つの名前がある。
Ni'kaçtuwathe.....	集めまわる 部族の神聖なるパイプと、ひとつの社会としてまとまった人々の集団にちなんだもの。
Nini'ushi.....	<i>Nini'</i> 、パイプ； <i>ushi</i> 、存在する。パイプの儀式にちなんだもの。
Shon'tongaçka.....	背高い灰色の狼
Shon'tongamonabiadi.....	青灰色の狼
Shon'tongatu.....	泥灰色の狼
Shon'tongawathihuça....	泥灰色の狼
Shon'tonzhinga.....	<i>Shon'ton</i> 、灰色の狼； <i>zhinga</i> 、小さな、あるいは、若い
Thata'xitigthe.....	骨をボリボリ噛むこと。狼にちなんだもの
The'dewathatha....	狼が動きまわるときに警戒して自分の後をよく振り返っていることにちなんだもの
Ugaçinnon.....	覗く人。コヨーテにちなんだもの
Uga'shon'no'zhi.....	彷徨う動物。コヨーテが休みなく動くさま
Uga'shon'ton.....	彷徨う動物。狼が休みなく動くさま
U'shkadazhi.....	恐れをしらないこと、何のためらいもなく戦闘の場に突っ込んでいくこと（ <i>Ni'xu</i> 、ポンカ族）
Utha'gabi.....	狼にちなんだもの
Wa'gawinxe.....	空高く舞い上がっているさま。ワシにちなんだもの
Wathigthonthinge.....	意図のない

Borrowed names

Ki'shtawagu.....	ポウニー族のこと（ <i>Waça'be</i> 、ポンカ族）
Waxua'tai'ge.....	オトー族

Dream names

Ho'n'hemonthin.....	夜歩きまわる動物
Mon'chu'wako'nda.....	熊の神

Valor names

Inke'washushe.....	勇敢な戦士
--------------------	-------

Nicknames

Inshti'thinke.....	神秘的で、いたずらっぽいものの名前
--------------------	-------------------

Female names

Açe'xube.....	<i>Açe'</i> 、 <i>waça</i> から、塗ること； <i>xube</i> 、神聖な
---------------	---

Gixpe'axa..... 意味がなくなった言葉。古い名前。二つの名前がある。

Mi'ashteshtoⁿ.....意味不明。この名前には三つある。

TEÇIN'DE 血族集団 (7)

この血族集団の名前は、バッファローに由来したものである。(te, “バッファロー;” çinde, “尻尾” この血族には、準血族集団はない。

この血族集団の人たちが古くから関わっていた儀式は、今やすでに失われていた。その儀式がカラスに関係したものであるという言い伝えが残っている以外は何もわかっていない。天地の創造について語っているある確かな神話の中で、人間は、最初は体を持っていないと言われた; 彼等は、天界を、空中に住んで居たが、カラスは人々が体を手に入れるのに、いい手本となり、彼等は、男と女という形でこの地上に住むことができるようになった。

この血族集団のタブーは、彼等の任されている儀式が、彼等が体を持つようになり、この世に誕生したということに関係しているという言い伝えを好意的にとらえたものである。彼等は、動物たちの胎児に触ることを禁止されていた。後の時代になると、このタブーは、とりわけ、バッファローの胎児について、そして、背骨のついたあばら骨の一番下の骨、これは、胎児の頭が動物のこの部分に落ち着いているといわれていたので、この骨に触ることがタブーとされた; こういうわけで、この骨の部分から得られた肉は食べられることはなかった。

髪の毛の刈り方は、若いバッファローにちなんだものであった。頭の天辺の両脇に小さな二つの房、これはやがて角が生えてくることを暗示していた、そして、首筋のところに、子牛の尻尾を表現している、髪の毛の塊を残して、あとはすっかり剃りあげていた。(fig. 37)

この部族が現在のような形に組織化された時に、Nini'batonⁿの家族の集団が、この血族集団の中から選ばれ、この集団の指導者は、部族の Council of Seven Chiefs の一人として、その地位を与えられた。

この準分族のタブーは、親血族集団のそれと同じものであった。特徴的な髪形は、Nini'baton の準分族のものと非常によく似ていた。

Teçinde (a) は、Moⁿ'thiⁿkagaxe の左に位置してキャンプを張り、Nini'batonⁿ(b)の準分族は、この血族集団の一番左のはずれにキャンプをしていた。

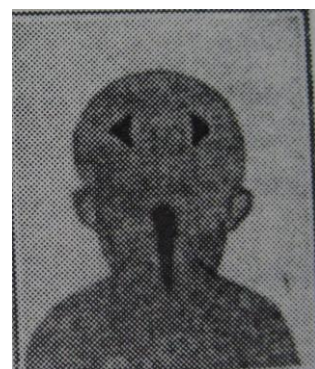


Fig. 37 Teçin'da
血族集団の子供の髪型

TEÇIN'DE 血族集団の個々人の名前 (7)

Teçinde 準分族 (a)

Ni'kie names

Heba'zhu.....	<i>He</i> 、角; <i>bazhu</i> 、こぶ状の
He'xude.....	<i>He</i> 、角; <i>xude</i> 、灰色
Hi ⁿ çin'zhi ⁿ ga.....	<i>Hiⁿ</i> 、毛、動物の毛; <i>çi</i> 、黄色; <i>zhiⁿga</i> 、小さな。若いバッファローにちなんだもの。(<i>Washa'be</i> 、ポンカ族; 同じく、 <i>Inkeçabe</i>)
I'shibazhi.....	行いが歌や物語の中で語られている昔の英雄の名前
Ka'xenumpi ⁿ	カラスのネックレス
Kigtha'zho ⁿ zho ⁿ	<i>Kigtha</i> 、彼自身; <i>zhoⁿzhoⁿ</i> 、振れ動く一震える。バッファローにちなんだもの。(<i>Pon'exti</i> , <i>Mon'kon'</i> 準分族、ポンカ族)
Tamon'xaga.....	<i>Ta</i> , <i>te</i> バッファローの死骸; <i>moⁿ</i> 、矢; <i>xaga</i> 、あらい毛。この名前には二つある。
Uma'abi.....	小さく刻んで、広げる。(まき散らす?)
Wahon'thi ⁿ ge(pl.34)....	状況が名詞となる、あるいは、名詞のような表現となる前置詞; <i>ethoⁿ</i> から、母 (一般的な言葉) ; 何もない。ということで、 <i>wahon'thiⁿge</i> で、孤児、母親のいない動物の子供となる。オマハ族の考え方では、母親を失うことで孤児となる。(<i>Washa'be</i> , ポンカ族)

Female names

Mi'ako ⁿ da.....	<i>Mi</i> 、月; <i>akoⁿda</i> , <i>wakoⁿda</i> 。この名前には四つある (<i>Pon'caxi</i> , <i>Monkoⁿ</i> 準分族、ポンカ族)
Mi'gthito ⁿ in.....	<i>Mi</i> 、月; <i>gthi</i> 、回帰してくる; <i>toⁿin</i> 、新しい。新しい月がまたやって来る。(<i>Inshta'çunda</i> 血族集団)
Mi'xube.....	<i>Mi</i> 、月; <i>xube</i> 、神聖な
Teçon'win.....	白いバッファロー、女性言葉。この名前には三つある・。
To ⁿ ingi.....	<i>Toⁿin</i> 、今月の月、 <i>gi</i> やって来る (<i>Ishta'çunda</i> の血族集団)
Umon'agthi ⁿ	意味不明
Uthe'amonthi ⁿ	この名前には三つある。
Uzho'geagthi ⁿ	<i>Uzho'ge</i> 、形跡; <i>agthiⁿ</i> 、腰を下ろす。バッファローがバッファローの通った後に腰を下ろすことにちなんだもの
Wihe'gthedo ⁿ	<i>Wihe'</i> 、妹; <i>gthedoⁿ</i> 、鷹。この名前には二つある

Nini'batoⁿ 準分族 (b)

Ni'kie names

Çi ⁿ dethiho ⁿ	<i>Çiⁿde</i> 、尻尾; <i>thihoⁿ</i> 、持ち上げる 父(亡くなったばかりの) が同じ名前を受けついていた。
--	--



WAHON^NTHINGE

- Insḥta'shabe..... *Insḥta'*、目; *shabe*、黒い。この名前には二つある。(*Waçabe*、
ポンカ族)
- Moṇa'xaga..... *Mọn*、矢; *a'xaga*、逆立っている一矢がたくさん立っている
- Moṇ'shọṇhọnga..... パイプの主軸に取り付けられた羽
- Nọṇ'dewahi..... 骨のついた心臓
- Nọṇ'gethia..... *Nọṇ'ge*、走る; *thia*、のできない。たぶん生まれたばかりの子牛
にちなんだもの。(*Nu'xu*、ポンカ族)
- Nọṇọṇ'bi..... *Nọṇọṇ*、聞く; *bi*、人称代名詞。聞こえてくる人 (*Wazha'zhe*、
ポンカ族)
- Pe'zhexuta..... 野生の賢人 (ヨモギ族の植物)
- Shu'degina..... *Shu'de*、煙; *gina*、やって来る。バッファローの群れが近づいて
くる時に湧き上がる埃の塊がちょうど雲のように見えることに
ちなんだもの。
- Ta'moṇba..... *Ta*、鹿; *mọṇba*、monge 胸; 肌
- Tatọṇ'gashkade..... *Tatọṇ'ga*、ダコタ族のバッファローを呼ぶ *tatạṇka* のこと;
shkade、遊ぶ — ダコタでは、*sha'ta*。(*Wazha'zhe*、ポンカ族)
- Tenu'gazhinga..... *Tenu'ga*、雄のバッファロー; *zinga*、小さな。(*Wazha'zhe*、
ポンカ族)
- Texe'unọṇzịṇ..... *Texe*、沼地; *u*、の中; *nọṇzịṇ*、立つ。バッファローが転げま
わるぬかるみに立つ
- Thixa'bazhi..... *Thixa'*、追いかける; *ba*、彼等; *zhi*、否定。この名前には
二つある。誰も追いかけない子牛にちなんだもの
- Uzhna'gaxe..... *Uzhna*、きれいな場所; *gaxe*、作る。ぬかるみにちなんだ
もの。(*Nu'xe*、ポンカ族)
- Waba'xe..... たくさんの層。バッファローの胃のまわりのたくさんの脂肪にち
なんだもの。この名前には二つある。
- Zhu'gthethinge..... *Zhu'gthe*、同伴者; *thịnge*、だれもない

Female names

- Miçebe..... *Mi*、月; *çebe*、暗い、あるいは、影のある。おそらく、月が
新しい時にみられる月の影の部分にちなんだもの。この名前
には二つある。
- Mi'gthitọṇịṇ..... *Mi*、月; *gthi*、回帰する; *tọṇịṇ*、新しい。新しい月に適用され
る。この名前には三つある。
- Mon'çepewịṇ..... *Ax*; *wịṇ*、女性言葉の結語

Teçon'wi ⁿ	白いバッファロー、 <i>wiⁿ</i> 、女性言葉の結語（ <i>Ingthe'zhide</i> ） この名前には六つある。（ <i>Wazha'zhe</i> 、ボンカ族）
Uthe'amo ⁿ thi ⁿ	<i>Uthe</i> 、通常使われるルート； <i>a</i> 、超えて； <i>moⁿthiⁿ</i> 、歩いていく。 たぶん、バッファローが移動していくことにちなんだもの。 この名前には六つある。
分類不可の名前	
Heba'chage.....	<i>He</i> 、角； <i>ba'chage</i> 、もみくちやになった
No ⁿ he'gazhi.....	駆け出している群れ
No ⁿ 'kapai.....	<i>Noⁿ'ka</i> 、後ろ； <i>pai</i> 、鋭い
Shu'kagthin.....	<i>Shu'ka</i> 、集団； <i>gthin</i> 、 <i>agthiⁿ</i> 座ること
<i>Niknames</i>	
Wau'xtawathe.....	女性崇拝者
<i>Fanciful names</i>	
Mon'çepetonga.....	<i>Mon'çepe</i> 、斧； <i>tonga</i> 、大きな

TAPA' 血族集団 (8)

Tapa'、“鹿の頭”これは、Pleiades 族に与えられた名前である。この血族集団に公式に負わされていた儀式は、今はなくなってしまったが、彼等が、星と夜空に関係していたという強い可能性を指摘する言い伝えがある。こうした儀式は、この世の創造を取り扱っている神話と密接に関係しているように思われる。その中には、ワイルドキャットの皮と、小鹿の皮が使われており、その皮にある斑点は、夜空の姿を象徴しているのである。雷と、ジグザグに流れる稲妻もまた象徴とされていた。そして、これらは、子供たちの髪の毛を切る形のなかでも儀式として維持されていたものと関係していた。そうした儀式の中で、この血族集団は、公式的な役割、つまり、父として、空としての役割を演じていた。そして、子供たちが生まれて二・三日して、子供名前を付けられたときに、その背骨の両側に沿って斑点の印をつけるといったような、古い儀式の中のごくわずかな名残だけが残されている。これは、血族集団の古老によってなされるもので、三本の指を染料につけ、それで、子供たちに象徴的な斑点を付けていた。こうした斑点は、小鹿にとっては二重の重要な意味を持っていた一若い、もしくは、鹿の新しい誕生—そして、“鹿の頭”という名前で知られていた星座である。この血族集団の名前は、稲妻にちなんだものであった。そして、赤い線が、その特性を表すものとして、子供の腕の、ときに、描かれていることがあったといわれている。

この Tapa'の血族集団には準血族集団というものはなかったが、しかし、以前は、古来の儀式に関係してある種の任務を持ったいくつかの集団がいた。こうした集団は、彼等の任務がそうした儀式が行われなくなるに従い消えて行ったけれども、ともにそれに執着して

いた。かれらは今なお存在しており、Mike'nitha とか çin'dexoⁿxoⁿ に率いられた集団として知られている。このグループの者たちは、ときに、自分たちを Tapa'xti (“真の、もしくは、元来の Tapa”) と言っている ; Pa'thingahige に率いられた集団は、雷にちなんだ古来の儀式のある種の役割を持っていたように思われる ; Zhinga'gahige に率いられた者たちには、象徴的な小鹿の皮膚の管理が委任されていたようである。 Pa'thingahige も Zhinga'gahige もいずれも酋長ではないが、指導的な役割を持った者であった。こうした集団は、時々、準血族集団と間違えられた。

タブー : 炭とか緑青は、この血族集団には触れられることはなかった。緑青は、その色から、空の象徴と言われており、木炭がこの緑青と一緒にすることは、タブーの中で、暗くなること、あるいは、夜の空の象徴とされていた。

髪型の特徴は、頭の前の部分にわずか一つの房と、首のうなじのところに小さな塊を残す以外は頭を剃りあげていた。(fig. 38)

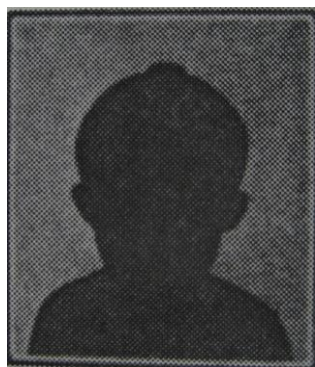


Fig. 38 Tapa'
血族集団の子供の髪型

この血族集団は、彼等にゆだねられた儀式が、消え失せた時に、一つの血族集団の名前というものの一般的な重要性の中で起こっている変化の別の例を示している。すでに行われなくなってしまったその血族集団の星を熱狂的に崇める儀式、鹿の頭を象徴的なものしとしてみなすこと、こうしたことが文字となり解説を与えていた。こうしたことを、星のもつ重要性は、すでにほとんど失われてはいるが、個々人の名前に中に証拠として見ることができる。

hu'thuga の中で、çin'dexoⁿxoⁿ (a) もしくは、Mike'nitha に率いられた集団は、Teçin'de の人たちの左側にキャンプをしていた ; 次に位置していたのは、Pa'thingahige (b) に率いられた集団で ; その彼等の左にいたのが、Zhinga'gahige (c) に率いられたグループ ; そして、Tapa' の一番左にいたのは、Nini'batoⁿ の準分族(d)の人たちであった。

TAPA '血族集団の個々人の名前 (8)

Çin' dexoⁿxoⁿ (Mike'nitha) の下の集団 (a)

Ni'kie names

- Bachi'zhithe..... Bachi'zhi、邪魔があるにも関わらず突進する ; the、進む 一鹿が林の中に突進するように。(Wazha'zhe、ポンカ族)
- çigthu'nonge..... çigthu、後をつける ; nonge、走ること
- çin'deçka..... çin'de、尻尾 ; çka、白い。(Pon'caxti, Monkon' 準分族、ポンカ族)
- çin'deçoⁿtigthe..... çin'de、尻尾 ; çoⁿ、淡い ; tigthe、突然。動物が隠れ家の中に飛び込

む時に、鹿の尻尾が突然光ることにちなんだもの。これには四つの名前がある。

çin'degabizhe..... çin'de、尻尾; gabizhe、尾を振る。これには二つの名前がある。

çin'dexonxon(fig. 39).....çin'de、尻尾; xonxon、きらめく。

Hethi'axe..... He、角; thi'axe、ガラガラとなる。 鹿が茂みのなかに突っ込んでいくときに、その林をガラガラと鹿がたてていく響きにちなんだもの

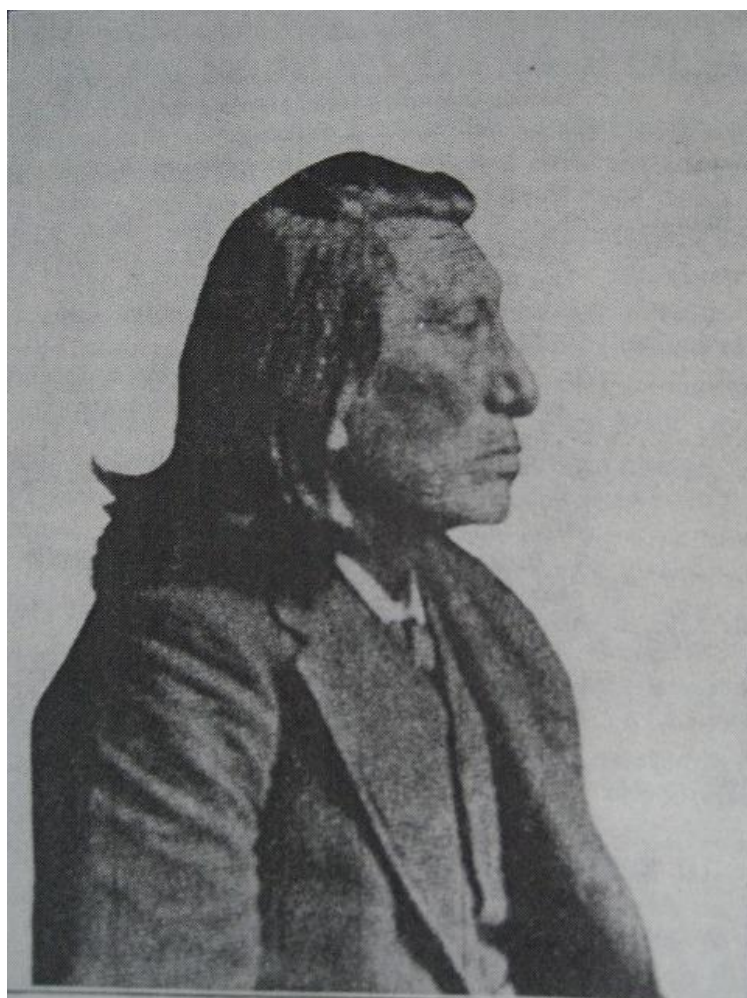


Fig. 39 çin'dexonxon (Mike'nitha)

Hexa'gazhi^{ga}..... He、角; xa'ga、粗い; zhi^{ga}、小さい

Hezha'ta..... He、角; zha'ta、分岐した。 この名前には二つがある。(Thi'xida, ポンカ族)

I'ingabi..... I'ingga、拒まれた; bi、人称代名詞

Keba'ha..... Ke、亀; baha、示す — 泣いているアライグマ (Thi'xida ,

ポンカ族)

- Mika'xage..... *Mika*、アライグマ; *xage*、泣く ー泣いているアライグマ
(*Pon'caxida*, ポンカ族)
- Mike'nitha..... 古い名前; 意味不明。この名前には四つある
- Monon'xaxa..... *Mo*ⁿ、地球; *no*ⁿ、感覚による行動; *xaxa*、こする、引きはがす。
鹿の発情期にちなんだもの
- Noⁿ'çon'dazhi..... *Noⁿ'çon'da*、身をかかわす; *on'kazhi*、否定 から (*Washa'be*,
ポンカ族)
- Noⁿ'kahega..... *Noⁿ'ka*、背後; *hega*、茶色 (*Washa'be*, ポンカ族)
- On'hazhi..... *On'ha*、逃げる; *zhi on'kazhi*、否定 から 何も逃げようと
しない
- Pahi'çka..... *Pa*、頭; *hi*、髪の毛; *çka*、白い
- Shage'duba..... *Shage'*、ひずめ; *duba*、四つ (*Washa'be*, ポンカ族)
- Sha'gezhiⁿga..... *Sha'ge*、ひずめ; *zhiⁿga*、小さな。 この名前には二つあるむ
- Shkon'shkonⁿtithe..... *Shkoⁿ*、動く; *Shkoⁿ'shkoⁿ*、絶えず動く; *tithe*、突然 この名前
には二つある
- Taton'gamonⁿthiⁿ..... *Ta*、鹿; *ton'ga*、大きな; *monⁿthiⁿ*、歩く回る (*Ni'kapashna*,
ポンカ族)
- Ta'xtiduba..... *Ta'xti*、もともとの鹿; *duba*、四つの
- Te'hegoⁿ..... *Te*、バッファロー; *he*、角; *goⁿ*、のような。 鹿のバロツファロー
の角のように見える時の成長の様子にちなんだもの
- Thitiⁿ'bithoⁿ..... 縛り付けられた
- Tide'monⁿthiⁿ..... *Tide*、騒音、鳴り響く; *monⁿthiⁿ* 歩きまわって動く
- Uwon'çitithe..... *Uwon'çi*、飛び跳ねる; *tithe*、突然に
- Waxanoⁿzhiⁿ..... *Waxa*、前の方に ; *noⁿzhiⁿ*、立ち上がる (*Pon'caxti*, *Moⁿkoⁿ'*
準分族、ポンカ族)
- Waxpe'sha..... 古い名前で、意味は喪失している (*Wazha'zhe*, ポンカ族) 1830
年の協定の中に出てくる
- Xitha'nika..... *Xitha'*、ワシ; *nika*、*nikashiga*、人から (*Wazha'zhe*, ポンカ族)
- Zhidetoⁿ'..... *Zhide*、赤い; *toⁿ*、立つ

Famele names

- Gthedoⁿ'shtewiⁿ.... 意味不明 この名前には九つある
- Hiⁿ'xudewiⁿ..... *Hiⁿ*、髪の毛; *xude*、茶色 ; *wiⁿ*、女性言葉の結語
- Mi'gthedoⁿwiⁿ..... *Mi*、月; *gthedoⁿ*、鷹; *wiⁿ*、女性言葉の結語
- Mi'monⁿshihathiⁿ..... *Mi*、月; 高く上る
- Mon'çepewiⁿ..... *Mon'çepe*、斧; *wiⁿ*、女性言葉の結語

Noⁿçe'inçe.....意味不明 この言葉には四つある
 Poⁿcaçon.....青白い、あるいは、白いポンカ族
 Poⁿcawin.....ポンカ族の女
 Teçonⁿwin..... *Te*、バッファロー；çonⁿ、白い；wiⁿ、女性言葉の結語 *Ingthe'zhide*
 血族集団にも属していた

Pathingahige (b) に属する集団

He'çonthinke..... *He*、角；çonⁿ、白い；thiⁿke、すわる 鹿が草原にすわり、その白い
 角だけが見えている状態を表したもの
 Hezhoⁿ'ka..... *He*、角；zhoⁿ'ka、枝分かれした
 Hu'hazhi..... 意味不明 (*Washa'be*, ポンカ族)
 Inchuⁿ'gaçka..... *Inchuⁿ'ga*、イタチ；çka、白い (*Ni'kapashna*, ポンカ族)
 Inshⁿta'bashonⁿshonⁿ.. *Inshⁿta'*、目；bashonⁿshonⁿ、ジグザグの
 Kaxe'çabe..... *Kaxe*、カラス；çabe、黒い (*Ni'kapashna*, ポンカ族)
 Noⁿ'kagthezhe..... *Noⁿka*、後ろに；gthezhe、斑点のついた。小鹿にちなんだもの
 この名前には二つある
 Ta'shkahiagthonⁿ.... 稲妻に打たれた樫の木にちなんだもの
 Wapa'de..... 死体を刻む人 (*Washa'be*, ポンカ族)
 Weçonⁿgithe..... 古い名前、支配者 Pa'thingahige の名前

Borrowed names

A'shkamonⁿthiⁿ..... *A'shka*、近くに；moⁿthiⁿ、歩きまわる ダコタ族の名前
 Pa'thingahige..... *Pathiⁿ*、ポウニー族；gahige、酋長

Female names

Ezhnoⁿ'moⁿhe..... *Ezhnoⁿ*、孤独な、たった一人の；moⁿhe、他人の家に住んで居る人。
 この名前には五つある。
 Gthedoⁿ'shtewiⁿ...扱いが難しいタカにちなんだもの。この名前には三つある
 Ghtedoⁿ'wiⁿtexi... *Ghtedoⁿ*、鷹；wiⁿ、女性言葉の結尾；texi、神聖な。この名前には
 四つある。
 Mi'huçc..... 意味不明。 (*Inshⁿta'çuⁿda* 血族集団)
 We'tonⁿbethiⁿ.....この名前には二つある

Zhinga'gahige に属する集団 (c)

Ni'kie names

Çiha'..... Çi、足；ha、肌。足底
 Te'çehinçabe..... *Teçe*、腹部；hiⁿ、髪の毛；çabe、黒い (*Washa'be*, ポンカ族)
 Tenu'ganoⁿba..... *Te*、バッファロー；nuga、雄；noⁿba、二つ。この名前には二つ
 ある。 (*Thi'xida*, ポンカ族)
 Thae'githabi..... *Thae*、*thaethe* から、好かれた、あるいは、愛された；gi、積極的

な ; *bi*、人称指示詞。母親にやさしく面倒を見てもらっている子牛に
ちなんだもの (*Pon'caxti*, ポンカ族)

Female names

He'wegaça..... *He*、角 ; *we*、伴う ; *gaça*、切る
Mi'giuⁿthe..... *Mi*、月 ; *giuⁿ*、飛ぶこと ; *the*、行く
Pon'caçoⁿ..... 青白い、あるいは、白いポンカ族 この名前には三つある
Ton'ingthihe..... 意味不明
Umoⁿ'athiⁿ..... 意味不明

Nini'baoⁿ 準分族 (d)

Ni'kie names

A'kidagahige..... *A'kida*、見守る ; *gahige*、酋長 見守っている酋長 (*Ni'kapashna*,
ポンカ族)



Fig. 40 Hethi'ku'inxé (Shoⁿ geçabe の息子)

Hethi'kuwinxe(fig.40)... *He*, 角 ; *thi'kuwinxe*, ぐると回る。 鹿の角を落とす前の
ねじれたものにちなんだもの

Hexa'ga..... *He*, 角 ; *xaga*, 粗い 鹿のとがった枝角にちなんだもの (*Washa'be*,
ポンカ族)

Shage'dubazhinga.... *Shage'*, ひずめ ; *duba*, 四つの ; *zhiⁿga*, 小さな (*zhinga* と
いう言葉が、この名前を明確にするために最近くわえられたと言われ
ている。)

Shoⁿgeçabe (fig.40 参照).. *Shoⁿ'ge*, 馬 ; *çabe*, 黒い (この名前はもともと
Shageçabe(“黒いひずめ”)と呼ばれていたもので、それが、

馬が入ってきたときに変わったのだと言われている。)

(*Washa'be*, ポンカ族)

Tatoⁿ'ga.....巨大なオスの鹿；古い名前 (*Thi'xida*, ポンカ族)

Wazhiⁿ'kide..... *Wazhiⁿ'*、意志の力、怒り；*kide*、打つこと。 挑戦的なオスの動物に
ちなんだもの

Xitha'çka..... *Xitha'*、ワシ；*çka*、白い (*Thi'xida*, ポンカ族)

Xitha'gahige..... *Xitha'*、ワシ；*gahige*、酋長 この名前には二つある (*Poⁿ'caxi*, *Moⁿkoⁿ'*
準分族、ポンカ族)

Xitha'gaxe..... *Xitha'*、ワシ；*gaxe*、作る人 この名前には三つある (*Poⁿ'caxi*,
Moⁿkoⁿ' 準分族、ポンカ族)

Borrowed names

Xitha'giuⁿ..... *Xitha'*、ワシ；*giuⁿ*、飛ぶ 飛んでいるワシ ダコタ族の名前

Female names

Gthedoⁿ'wintexi... *Gthedoⁿ'*、鷹；*wiⁿ*、女性言葉の結語；*texi*、神聖な この名前には五
つある (*Waçabe*,並びに、*Pon'caxti*, *Monkon'* 準分族、ポンカ
族)

Moⁿ'çepewiⁿ..... *Moⁿ'çepe*、斧；*wiⁿ*、女性言葉の結語 この名前には七つある

Poⁿcaçoⁿ..... çoⁿ、青白い 青白い、もしくは、白いポンカ族 この名前には
十二ある

We'toⁿbeçiⁿ.....(*Hoⁿ'ga* 血族集団) この名前には六つある

Fancy names

Wan'i'tawaxa.....ライオン (この名前は、伝道者やそのほかのインディアンが訪問した
ときに、ワシントンの政府の役所によって与えられたものである)

Unclassified names

Gthedoⁿ'thihi..... *Gthedoⁿ'*、鷹；*thihi*、近づいてびっくりさせる、鳥

Hexa'gaçka..... *Hexaga*、*hexaka*、ダコタ族のエルク；*çka*、白い

Hezhoⁿ'katoⁿga.... *He*、角；*zhoⁿ'ka*、分岐した；*toⁿga*、大きな

I'kuhabi..... *I*、である；*kuhe*、知らないものへの恐怖；指示代名詞
怖がっている人

Ki'dabazhi..... *Ki'da*、打つこと；*bazhi*、彼等は、～でない 彼等は彼を打たない

Moⁿ'çebaha..... *Moⁿ'çe*、金属；*baha*、示す

Moⁿ'geçka..... *Moⁿ'ge*、胸；*çka*、しろい 鹿にちなんだもの

Noⁿzhiⁿ'tithe..... *Noⁿzhiⁿ'*、立ち上がる；*tithe*、突然

Pa'thinwaça..... 意味不明

Tanoⁿ'zhi..... *Ta*、鹿；*noⁿ'zhi*、立つ

Wa'bagthazhi.....	Wa'bagtha、恥ずかしがり屋の、おどおどし ; zhi、否定 on'kazhi から
Wadu'kishke.....	意味不明
Wathi'hi.....	獲物をびっくりさせる
Xu'bego ⁿ tha.....	Xu'be、尊い、神聖な ; go ⁿ tha、望む、希望

Dream names

Taçu'geçka.....	Taçu'ge、アンテロープ ; çka、白い
Ta'xtidathi ⁿ	Ta'xti、鹿 ; dathi ⁿ 、狂った

INGTHE'ZHIDE 血族集団 (9)

この血族集団の名前は、新しく生まれた子牛の赤い色をした糞にちなんだものである。この血族集団が保管することをゆだねられた儀式は、すでに失われていた。伝説では、こうしたものは、天界の力のある種の手段を通じて永遠の存続を確かなものとする部族の誕生とかかわりをもっていると伝えている。

In the'zhide という名前が、白人たちによるもっともらしい想像を掻き立て、たくさんの物語がそれを説明するために話されたが、しかし、こうした物語や説明は、部族の老人や信用を置ける者たちにより確証されたものでもなく、また、この部族におけるその血族集団の機能として知られているもの、並びに、部族の組織の基礎となっている考え方とも合致しているものではない。



Fig. 41 Ingthe'zhide
血族集団の子供の髪型

タブー： 動物の胎児には決して触ってはいけないものであった。バッファローと出くわすことが日常茶飯事であった時には、このタブーは、バッファローの胎児に限られていた。

髪型の特徴的な切り方は、前頭部に小さな塊と、一つは後頭部、そして、頭の両側にそれぞれ一つずつ小さな房の髪の毛、これらは、若い動物の頭と尻尾を、そして、角が生えてくるところの小さなこぶを象徴したものであったが、これらを残す以外はすっかり剃りあげていた。(fig. 41)

この集団には、準血族集団とか、準分族というものがなく、また、この血族集団からは Council of Seven Chiefs に代表を送るということもなかった。

In the'zhide は、Tapa'の準分族である Nini'baton の左側にキャンプを張っていた。

INGTHE'ZHIDE 血族集団 (9) の個々人の名前

Ni'kie names

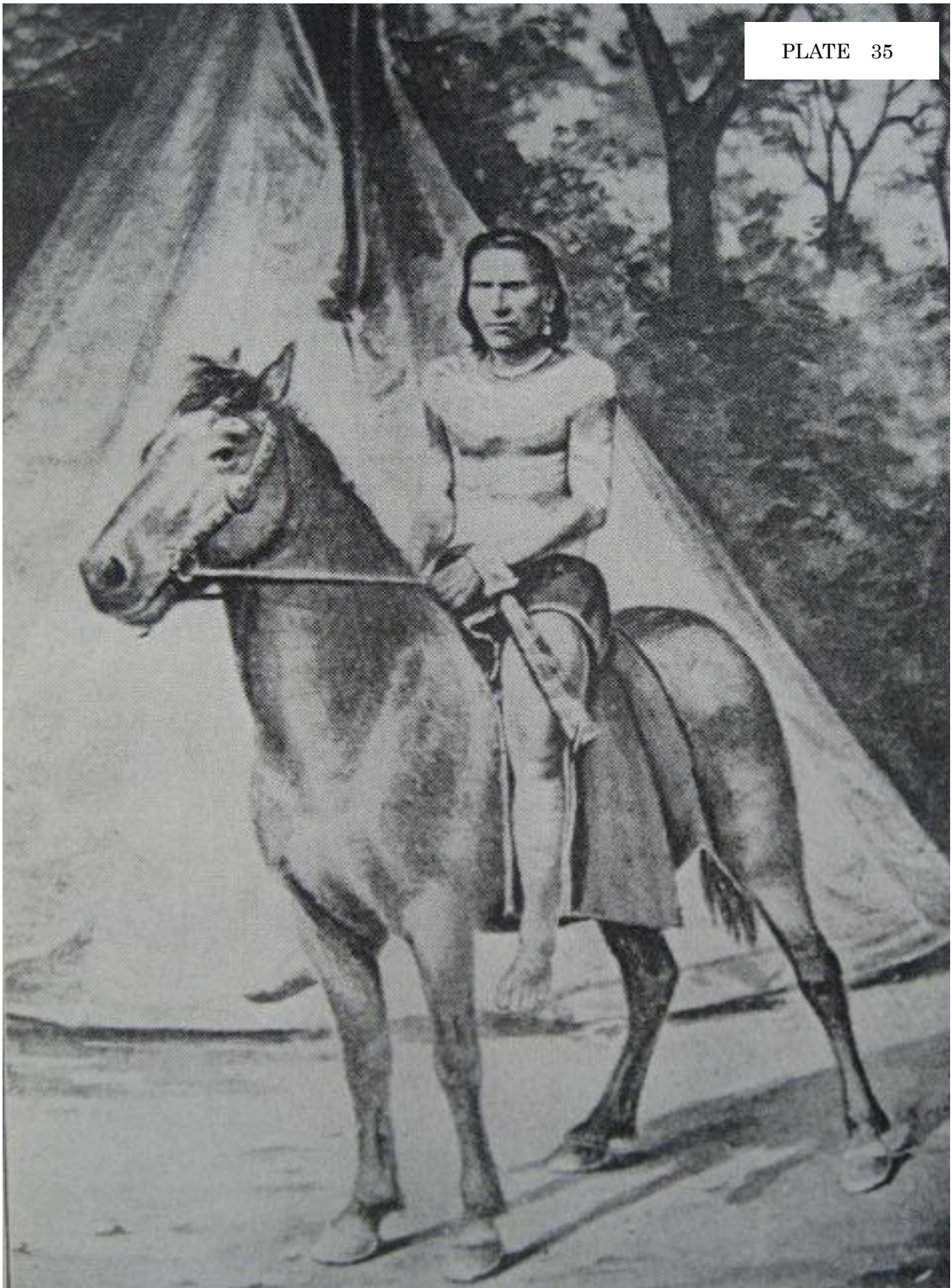
A'hi ⁿ weti ⁿ	A'hi ⁿ 、羽 ; weti ⁿ 、打つ
Çi ⁿ deçiçnu.....	Çi ⁿ 'de、尻尾 ; çiçnu、引っ張る
Çi ⁿ wano ⁿ zhi ⁿ	意味不明

Çni'tithon.....	Çni、冷たい ; <i>tithon</i> 、やってくる
Ihon'ugine.....	<i>Ihon'</i> 、母 (話題となっている) ; <i>ugine</i> 、彼のために探し求める 母親を解体処理したものの後を追っているバッファローの子牛に ちなんだものむ
Kaxe'axube.....	<i>Kaxe'a</i> 、爪 ; <i>xube</i> 、神聖な 鳥の象徴的な表現にちなんだもの
Kon'çepa.....	<i>Kon'çe</i> 、オマハ族の血族集団の名前の一つ ; <i>pa</i> 、頭 古い名前
Mika'ezhinga.....	<i>Mika'e</i> 、星 ; <i>zhinga</i> 、ちいさな
Sha'nugahi.....	意味不明 (<i>Thi'xida</i> 、ポンカ族)
Te'monthin.....	<i>Te</i> 、バッファロー ; <i>monthin</i> 、歩き回る、放浪する (<i>Pon'caxi</i> , <i>Mon'kon'</i> 準分族、ポンカ族)
Te'pezhi.....	<i>Te</i> 、バッファロー ; <i>pezhi</i> 、 <i>piazhi</i> から、悪い
Tezhi'ga.....	<i>Te</i> 、バッファロー ; <i>zhin'ga</i> 、ちいさな (<i>Washa'be</i> 、ポンカ族)
Ti'shinuxa.....	<i>Ti'shi</i> 、テントの支柱 ; <i>nuxa</i> 、広がっている (<i>Washa'be</i> 、ポン カ族)
Uhon'gemonthin.....	<i>Uhon'ge</i> 、一つの列のおわりに ; <i>monthin</i> 、歩いている (<i>Nu'xe</i> , ポンカ族)
Uhon'genon'zhin(pl.35)...	<i>Uhon'ge</i> 、一つの列のおわりに ; <i>non'zhin</i> 、立っている (<i>Nu'xe</i> , ポンカ族)
Uki'paton.....	転がっている この名前には二つある (<i>Pon'caxi</i> , <i>Mon'kon'</i> 準分族、ポンカ族)
Wa'baçkaha.....	意味不明, この名前には二つある。
Wa'ino'zhin.....	<i>Wa'i</i> 、彼等のうえに ; <i>non'zhin</i> 、立つ おそらく、儀礼的に バッファローの群に近づいて行ったときの狩人の最後の終わりに ちなんだもの この名前には二つある。 (<i>Washa'be</i> 、ポンカ族)
Wakon'ha.....	意味不明 この名前には二つある

Wanon'pazhi.....	<i>Wanon'pa</i> 、恐れる ; <i>zhi</i> 、 <i>onkazhi</i> から、でない 何も怖いのは 無い この名前には二つある (<i>Ni'kapashna</i> 、ポンカ族)
Wati'thakuge.....	意味不明
Wazhi'gthedo.....	<i>Wazhi'</i> 、意志の力 ; <i>gthedo</i> 、鷹 よく Angry Hawk と訳され ている

Dream names

Mon'a'zhinga.....	<i>Mon'a'</i> 、土手 ; <i>zhinga</i> 、小さな (<i>Thi'xida</i> 、ポンカ族)
Mon'çedo.....	<i>Mon'çe</i> 、金属 ; <i>don</i> 、所有する この名前には二つある (<i>Washa'be</i> , ポンカ族)
Mon'sho'çka.....	<i>Mon'sho</i> 、羽 ; <i>çka</i> 、白い (<i>Ni'kapashna</i> 、ポンカ族)



UHO'GENOZHI

Noⁿ'katu..... Noⁿ'ka、後ろに; tu、青い ハイタカにちなんだもの (Ni'kapashna, ポンカ族)

Waaⁿ'..... Waaⁿ'、歌う (Wazha'zha, ポンカ族)

Female names

Gi'donabe..... 意味不明

Mi'gthedoⁿwin..... Mi、月; gthedoⁿ、鷹; wiⁿ、女性言葉 この名前には六つある

Mi'gthitoⁿin..... Mi、月; gthi、戻ってくる; toⁿin、新しい 新しい月、あるいは、
回帰してきた月にちなんだもの

Mi'hewin..... Mi、月; hewin、ちょうどカヌーのように、水平線の上にいる出てきた
ばかりの月.

Mi'hezzinga..... 小さな月 この名前には二つある

Mon'shibathiuⁿ..... 高く上っていく ワシにちなんだもの

Noⁿ'gthece..... Noⁿ、足でする行動; gthece、大地の上に線で描いた軌跡 バッファ
ローの子牛の足跡にちなんだもの

Tecon'win..... Te、バッファロー; coⁿ、青白い、あるいは、白い; wiⁿ、女性言葉
神聖な White Buffalo Hide にちなんだもの

Ugi'nemonthin..... Ugi'ne、彼のために探す; monthin、歩き回る 彼の母親を探し回
る Ihoⁿ'ugine に相当する女性言葉

INSHTA'ÇUNDA 血族集団 (10)

この血族集団の名前は、次のように訳されている古い言葉から来たものである: *iⁿshta'* “目;” *çuⁿda*、“閃光を出す。”この言葉は、稲妻にちなんだものであり、この血族集団に委ねられていた儀式は、天界の力、これは、Wakoⁿ'da が人間の命と死を制御している力を象徴しているものであるが、その力として雷と稲妻とに関連したものであった。この血族集団の名前は、*hu'thuga* の半分のものに与えられた—その半分は、全世界のなかで大地の人たちとともに、人間たちに誕生をもたらす、天界の人々を代表する人たちであった。(p. 135 を参照)

現在では、この血族集団には、一つの準血族集団と Nin'batoⁿ の準分族以外には存在していない。もともとは別の準血族集団がいたが、しかし、その役割を担っていた儀式は無くなろってから久しく、この準血族集団も崩壊してしまった。そうした崩壊がどんな形で起こってきたかという例は、今日の Nini'batoⁿ 準分族の姿にみることができるであろう。前世紀の間、Nini'batoⁿ は、わずかたった一家族のみとなってしまった;そして、その家族の中でも、現在では一人の生存者がいるだけであるし、彼には、一人の息子がいるに過ぎな

い；もし、この息子に子供ができないとするなら、彼が死んでしまうと、その死に伴い、この準分族は消滅してしまうことになる。過去において、準分族がその特有な儀式を消失させてしまうと、そして、彼らが死んでしまうと、その部族の生き残りの者は、血族集団の中の最も近い親戚の集団に統合されてしまい、激滅してしまった。*Insh̥ta'çunda* の中でこうした変化が起きていたことが、その名前から伺いしることができる。以前は、部族のなかの血族集団と同じように準血族集団の間で、明確な区分の線があったように思われ、そして、そのそれぞれがその血族集団とか、準血族集団に委ねられた儀式に直接ちなんだような名前を持っていた。おそらく、1883 年、ここで示すような名前が収集された時であるが、その時に、それぞれの血族集団は、なおもその特徴的な *ni'kie names* に執拗に執着していたが、すでに、崩壊により準血族集団の名前の使用の中でのあいまいさが行き渡っていた。

かつては *Insh̥ta'çunda* の血族集団のなかには二つの準血族集団、その一つは大地にちなんだもので、もう一つは空にちなんだものが存在していた。ちょっとだけ考察すると、これらの二つの儀礼は無関係によにも見えるが、しかし、実際は、それらはお互いに深い関係を持ち、部族の組織の中に表現されている基本的な考え方、そのものを形成していた。その名前と同じように大地の準血族集団に維持されていた儀式はすでに喪失しており、こり血族集団を構成していた人々は生き残ったほかの血族集団の中に取り込まれてしまった。後者の準血族集団の名前の意味と、そして、その儀式の重要性からすると、もともとはここに属していたこれらの名前ばかりでなく、喪失した大地の準血族集団の儀式ともかつては関係していたこうした名前を確認することが可能であるかも知れない。この結びつきのなかで、現在、全体の血族集団の持っているタブー(虫、昆虫など)が、今、現存している準血族集団の儀式よりも、むしろ、なくなってしまった準血族集団の喪失した儀式に関係していると確認できること、そして、これらの二つの準血族集団の儀式の間に存在している相関関係を目を投げかけるような事実はとても興味深いものがある。現存している準血族集団と、彼らを取り仕切っている儀式は、空の準血族集団に結びつくものであり、そして、究極的にこの大地を肥沃にするような力と関係している。この力は、雷や稲妻を伴う嵐の雲から降ってくる雨により特徴づけられるもので、この大地を生み出すもととなっている。そして、その大地の反応は、あふれるほどの虫や昆虫、そして、この大地の地下に生息している小さな生き物により象徴されている。ここに、天界からのこの大地を肥沃にする力の結果の証拠、あるいは、象徴となるものがあつた。伝説によれば、これらの喪失した準血族集団の儀式のなかで使われていた象徴の一つは、赤(命の色)く彩られたあざであつた。

生き残った準血族集団は、*Washe'to*ⁿ と呼ばれている。接頭語の *wa* は目的を持った行動を表し；*she* は *shie* から来た言葉で、子供に与えられる血族集団の言葉 (*shie'ath̥i'kithe*, が “子供をもうける、” そして、*shie'githe*, “子供を養子にする”) ；*to*ⁿ は、“もつ” あるいは、“持つようになる” という意味を持っている。したがって *Washe'to*ⁿ という言葉は、

“子供を持つような行動”という意味になる。この準血族集団に付随している儀式を通して、子供たちの生命は、雷とか稲妻に象徴されるような、生命を与えてくれる力に神聖なものであると宣言され、その両親に与えられるような親子の単純な関係から抜け出て、いわゆる、部族の一員として生まれ代わっていた。こうした、子供の神聖なものであるとの宣言の儀式、並びに、部族の一員として参入していくなかで執り行われていた儀式に関係した詳しい説明は先に述べたとおりである。(p.117)

子供が生まれて四日目に、名前が与えられ、もし、その子が男の子であれば、その赤ん坊のおなかのところにワイルドキャットの爪の飾りのついたベルトがまかれた。星々と新しく生まれた子供に見立てて、このワイルドキャットの皮膚と、小鹿の皮膚の持つ重要性とこれを使うことが、男らしさ(父)の要素である空を見立てた **Tapa'**の血族集団の、今ではなくなってしまった星の儀式と結びついた形で説明されていた。もし、子供が女の子である場合には、彼女には、イガイのネックレスが飾られた。ここでもう一度、この貝と水との関係、つまり、天空から母なる大地にものを運んでいる力の実態としての水との関係を考察してみる必要がある。このように幼児の体の上に象徴的な飾り物を与えるということは、部族の保存と、そして、子供たちを通して命の永続を祈祷師に委ねたのであった。

この血族集団のなかの **Nini'baton** という準分族の形成に関しては不思議な言い伝えが在る。今日の形に部族の組織が固まった時、すなわち、この家族の集団が選ばれてパイプが彼等に委託された時、彼等はそれを拒んだ。彼等の酋長は、こう言っている；“私は、正義のすべてを象徴しているこのパイプを保管するに値しない。私は、流浪の民であり、血で汚れた人間だ。だから、この神聖なる品物を血で汚すことになるだろう。どうか、それを引き取ってほしい。” こうして、三度ほど要請が行われ、そして、三度ほど辞退された；そして、四度目にこのパイプは彼等の手元にとどまることになり、それを持ってきた老人が帰って行った；しかし、その家族はそのパイプを、たくさんの贈り物を添えて返却した。なぜなら、彼等はそのパイプを受け入れることにより彼等の上に課せられる責任を負うことを恐れたからであった。しかし、彼等は再度抗議をされることとなり、パイプとそれにともなう義務がすべて最終的に彼等に受け入れられた。こうした義務は、この部族を取り仕切っている **Council of Seven Chiefs** の一員となるばかりでなく、酋長の就任とか、これらと同じように重要な部族の行事が執り行われる時のように、部族の持っている二つの神聖なるパイプが儀礼の目的を全うする時に使われる儀式の暗唱ごとを保存したり、それを朗読するというようなことから成り立っていた。この儀礼の暗唱は、タバコを吸うために

a 彼はそれを、彼の息子がかなり神経質だったために、彼からそのことを与えることに、差し控えるようにしていた。彼は、その年以後、若いものは、役所が安全に信用されるようになることが重要であり、静かで落ち着いた者になることができると考えていた；しかし、その老人が、彼の神聖なる仕事をかれの息子に引き継いで、満足する前に、かれは死んでしまった。彼が死んでから、その神聖なる部族のパイプは二度と儀式でその役割を果たすことが無くなった。その息子は、際だって落ち着いた心の持ち主ではあったが、ユーモア豊かな素晴らしい、信用のおける人間になった。

それをパイプに詰める時に、欠くことのできないものであった。この儀式は今日ではすでに取り戻すことのできないほどに喪失してしまった。その最後の保管者が Mon'hiñci であった。彼は、その儀式に関する知識を誰にも伝えることなく、1850 年ころに亡くなった。A

この儀式の実際の意味合いを学ぶことは不可能であったが、しかし、拾い集めることのできた極僅かの情報からすると、それは、その神聖なるパイプとそれらの儀式の発展の歴史であるように思われた。それを聞いたという老人は、そのことについて話すにはあまりにも、神掛かったものと思っていた。

Nini'bato^a の準分族は、たった一人の者しかいなくなった時に、すぐにこの喪失した儀式の内容を調べるように指示した。

成長していたトウモロコシが、バッタやそのほか作物を食い荒らす昆虫により襲われた時に、その荒らされた農場の持ち主たちは In'shta'çunda の血族集団に助けを求めた。祝宴が開かれ、ここに、トウモロコシの保護を儀式で祈願する世襲的な権利を持った人々が招待された。一人の若者がバッタなり昆虫を捕獲するために指導を受けて、その被害にあっている農場に行かされた。戻ってくると彼はその昆虫を指導者に差し出し、その指導者はその昆虫の羽の片方をむしり取り、体の一部をちぎっていた。そして、それを食べるように餌の入った瓶の中に放り込んだ。

全体の儀式は、祈祷師の刺激的な形態をしていた。祝宴は、たくさんの食料の収穫を訴えることを象徴するものであった；羽をちぎり、そして、その体の一部を餌の入った容器に入れたが、こうした行為は、昆虫たちが本来与えられた力を失い、そして、トウモロコシを荒らすことができなくなるという願いをかけることであった。この後の方の行動は、その部分的なものが全体と生きた関係にあるということを感じていることの証拠であった；したがって、羽の一部は成長の過程で食料を必要とするあらゆる昆虫と密接な関係を持っていると考えられ、その体をちぎったり、分裂させたりすることは、そうした類のあらゆるものに対して有効であると考えていた。

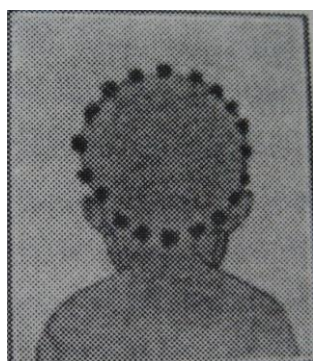


Fig. 42 In'shta'çunda
血族集団の子供の髪型

この儀式、すなわち、消えた準血族集団に維持されていた儀式が復活されたものと思われるが、これは必ずしも正確に伝えられたものではなく、多分に誤解されたものがある。ただ、むしられた羽の一部は、儀式で供される祝宴の食事にとりいれられていた。ほかの生き物とか、あるいは、昆虫のほかの部分、こうした目的で使われることはなかった。

hu'thuga では、この消えた血族集団(a)の場所は、Ingthe'zhie の左隣であった；その次に、Nini'bato^a の準分族(b)が位置し；その次に Washe'to^a(c)；この最後の名前の準血族集団が、この部族の中 In'shta'çunda 分属の列の一番東に位置する形になっていた。

タブー：この血族集団全体に、いかなる形ではあっても、はえまわる昆虫、虫、蠕虫^a、並びに、小さな生き物に触れることを禁止されていた。

髪の毛の切り方の特徴は、いくつか小さな髪の毛の塊を頭のまわりに沿って残し、そのほかは剃りあげていた(fig. 42) が、これらは、たくさんある昆虫を象徴していると言われている。

INSHTA'ÇUNDA 血族集団の個々人の名前

Nini'batoⁿ 準分族 (b)

Ni'kie names

Gahi'pethoⁿba..... *Gahi*, *gahige*, 酋長 から ; *pethoⁿba*, 七つの オマハ族が再組織された時の七人のもとの酋長にちなんだもの



Fig. 43 Teu'koⁿha

Hoⁿ'gashenu..... *Hoⁿ'ga*, 指導者 ; *shenu*, 若者(*Kawa'ha* の血繋がりの兄弟 ; 今はポウニー族と一緒に住んで居る) (*Wazha'zhe* ポンカ族)

Kawa'ha.....意味不明
 Mo'nhi'çi..... *Mo'nhi'*、石のナイフ；*çi*、黄色の
 U'kiça.....人の住まなくなった、住居として

Dream names

Mo'chu'waxe..... *Mo'chu'*、グリズリー熊；*waxe*、工作者
 Teu'konha (fig.43)..... *Te*、バッファロー；*u'konha*、一人で；冬に、一匹で居残って
 住んで居るオスのバッファローにちなんだもの

Borrowed names

Ushka'dewakon.....ダコタ族の名前

Derisive names

Wazhe'thing..... *Wazhe'*、緯度；*thinge*、何もない（*Wazha'zhe* ポンカ族）

Femanle names

Mi'gthito'n.....新しい月の回帰
 Mi'mon'shihathi'n.....上に登っていく月
 Mi'monthi'n..... *Mi*、月；*monthi'n*、歩いている、移動している；天を横切っていく
 月の動きにちなんだもの これには二つの名前がある
 Mi'texiçi..... *Mi*、月；*texi*、神聖な；*çi*、黄色の この名前には三つある
 Mon'shadithi'n..... 上に向かって動いていく者。
 Ton'ingi..... *To'n*、新しい；*gi*、やって来る。月にちなんだもの。この名前
 には二つある。
 We'to'na.....意味不明 二つの名前がある。（*Thi'xida* ポンカ族）

Washe'to' (owners of the children) 準分族 (c)

Ni'kie names

A'thiude.....一人で残された。放棄された
 Athu'hage..... 人間や動物の縦列のなかで最後のもの（*Wazha'zhe* ポンカ族）
 Chu'nthi'shkamo'nthi'n... *Chu'n*、意味不明、おそらく丸太の意味；*thi'shka*、昆虫；
monthi'n、歩いている。この名前には二つある
 Edi'to'..... *Edi*、そこに；*to'*、立つ
 Ga'gigthethi'n..... *Ga*、遠くに；*'gigthe*、家に向かっている道；*thi'n*、動くこと
 雷にちなんだもの。この名前には二つある
 Gahi'in'shage..... *Gahi*、酋長；*i'n'shage*、年老いた
 Ha'shimon'thi'n..... 縦列のなかで最後に歩いていく。この名前には二つある。（*Thi'xida*
 ポンカ族）
 Heba'a..... *He*、角；*ba'a*、朽ち落ちる
 Heba'çabazhi..... *He*、角；*ba'çaba*、破片、とげ；*zhi*、*onkazhi*、否定 歳から
 まだギザギザのついていない角にちなんだもの

Heçon'nida.....	<i>He</i> 、角； <i>çon</i> 、白い、または、青白い； <i>nida</i> 、神秘的な動物（ <i>nida</i> についての注釈を参照 p194）
He'shathage.....	<i>He</i> 、角； <i>shathage</i> 、枝分かれした。 エルクにちなんだもの（ <i>Thi'xida</i> ポンカ族）
Hon'donmonthin.....	<i>Hon</i> 、夜； <i>don</i> 、～する時に、時に； <i>monthin</i> 、歩いている。雷にちなんだもの
Hu'ton ⁿ	<i>Hu'ton</i> 、騒音； <i>ton</i> 、立つ 彼が立つときに吼えること（雷にちなんだもの） 二つの名前がある
I'bahonbi.....	<i>I'bahon</i> 、知る； <i>bi</i> 、彼は～である 彼は知られている。 酋長の息子にちなんだもの（ <i>Ni'kapashna</i> 、ポンカ族）
I'gado ⁿ ne.....	前出のものと同じ
I'gado ⁿ tha.....	おそらく、風で吹かれてきた雲にちなんだもの
In'ke'tonga.....	<i>In'ke</i> 、肩； <i>tonga</i> 、大きな これには二つの名前がある（ <i>Pon'caxti</i> , <i>Mon'kon'</i> 準分族 ポンカ族）
Insha'gemonthin.....	<i>Insha'ge</i> 、年老いた男； <i>monthin</i> 、歩きまわる。 雷にちなんだもの（ <i>Nu'xe</i> 血族集団、ポンカ族）
Insha'txi.....	<i>Insha't</i> 、目； <i>xi</i> 、黄色を帯びた 稲妻、“雷の黄色の目”にちなんだもの
Ka'etha.....	<i>Ketha</i> 、済んだ空 嵐の後の
Ki'mon ⁿ ho ⁿ	風に向かって、あるいは、風の方を向いて 二つの名前がある（ <i>Wazha'zhe</i> ポンカ族）
Ku'zhiwate.....	<i>Ku'zhi</i> 、遠くに； <i>wate</i> 、勇敢な行動 広く知られていた勝利
Ma'çikide.....	<i>Ma'çi</i> 、ヒマラヤ杉； <i>kide</i> 、撃つ 雷がヒマラヤ杉に落雷した神話にちなんだもの（ <i>Wazha'zhe</i> ポンカ族）
Mon'a'gata.....	<i>Mon</i> 、矢； <i>a'gata</i> 、狙いを定める
Mon'hi ⁿ duba.....	<i>Mon'hiⁿ</i> 、石のナイフ； <i>duba</i> 、四つの 子供の髪の毛を切り、雷に生贄を差し出す時に使われた儀式を執り行い続けてきた人たちのうちの一つの名前 この名前を伝えてきた人は、1884年に亡くなった。
Mon'shi'ahamonthin..	<i>Mon'shi'aha</i> 、上に； <i>monthin</i> 、動く（ <i>Thi'xida</i> ポンカ族）
Mon'xpi.....	雲 この名前には二つある
Mon'xipi'monthin.....	<i>Mon'xip</i> 、雲； <i>monthin</i> 、歩いている この名前は、1826、1836年にオマハ族の酋長たちが結んだ協定のなかに出てくる。
Paga'sho ⁿ	<i>Pa</i> 、頭； <i>ga'shoⁿ</i> 、うなづく 歩く時に頭をうなづくように動かしている昆虫にちなんだもの

Sheda'moⁿthiⁿ..... *Sheda*、意味不明；*moⁿthiⁿ*、歩くこと 1826 年の協定のなかに出てくる

Shaugi'shugi.....意味不明

Te'bi'a.....蛙

Thigthi'çemoⁿthiⁿ..... *Thigthi'çe*、ジグザグに光ること；*moⁿthiⁿ*、歩くこと（*Wazha'zhe* ポンカ族）

Thion'bagigthe..... *Thioⁿ'ba*、稲妻の一般的な呼び名；*gigthe*、そばを通り過ぎる、家に戻る道で（*Washa'be*, *Hi'çada* 準分族、ポンカ族）

Thion'bagina..... *Thioⁿ'ba*、稲妻；*gina*、やって来る この名前には二つある

Thion'batigthe..... *Thioⁿ'ba*、稲妻；*tigthe*、突然の（*Washa'be*, *Hi'çada* 準分族、ポンカ族）

Ti'gaxa..... *Ti*、テント、あるいは、村；*gaxa*、こっそりと こっそりと村に忍び寄る戦士の姿のような雷にちなんだもの

Ti'uthioⁿba..... *Ti*、テント；*u*、中に；*thioⁿba*、稲妻が光る 小屋のなかに稲妻の光が差し込んでくること（*Washa'be*, *Hi'çada* 準分族、ポンカ族）

U'baniⁿ..... *U*、中に；*ba*、押すこと；*niⁿ*、掘ること 大地を掘ること 雷が鳴ると大地のなかに姿を消してしまう小さな亀やトカゲにちなんだものと言われている

Uçu'gaxe..... *Uçu*、道；*gaxe*、作る 指導をしている人にちなんだもの（オセージ族の血族集団 *Wazha'zheçka* の準分族の名前、ポンカ族の *Wazha'zheçka* 血族集団にもある）1815 年のオマハ族の協定に出てくる

Uha'moⁿthiⁿ..... *Uha*、くぼみのなかに；*moⁿthiⁿ* 歩くこと 谷や川の流れに沿ってやってくる雷雨にちなんだもの

Usha'demoⁿthiⁿ..... 、中に；、霞；、歩くこと

Wagi'asha.....意味喪失（*Wazha'zhe*、ポンカ族）

Waha'xi..... *Waha*、肌；*xi*、黄色の（*Washa'be*、ポンカ族）この名前には二つある

Wa'hutoⁿtoⁿ..... *Wa*、目的を持った行動を規定する前置詞；*hutoⁿ*、騒音；*toⁿ*、立つ（*Hu'toⁿtoⁿ* を参照）

Wanoⁿkuge(fig.44).... *Wa*、行動のなかの目的；*noⁿ*、足で行う行動；*kuge*、ドラムの響き 1854 年と 1865 年のオマハ族の協定のなかに出てくる

Washa'ge.....爪。ワイルドキャットの爪にちなんだもので、世襲的に保管されていて、その血族集団により取り仕切られた儀式のなかで使われていた。

Washe'toⁿzhinga..... *Washe'toⁿ*、この準分族の名前；*zhiⁿga*、小さな



Fig. 44 Wanon'kuge

Washe'zhi^{ga}..... *Washe*、*Washe'toⁿ*の省略形；*zhiⁿga*、小さな

Washkoⁿ'hi..... *Washkoⁿ*、強さ 雷にちなんだもの （*Wazha'zhe*、ポンカ族）

Wazhiⁿ'çka..... *Wazhiⁿ*、意志、気持ち；*çka*、白い 知恵 （*Thi'xida*、ポンカ族）

Washiⁿ'oⁿba..... *Washiⁿ*、意志の力、エネルギー；*oⁿba*、日 よく、“怒り狂った、あるいは、暴れ狂う日”とも訳された、雷雨と稲妻の嵐の日のこと。

We'ç'a..... 蛇。 （*Wazha'zhe*、ポンカ族）

We'ç'ahonga..... *We'ç'a*、蛇；*honga*、指導者 （*Wazha'zhe*、ポンカ族）

We'çazhiⁿga..... *We'ç'a*、蛇；*zhiⁿga*、小さな これには二つの名前がある （*Wazha'zhe*、ポンカ族）

Wi'ukipae..... 意味不明

Valor names

Ku'e'the.....突然に前方にすすむ。 この名前は、手斧だけでスー族の大群の中に突進していったので、その男に授けられたもの

Waba'açe..... *Wa*、*waan'*、さまざまな行為；戦果をおさめて戦闘集団は、*waan'*と呼ばれてもいた；*ba'açe*、戦いに臨む、怖がらせる。 この名前は、ダコタ族との戦いの間に、自分の手足が麻痺しているにも関わらず、その相手を殺した者に勝ち得られたものであった。 （*Waxha'zhe*、ポンカ族）

Waiⁿ'washi..... *Waiⁿ*、運ぶ；*washi*、誰かのために何かしてあげるように他人に頼む

Wanoⁿ'shezhiⁿga..... *Wanoⁿ'she*、軍人；*zhiⁿga*、小さな。 （*Waxha'zhe*、ポンカ族）この名前には二つある—その一つは、*Nini'batoⁿ*準分族のなかのもの

Dream names

Oⁿ'poⁿwahi..... *Oⁿ'poⁿ*、エルク；*wahi*、骨

Shoⁿ'geon'ça..... *Shoⁿ'ge*、馬；*uⁿça*、*uⁿçagi*アマツバメ から

Wa'shiⁿnixa..... 獣—バッファロー の胃のまわりについている脂肪の層

Names taken from incidents or historic experiences

Çithe'dezhiⁿga..... *Çithe'de*、かかと；*zhiⁿga*、小さな （*Waçabe*、ポンカ族）

Nibtha'çka..... *Ni*、水；*btha'çka*、平らな オマハ族は、Platte 川をこの名前で呼んでいた。ネブラスカは、*Nibtha'çka*のなまったもの

Tahe'gaxe..... *Ta*、鹿；*he*、角；*gaxe*、枝

Toⁿ'woⁿpezhe..... *Toⁿ'woⁿ*、村；*pezhe*、悪い。 何人かの者を毒殺した男に対して与えられた呼び名と言われている。この名前は、雷が人々を殺す命令を出していると言われた雷村にちなんでつけられた名前と

も言われている。

- U^hon^zhi^{ng}a..... U^hoⁿ, 料理する ; zhi^{ng}a, 小さな この名前には二つある—
一つは Nini[’]batoⁿ 準分族のなかのもの 1826 年のオマハ協定の
中に出てくる (Waçabe, ポンカ族)
- Une[’]cezhi^{ng}a..... Une[’]ce, 囲炉裏 ; zhi^{ng}a, 小さな

Names borrowed form cognate tribes, modified or unmodified

- Noⁿxe[’]wanida.....ダコタ族の名前
- Thion[’]baçka..... Thioⁿ’ba, 稲妻が光る ; çka, 白い これはダコタを意味する
Wakiyaⁿska, からきている名前と言われている。
- Waxtha[’]thutoⁿ.....オトー族の名前

83993° — 27 ETH—11—13

Female names

- Çiçin[’]kawate..... Çiçin[’]ka, 七面鳥 ; wate, 勝利
- Hu[’]toⁿwin..... Hu[’]toⁿ, 騒音 ; win, 女性言葉の結語 雷にちなんだもの
- In^shta[’]çon[’]win..... In^shta, 目 ; çon, 白い、または、青白い ; win, 女性言葉の結語
この名前には二つある
- Mi[’]asheton..... Mi, 月 ; asheton, 終わり 青白い月.
- Mi[’]gthitoⁿin..... Mi, 月 ; gthi, 回帰してくる ; toⁿin, 新しい 新しい月に戻るこ
と この名前には四つある— その一つは、Nini[’]batoⁿ 準分族の
なかのもの (Washa[’]be 並びに Thi[’]xida, ポンカ族)
- Mi[’]huça..... Mi, 月 ; huça, 大きな声
- Mi[’]mon[’]shihathiⁿ..... Mi, 月 ; mon[’]shiha, 上に ; thiⁿ, 動く この名前には五つある
—その一つは、Nini[’]batoⁿ 準分族のなかのもの
- Mi[’]on[’]bathiⁿ..... Mi, 月 ; on[’]ba, 日 ; thiⁿ, 動く この名前には三つある (Thi[’]xida,
ポンカ族)
- Mon[’]shadithiⁿ..... 上に動いていくもの。 雷にちなんだもの この名前には六つある
— その一つは、Nini[’]batoⁿ 準分族のなかのもの (Washa[’]be 並
びに Thi[’]xida, ポンカ族)
- Ni[’]dawin..... Ni[’]da, 神秘的な生き物 ; win, 女性。 この名前には六つある ^a
- Ni[’]kano[’]zhiha..... Ni[’]ka, 人 ; no[’]zhiha, 人間の髪の毛 この名前には三つある
- Noⁿ’xtiçewin..... 意味不明
- On[’]bathagthiⁿ..... On[’]ba, 日 ; thagthiⁿ, 素晴らしい この名前には二つある
- Toⁿ’ingina..... Toⁿ’in, 新しい ; gi, やって来ること ; na, する人 象徴的に月
にちなんだもの この名前には三つある (Ni[’]kapashna,
ポンカ族)
- Toⁿ’ingthihe..... Toⁿ’in, 新しい ; gthihe, 突然に戻ってくる 新しい月の突然の

出現 この名前には三つある
Ton'inthin..... *Toⁿin*、新しい；*thin*、動いていくこと 天頂に動いていく新しい月にちなんだもの この名前には三つある

前述のオマハ族の血族集団についての詳しい説明に続き、この部族の組織についての突出した形を簡単に要約することは、読者には有益なものであろう。

五つの血族集団が、この *hun'ga*、もしくは、部族の円陣の南の半分を形成していた。こうした集団は人々の物理的な資産の管理をしていた。*We'zhinshte* の血族集団は、戦闘のための神聖なるテントの維持管理と、春先の最初の雷と関連した儀式を執り行う責任を持っていた。こうした儀式は、もはや使われることのなくなり、今ではかろうじて残っているにすぎないが、一神聖なる貝殻やヒマラヤスギの杖といったものと関連した古い儀式の一部を形成していたものと思われる。エルクは、*We'zhinshte* の血族集団にはタブーであり、エルクの関わる儀式がオセージ部族の戦闘と関連していたことは注目すべきことである。（p61.の *Ceremony of Adoption* を参照） そのほかの四つの血族集団は、*Hoⁿ'ga* の血族集団のもとで、食料の確保に関連した仕事と儀式を取り仕切る責任があった。この血族は、その名が示すように、指導的な役割を持った血族で、二つの神聖なるテント：一つは、*White Buffalo Hide* を保管するものであったが、この保管管理をしていた。それを保管し、管理しているものは、穀物の栽培と、バッファローの狩りの時に実施される儀式を執り行っていた。もう一つのテントには神聖なる杖が保管されていた。そして、その管理者は、部族の統括をする酋長としての權威を維持することに関係した儀式の執行者であった。ほかの部族から守ること、部族のなかの平和を維持すること、食料や衣類を確保すること、こうしたものが、*hu'thuga* の *Hoⁿ'gashebnu* という半数の人たちからなる血族集団の責任で執り行われる儀式に委ねられていた。

部族の作る円陣の北側半分に位置していた五つの血族集団が、創造の世界、星の世界、そして、生命にかかわる宇宙の力の表現に関係した儀式を執り行う者たちであった。*In'shta'cuⁿda* 血族集団の責任であった、最後に名づけられたこうしたもの以外は、こうした儀式のほとんどすべてが、喪失してしまった。こうしたものは、子供が大宇宙(p.115 参照)に導かれた儀式、子供は、そこに導かれ、そして、部族の中で責任を持つ(p.117 参照)こととなるわけだが、その儀式、並びに、二つの神聖なる部族のパイプが、厳粛な部族の出来事で使われる準備ために執り行われる儀式にと継続された。何がオマハ族の実際の特徴

a *Nida* というのは、ある概念のなかでは、大地を出たり入ったり這い回っているある種のエルクのような神秘的な創造物であった。この言葉は、マストドンのような、すでに死に絶えた巨大な動物の名前にも付けられることがあった。像が最初にみられた時に、それは *Nida* と呼ばれ、その名前が今でもオマハ族、ボンカ族、並びに、オセージ族では使われている。

として見極められたものであるかという観点で、ただ単にこうした儀式が直接、部族の組織の維持と、そして、統治というものが、そのほかの儀式、これらは同様なものではあるが、しかしながら、部族の組織とはあまり密接な関係のないもの、こうしたものがだんだんと消え失せていく一方で、有効に、そして、しっかりと維持されてきたということを認識できることは非常に興味深いものがある。

統治的な組織ではないオマハ血族集団

部族の血族集団に関するこれまでの説明から、オマハ族という血族集団が統治的な組織ではなかったということが明白である。それは、それを構成している人々が、その集団が名前の由来となったり威光を求めたりするためによく知られた先祖の子孫であること主張したりすることのない、ラテン民族の血族集団とは異なっていた。しかしながら、そこには、一つの類似性があった。そして、この一つの類似性がゆえに、その名前の血族集団は、オマハ族の集団の一員であるとされた；いうなれば、通常の儀式の執行、そこにある共有された肩書というものが、ことごとく父親を通して継承されていたのである。この一点以外においては、類似性は全くないのである。オマハ族の父親の権威とか義務というものは、ローマ系の家族の家長に捧げられたような者とは全く対応していないのである。オマハの集団というのは、人々の間の結びつきというものが、名前とか威厳が氏族をほかの者から区別をするようなよく知られた先祖ではなかったし、世襲的に支配者が受け継がれていくような先祖でもなかったことから、一つの氏族であったわけではない。オマハの血族集団は、特別な儀式を実行していた部外結婚により成り立っていた一族の集団であった；そして、子供の相続権というものは、すべからず父親の側を通して、継承されていた；また、そうした儀式の象徴的な特徴は、血族集団の象徴とか、威厳、もしくは、“トーテム像”となったのである。こうして、オマハ血族集団、もしくは、準血族集団の政治的な、あるいは、統治的な酋長というものはいなかったが、しかし、さまざまな儀式の際に、血族集団のなかで責任を負った、儀式の維持・管理者、ないし、“僧侶的な役割を持った者”として、世襲的な権威を与えられた人たちがいた。オマハの血族集団、ここには、部族を形成している二つの大きな準分族がおり、そして、全体としての部族であるが、それぞれがみんな、ある種の土台となる宗教観と、儀式の中で生き生きと表現されているような信仰というものを表し、そして、それを実際に実行していた。

のちに、この部族が現在の形に認識された時に、人々の政治的な統治は、ある限られた酋長たちに委ねられていたが、しかし、彼等は、彼等の地位を政治的な統治者の代表者として彼等の血族集団から選ばれたものではなかった。

二つの基本的分族の相互関係

hu'thuga を見ながら、我々は Hon'gashenu 分族を構成している血族集団に帰属している儀式とか任務が、彼らの、“Earth peoples”の役務を裏付けているということを認めている。こうした血族集団に委ねられたあらゆる儀式とあらゆる任務が人々の物理的な資産と直接的な関係を持っている。生命と部族の財産の庇護者としての戦士と結びついた儀式というものは、We'zhinshte の血族集団、彼等の位置している場所は、方角的にみると、この分族の東のはずれであり、*hu'thuga* の開いた場所、もしくは、“扉”と言われたところの南側であったが、その彼等の任務であった。人々の食料の確保に関係した儀式—バッファローの狩り、穀物の栽培、育ったトウモロコシを鳥たちの害から守ること、そして、風や雨の害から守ること—こうしたことは、この分族のほかの四つの血族集団の責任となっており、それぞれの血族集団は、こうした儀式において独自の役割を持っていた。食料の確保に直接かかわるようなこれらの儀式に加えさらに、部族のなかにおける統治の権威と平和の維持に直接関わるような、これ以外の責務も帯びていた。統治に関する権威が Council of Seven Chiefs の会合の中で与えられる時には、この会議を招集する権利は、Hon'ga 血族集団の役割となった。そして、二つの神聖なる部族のパイプの保護管理が Inke'cabe の血族集団に委ねられた。こうしたパイプの存在と使用は、あらゆる権威ある行為の基本となるものであったが、しかし、Hon'gashenu 分族の誰一人、そこで使うパイプの準備をすることはなかった。このパイプの準備をするという任務は、すべからく In'shta'cu'nda の血族集団に属するものであった。したがって、パイプは使われる時には部族のものとなり、部族の両方の分族を象徴していた。

“Sky people”として話されている In'shta'cu'nda 分族は、超自然界の助けを求め、確保するこうした儀式の責務を持っていた。この分族を形成している血族に委ねられた儀式は、すべて、あらゆる生きているもの誕生とこの地球上での維持と結びついていた。それぞれの人間の生命とか死というものは、超自然界の力—侵略者を罰することのできる、そして、唯一、酋長たちの会議の言葉や行動に権威を与えることのできる力、で支配されているという信仰を確たるものとしている儀式は、この In'shta'cu'nda 分族に帰属していた。In'shta'cu'nda 分族の儀式や責務は、人々の社会や個人の生命に関わるときには、明らかに超自然界の力、創造的で、支配的な力ではあったが、それでも彼等は Hon'gashenu 分族の儀式や責務、彼等の役割には、人々が肉体的に良い状態にいることも含まれていたが、そうしたものには必要欠くべからざるものであり、かつ、基本をなすものであった。前者には、超自然的な裁可が与えられ、後者には、権威が与えられていた。そして、この地球上の動物や果物に対して有効に影響を与えていたばかりでなく、部族の統治力やすべての人たちの生命に等しく強い統制力を行使していた。このようにして、Sky people と Earth people が一つになることによって人間の民族、そして、そのほかのあらゆる生きとし生けるものが創造され、不滅のものにされているのだという信仰が部族の組織の中で単に象徴化されていたばかりでなく、この信仰は、その儀式、血縁関係の者たちのまとまりや、相互関係、そして、部族のなかのさまざまな出来事や儀式のなかで、この二つの分族に与え

られた職務などにより、人々の心の中に生き生きと、いつまでも持ち続けられた。取り仕切るものとして存在していたこの二つの分族抜きに、部族の儀式、合意、あるいは、相談事というのは何一つ実行されることはなかった；*Inshata'cuṇda* 分族からの一人の酋長と、*Hon'gashenu* 分族の二人の酋長の出席なしには議会はいかなる行動もとることが出来なかった。この結びつきの中で、一人のオマハ族の老人が言っている言葉が、これらの二つの分族からのこの代表が人々からどれだけ崇められていたかということに光を投げかけているのかもしれない。これはこのように言っていた；

“*Inshata'cuṇda* の人たちは偉大なる力の代表しており、したがって、この分族からは一人の酋長だけで十分であったが、一方、*Hon'gashenu* 分族からは二人が必要だったのだ。” 参加する酋長の数が等しくないことに対するこの素朴な説明は、白い人種の者が当然のように次のようを決断—もっと重要な分族は二人の酋長を代表として送るべきである—をしていたことの裏返しでもある。

かなり前の時代には、球技のようなゲームがこの二つの分族の若い者たちの間で儀式的に行われていた。その時代、そうした球技をすることが、*Kon'ce* の血族集団のなかの *Tade'ata*、あるいは *Wind* という準血族集団に属する者たちの責務であった。お互い直角に交差している二つの線を持つ円が平地に描かれて、その真ん中にボールがおかれた。

(fig.45) このボールは、最初、円の北の淵に向かってひかれた線に沿って転がされ、その後、その同じ線を辿って中心まで戻された。それから、ボールは円の東の淵の方に伸びた線に沿って転がされ、また、真ん中に戻された。次に、南に転がされ、また、同じ線に沿って真ん中に戻された。最後にボールは西の淵に向かう線に沿って転がされ、真ん中にもどされ、その後、ボールが空中に放り投げられ、ゲームが正式に始まった。この球技は、宇宙の重要性を持っていると言われ、最初のボールの動きは風、すなわち、命を運んでいるものにちなんだものであると言われた。そして、この球技は、大地と空を象徴している *hu'thuga* の二つの分族により行われていた。

hu'thuga の二つの分族の間の境界線は、部族の子供たちの間ではよく知られていて、誰一人、自分だけでこの境界線をあえて越えていくような少年はいなかった。どのような理由であったにしても、一人の少年が *Hon'gashenu* 分族から *Inshata'cuṇda* 分族の側に使い走りする時には、彼は、この境界線を越えようとするといつでも喧嘩になるために、彼は自分自身の側の血縁関係にある者たちの中から友人を選んで、彼と一緒にいかなければならなかった。この部族の年寄りたちは少年たちと一緒にあって喧嘩をするようによく言い聞かせていた一方で、この境界線を越えたこうした子供じみた争いが、両親や大人たちにより反

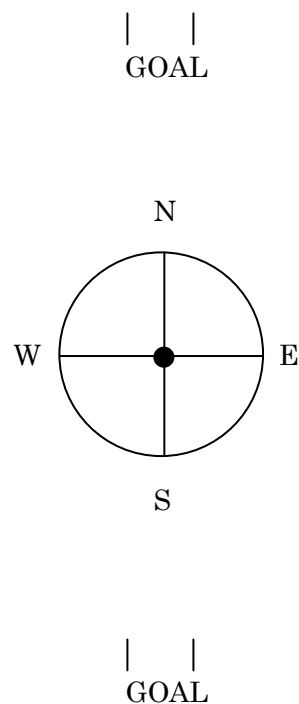


Fig. 45. ボールゲームの形

対されていなかったという事実はとても興味深いものがある。この習慣は、彼等の頭を刈りあげる時の特徴と同じように、目的をかなえるために貢献しようという気持ちの結果であったように思われる。彼等の頭を刈る特徴は、実証例のように、彼の遊び友達が属してい血縁関係集団の意識を、子供たちの心に印象付ける為に実施されていたと言われている。こうしたことが、その目的に貢献していたということが筆者らにより確認されていた。しばしば男がある特定のひとがどの血族集団に属しているのかと尋ねられた時に、彼は、一息ついて、こんな風に答えている；“私は、彼の髪がよくこんな風に刈られていたのを思い出すよ。だから、彼は、我々が少年だったころ、彼はきっと、——であっただろう。”その血族集団は、髪をこんな風な、特徴的な刈り方をしていたと説明しながら。はっきりとは描くことはできないが、*hu'thuga* の二つの分族を区別する線は、彼等が邪魔をされずに掴み合いをすることのできた、戦いをする線として子供たちにはよくわかっていた。そして、それぞれの子供たちは、彼自身が *hu'thuga* のどちらの側で、彼が自由に攻撃をでき、そして、どこで彼は、防御の立場で立たねばならないか、その分かれ目もよく知っていた。部外者と対比して、その戦いの中で、集団の者たちによりとられていた一つの分族のこうした習慣というものが、すでに言及してきた部族の言葉に側面から光を投げかけている。